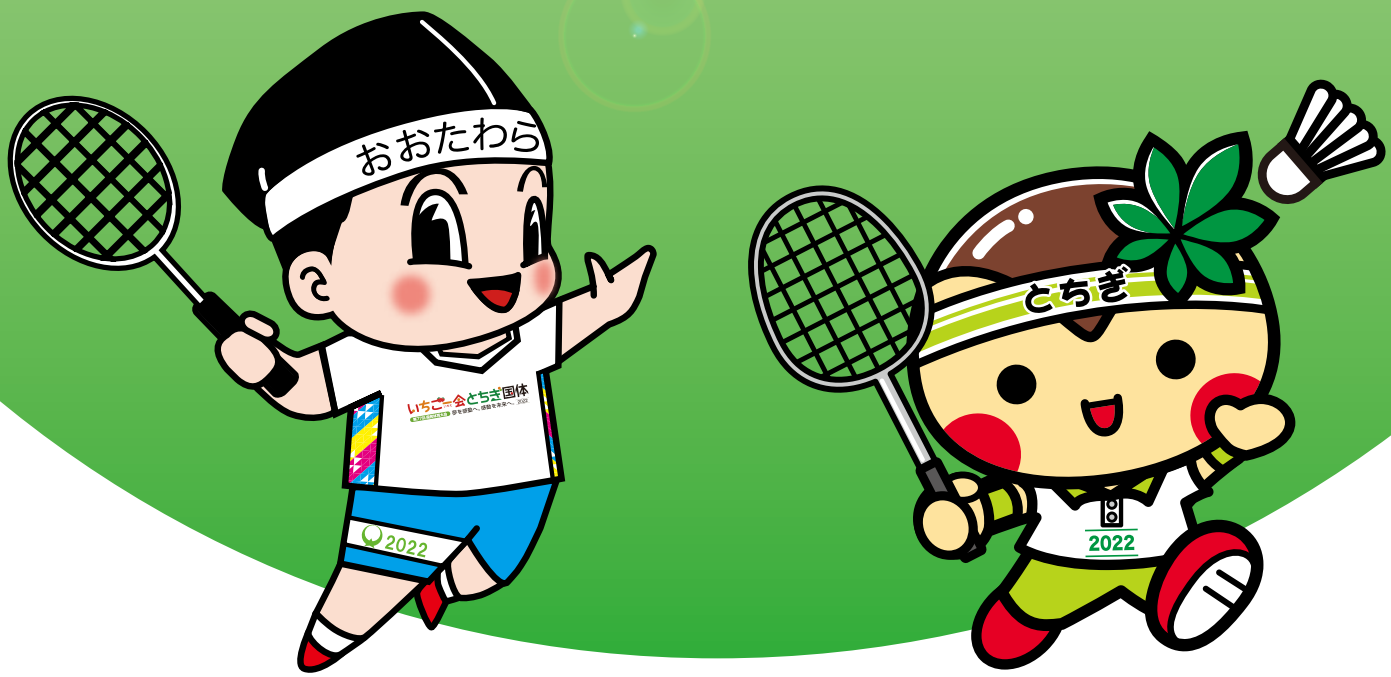
いちご一会とちぎ国体

第77回 国民体育大会　夢を感動へ。感動を未来へ。2022

バドミントン競技会

2022

Ichigo Ichie



期　　日：2022 年 10 月 7 日（金）～ 10 月 10 日（月）

競技会場：栃木県立県北体育館

主　　催：公益財団法人日本スポーツ協会　文部科学省　栃木県
公益財団法人日本バドミントン協会　大田原市

（ＪＳＰＯマーク）

国民体育大会マーク



昭和22年に国民体育大会のシンボルとして制定され、第2回大会から使用されることになりました。
30度右傾斜の赤色の火炎を直径10分の1幅の紺青色の円帯で囲んであります。

スポーツを行う者の心得（「日本スポーツ協会スポーツ憲章」抜粋）

- スポーツを愛し、楽しむために、自発的に行う。
- 競技規則はもとより、自らの属する団体の規則を遵守し、フェアプレーの精神を尊重する。
- 常に相手を尊重しつつ、自己の最善を尽くす。
- アンチ・ドーピングに関する規定を遵守する。

愛称

いちご一会とちぎ国体

「いちご」の生産量が半世紀に渡って日本一の栃木県。「いちご王国」で行われる国体に参加するすべての人々が、県民の心のこもったさまざまなおもてなしに出会い、交流を深めることで新たな夢や感動が生まれることを目指します。

スローガン

夢を感動へ。感動を未来へ。

アスリートたちが夢に向かって突き進む姿は、大会に参加する全ての人に感動を与えます。その感動をレガシーとして、未来の人づくり、地域づくりにつなげていきたいという願いが込められています。

マスコット



いちご一会とちぎ国体マスコットキャラクター
「とちまるくん」

目　次

あいさつ	第７７回国民体育大会会長　公益財団法人日本スポーツ協会会長	伊藤雅俊	1
あいさつ	文部科学大臣	末松信介	2
あいさつ	公益財団法人日本バドミントン協会会長	関根義雄	3
歓迎のことば	いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会実行委員会会長	福田富一	4
歓迎のことば	いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会大田原市実行委員会会長	相馬憲一	5
歓迎のことば	栃木県バドミントン協会会長	森田　昇	6

国民体育大会天皇杯・皇后杯授与規程 …… 7
国民体育大会会長トロフィー授与規程 …… 8
大会役員 …… 9
競技会役員 …… 12
競技役員 …… 14
競技補助員 …… 17
競技会係員 …… 18
競技会補助員 …… 20
大会実施要項　総則 …… 21
第７７回国民体育大会バドミントン競技会実施要項 …… 38
表彰式次第 …… 42
表彰式会場図 …… 43
競技日程 …… 44
タイムテーブル …… 45
組合せ表（成年男子・成年女子・少年男子・少年女子） …… 46
競技の見方　－バドミントンを楽しく見るために－ …… 49
都道府県別参加人数一覧表 …… 51
出場監督・選手一覧（成年男子・成年女子・少年男子・少年女子） …… 52
競技成績決定方法 …… 59
総合成績（天皇杯・皇后杯）一覧表 …… 60
過去の成績一覧表 …… 61
競技会場・練習会場案内図 …… 85
競技会場配置図 …… 86
競技会場周辺図 …… 89
競技上の注意 …… 90
審判上の注意 …… 92
昼食弁当の斡旋について …… 93
医療救護について …… 94
輸送について …… 95
大会関係機関連絡先（大田原市） …… 96

あ　い　さ　つ



公益財団法人日本スポーツ協会
会長　伊　藤　雅　俊

世界遺産「日光の社寺」や多くの魅力ある景勝地を有するここ栃木県において、第７７回国民体育大会が開催されますことは、誠に喜ばしい限りであります。

スポーツを通して広く国民に夢と希望を与え、明るく豊かな国づくりを目指してスタートした国民体育大会は、７７年間を経て今日まで多くの関係者のたゆまぬ努力と情熱に支えられ、我が国最大かつ最高のスポーツの祭典として充実、発展を遂げてまいりました。

栃木県における国体は、昭和５５年の第３５回栃の葉国体以来４２年ぶりの開催となります。栃木県では本年冬季大会も開催いただいており、栃木県で同一年に本大会と冬季大会が開かれるのは初めてとなります。

「いちご一会とちぎ国体」の愛称のもと、国体に参加するすべての人々が県民の皆様の心のこもった様々なおもてなしに出会い、交流を深めることにより、新たな感動が生まれることを目標に、栃木県の皆様がその準備に万全を尽くされた大会となります。

全国から厳しい予選を勝ち抜き､栄えある郷土の代表として参加される選手・監督には、フェアプレー精神のもと、日頃鍛えた力と技を存分に発揮されるとともに、地元の皆様との出会いを大切に､「元気」あふれる実り多い大会となるよう切望いたします。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、２年連続して本大会が中止となりましたが、今大会に向けてコロナ禍にあっても開催できるあらゆる方法を主催者間で模索して参りました。安全で安心な大会の開催に向けて関係各位のご協力が不可欠となりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

結びに、今大会の開催にあたり、長年諸準備にご尽力いただきました地元栃木県をはじめ、関係の皆様方のご支援、ご協力に対し心から深く感謝申し上げます。

あ　い　さ　つ



文部科学大臣
末松信介

日本三名瀑（ばく）に数えられる「華厳の滝」やラムサール条約湿地に登録された「渡良瀬遊水地」など豊かな自然の魅力にあふれ、日光東照宮をはじめとする世界遺産「日光の社寺」や日本最古の学校といわれる「足利学校」など、歴史と文化が息づくここ栃木県において、天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、第７７回国民体育大会「いちご一会とちぎ国体」が開催されますことを、誠に喜ばしく存じます。

国民体育大会は、我が国最大のスポーツの祭典として、広く国民に親しまれるとともに、今日に至るまで、スポーツの推進・発展に極めて重要な役割を果たしてまいりました。

栃木県での国民体育大会の開催は、昭和５５年以来４２年ぶりとなり、「夢を感動へ。感動を未来へ。」のスローガンのもと、栃木県全域を舞台に熱戦が繰り広げられます。「いちご一会とちぎ国体」が国民に夢と感動をもたらす、すばらしい大会となりますことを心から願っております。

今般の新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、第７５回鹿児島国体、第７６回三重国体が中止となるなど、様々な大会やスポーツ活動に大きな影響を与えておりますが、文部科学省としては、アスリートや子供たちの活動の機会を守り、スポーツの持つ力やすばらしさが社会の活力につながるよう、関係の皆様と一丸となって取り組んでまいります。

郷土の代表として参加される選手の皆さんが、これまで積み重ねてこられた練習の成果を思う存分発揮され、我が国の国際競技力の向上が図られるとともに、この機会に交流の輪を広げられ、思い出に残る大会になりますことを期待しております。

結びに、「いちご一会とちぎ国体」の開催に当たり御尽力いただいた地元栃木県、会場となる各市町をはじめとする関係の皆様の御支援、御協力に対し、心から敬意と感謝の意を表しまして、御挨拶といたします。

（令和４年８月１日現在）

あ　い　さ　つ



公益財団法人日本バドミントン協会
会長　　関 根　義 雄

第７７回国民体育大会「いちご一会とちぎ国体」が栃木県大田原市において開催されますことは、誠に喜びに堪えないところであり心からお喜び申し上げます。

国民体育大会は、国内最高峰のスポーツの祭典として、スポーツの振興と地域の活性化を促し、国体に参加する人たちの交流の輪を広げ、私たちの生活をより豊かで活力あるものとして発展してまいりました。

大会に参加される皆様には、本競技会を通して、地域を越えた人々との交流を深めるとともに、日頃の練習の成果を十分に発揮し、郷土の代表として誇りをもってプレーしていただきたいと願っております。

さて、近年、日本のバドミントンの競技レベルは常に世界のトップレベルを維持し、各種国際大会においても男女ともに優秀な成績を収めているところでございます。特に、本年５月にタイのバンコクで開催されたバドミントンの世界国別対抗戦である男子のトマス杯、女子のユーバー杯においても、男女ともに３位の成績を収め、わが国の競技レベルの高さと選手層の厚さを改めて世界に印象づけました。

世界で活躍する日本代表選手も、その多くが幼いジュニアの時期からラケットを握り、地域の交流会や大会に参加することからバドミントンに親しみ、都道府県大会や各種全国大会へとステップアップしております。国体選手のプレーを間近に観戦した子どもたちが、やがて地域や国の代表を夢見て熱心に活動し、家族や地域の人々を元気づけるような『バドミントン熱』の広がりを期待したいところでございます。

結びに、コロナ禍の中、開催に御尽力いただきました地元大田原市と栃木県さらには栃木県バドミントン協会の関係者の皆様に、心から感謝を申し上げますとともに、大会の成功と参加される皆様の御健闘を心からお祈り申し上げ、あいさつといたします。

歓 迎 の こ と ば



いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会実行委員会会長
栃木県知事　　福　田　　富　一

天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、全国から多くの選手及び役員の皆様をお迎えして、ここ栃木県において、第７７回国民体育大会「いちご一会とちぎ国体」を開催できますことは、この上ない喜びであり、県民を代表して心から歓迎申し上げます。

本県における国民体育大会の開催は、昭和５５年以来４２年ぶり２回目、また、去る１月に日光市で開催しました冬季大会との同時開催は本県では初となります。「夢を感動へ。感動を未来へ。」をスローガンに掲げ、すべての人に夢や感動を与える大会を目指し、オール栃木体制で準備を進めて参りました。さらに、「環境への配慮」を本県独自のコンセプトとして、県内産業の技術力を最大限に発揮した「メイド・イン・とちぎ」による環境配慮の製品・サービスを積極的に採用するなど、本大会を「新しいとちぎづくり」につなげて参りたいと考えております。

選手の皆様におかれましては、新型コロナウイルス感染症の影響により、様々な制約がある中、創意工夫を凝らし、スポーツ活動に取り組まれてきたことと存じますが、日頃から積み重ねてきた鍛錬とたゆまぬ努力の成果を存分に発揮され、記憶に残る素晴らしい大会となりますよう祈念いたします。

なお、本県には四季折々の美しい自然や、世界遺産日光の社寺に代表される歴史・文化、鬼怒川・那須・塩原などの豊富な温泉、生産量日本一を誇るいちご、和牛や湯波といった特産物など多彩な魅力にあふれています。この機会にぜひ、本県の魅力に触れていただければ幸いに存じます。

結びに、各都道府県選手団の皆様の御健闘、御活躍を心からお祈り申し上げますとともに、本大会の開催にあたり、多大な御支援と御協力を賜りました関係者の皆様に心から感謝を申し上げ、歓迎のことばといたします。

歓 迎 の こ と ば



いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会
大田原市実行委員会会長
大田原市長　　相　馬　憲　一

第７７回国民体育大会「いちご一会とちぎ国体」バドミントン競技会が、大田原市を会場に全国から多くの選手・監督並びに大会関係者の皆様をお迎えして、盛大に開催できますことは、誠に喜ばしく、市民を代表いたしまして心から歓迎申し上げます。

本県では、昭和５５年の第３５回国民体育大会「栃の葉国体」以来、４２年ぶりの国体開催となります。新型コロナウイルス感染症の影響により、鹿児島国体が延期、三重国体は中止となり、栃木国体はコロナ禍での初の開催となりましたが、感染防止対策を徹底し、一部制限はあるものの国体を開催できますことを感慨深く感じているところであります。

私たち市民は、「夢を感動へ。感動を未来へ。」の大会スローガンのもと、温かく皆様をお迎えし、安全に競技が行えるよう準備を進めてまいりました。

今大会に全国の予選を勝ち抜き、ふるさとを代表される選手の皆様におかれましては、これまで積み重ねてこられた厳しい練習の成果を遺憾なく発揮され、素晴らしい成績を収められますとともに、栃木国体が競技人生において最も記憶に残る大会となりますことをご期待いたします。

大田原市は関東平野の北端に位置し、清流那珂川を中心に四季折々の美しい自然に恵まれた中で人々の生活が営まれてきました。日本三古碑のひとつである国宝「那須国造碑（なすのくにのみやつこのひ）」や、日本一美しいと称される古墳「下侍塚古墳（しもさむらいづかこふん）」などの多くの史跡は、古代から人々が住み続けてきた証であります。この機会に是非市内の名所旧跡に足を運んでいただき、歴史と文化に触れていただければ幸いでございます。

結びに、本大会の開催にあたり、多大なご支援とご協力を賜りました公益財団法人日本バドミントン協会をはじめ、関係者の皆様に心から感謝申し上げますとともに、バドミントン競技の益々の御発展と、選手団の皆様の御健闘、御活躍を祈念いたしまして、歓迎のことばといたします。

歓 迎 の こ と ば



栃木県バドミントン協会
会長　　森　田　　昇

全国各地から４４４名の監督・選手の皆様をお迎えし、第７７回国民体育大会「いちご一会とちぎ国体」が栃木県大田原市において開催されますことは誠に光栄であり、心から感謝申し上げます。

本県においては第３５回大会の「栃の葉国体」がはじめて開催され、以来、国体の「国内最高峰のスポーツの祭典として、国民の健康増進と体力の向上を図り、地方スポーツの振興と地域の活性化を促す」という目的が達成され、本県スポーツの普及・振興と県民の活力醸成に大きく寄与しております。

４２年ぶり２回目の開催となる第７７回国民体育大会『いちご一会とちぎ国体』は、「夢を感動へ。感動を未来へ。」というスローガンのもと、県内各地で熱戦が繰り広げられます。いまだ終息する様子のみえないコロナ禍における国体開催ということで、感染症対策に十分に配慮し、参加する皆様が安全かつ快適に競技に専念できるよう、体制を整備しているところでございます。

バドミントン競技は、県の北東部に位置する大田原市において開催されます。大田原市の名前は「大俵」に由来するといわれ、昔から米に関わる農業の盛んな地域で、酒蔵が多いことでも知られています。また、雲巌寺や市の中央部を流れる那珂川など、全国の皆様に誇れる名産品や観光名所がたくさんございますので、ぜひ、大田原市の魅力に触れていただきたいと思います。

参加される皆様には、日ごろの練習の成果を十分に発揮され、国内最高峰レベルのプレーを期待するとともに、本競技会を通して、同じスポーツを愛好する仲間との交流を深め、貴重な一期一会の機会としていただくよう願っております。

結びに、開催に御尽力いただきました関係者の皆様に心から感謝を申し上げますとともに、バドミントン競技の益々の発展と、参加される皆様の御健勝を心からお祈り申し上げ、あいさつといたします。



国民体育大会天皇杯・皇后杯授与規程

第１条　　天皇杯は、男女総合成績第１位の都道府県、皇后杯は、女子総合成績第１位の都道府県に授与する。

２　第１位が２都道府県以上の場合は、当該都道府県で共有する。

第２条　　天皇杯及び皇后杯は、総合閉会式に授与し、次回の総合開会式において返還する。

第３条　　天皇杯又は皇后杯を授与された都道府県は、次の各項の義務を有する。

（1）信託会社又は確実な金庫に保管する。

（2）破損、紛失等の場合は、当該都道府県の責任とする。

（3）公益財団法人日本スポーツ協会が優勝都道府県名刻印のため又はその他の必要により一時返還を求めた場合は、これに応じなければならない。

附　則　　本規程は、昭和 41 年 4 月　1 日制定

昭和 45 年 1 月 22 日一部改定

昭和 48 年 7 月 10 日一部改定

昭和 54 年 5 月　9 日一部改定

平成 17 年 6 月 16 日一部改定

平成 22 年 3 月 17 日一部改定

本規程は、公益財団法人日本体育協会の設立の登記の日（平成 23 年 4 月 1 日）から施行する。

平成 30 年 4 月　1 日一部改定



国民体育大会会長トロフィー授与規程

第１条　　国民体育大会会長トロフィー(以下「大会会長トロフィー」という。)は、正式競技別男女総合成績第１位の都道府県に授与する。

２　第１位が２都道府県以上の場合は、当該都道府県で共有する。

第２条　　大会会長トロフィーは、競技会表彰式に授与し、次回競技会において返還する。

第３条　　大会会長トロフィーを授与された都道府県は、次の各項の義務を有する。

(1) 責任をもって保管する。

(2) 破損、紛失等の場合は、当該都道府県の責任とする。

(3) 優勝の刻印を次回大会までに行なうものとする。ただし、第１条第２項の場合は、当該都道府県で協議して決めるものとする。

(4) 公益財団法人日本スポーツ協会が必要により一時返還を求めた場合は、これに応じなければならない。

附　則　　本規程は、昭和 41 年 4 月　1 日制定

昭和 45 年 1 月 22 日一部改定

昭和 48 年 7 月 10 日一部改定

昭和 54 年 5 月　9 日一部改定

平成 17 年 6 月 16 日一部改定

本規程は、公益財団法人日本体育協会の設立の登記の日（平成 23 年 4 月 1 日）から施行する。

平成 30 年 4 月　1 日一部改定

大　会　役　員

（令和４年８月１日現在）
（順不同・敬称略）

名誉会長	末松　信介			
会長	伊藤　雅俊			
副会長	遠藤　利明	泉　正文	草野　満代	森岡　裕策
	室伏　広治	福田　富一		
顧問	張　富士夫	森　喜朗	安西　孝之	岡崎　助一
	ヨーコ　ゼッターランド	池田　めぐみ	今浦　千信	具志堅　幸司
	小柳　勝彦	坂　元要	高井　志保	髙野　瑞洋
	長島　昭久	平藤　淳	細貝　和司	増田　和伯
	丸山　由美	安井　克久	山倉　紀子	山下　泰裕
	佐藤　直子	中井　敬三	森井　じゅん	風間　明
	鷲見　全弘	湯川　和之	若月　等	木村　新
	内藤　貴詞	菊池　浩吉	村上　成司	瀧澤　康二
	中村　彰久	天野　好人	末　柄勝	川北　達也
	小宮山　哲雄	湧永　寛仁	野際　照章	前原　正浩
	山口　宏	南　和文	末松　英司	中里　壮也
	丹藤　勇一	増田　規一郎	袴田　登喜造	藤原　崇郎
	山﨑　勝洋	眞下　昇	山口　徹正	宮﨑　利帳
	栗原　茂夫	建部　彰弘	市野　保己	本戸　歳知
	中村　ゆり子	齋藤　良太郎	谷田部　和彦	富澤　和美
	井上　弘	岡崎　温	永田　圭司	浪岡　正行
	髙村　卓	園山　和夫	坂田　洋治	衣笠　剛
	知念　かおる	田邊　哲人	城門　政文	田中　壮一郎
	碓井　進	茂野　直久	生島　典明	大沢　陽子
	古舘　慶之	茂木　優	奥山　雅信	根本　聡
	松本　博崇	越川　均	須貝　謙治	今西　博一
	茅野　繁巳	老月　守	向田　和義	南部　則雄
	福永　秀樹	箕輪田　晃	村木　輝行	原　克彦
	木村　孝一郎	山本　誠三	廣瀬　雅樹	福井　基雄
	南　正晃	山﨑　嘉彦	松井　守	久保田　文也
	河村　祐一	高井　信一	寺尾　和祝	刈谷　好孝
	城戸　英敏	辛木　秀子	渡邉　達也	佐多　裕之
	渡嘉敷　通之	山田　登志夫	大河原　嘉朗	黒川　光隆
	飯田　路佳	奈良　隆	小菅　司	寺澤　正孝
	大山　加奈	山口　純子	池田　佳隆	高橋　はるみ
	義本　博司	丸山　洋司	矢野　和彦	角田　喜彦
	尾縣　貢	鈴木　大地	田嶋　幸三	山西　健一郎
	坂田　東一	三須　和泰	内田　貞信	川合　俊一
	藤田　直志	三屋　裕子	富山　英明	馬場　益弘
	三宅　義行	松村　正之	安道　光二	藤重　貞慶
	武内　繁和	千　玄室	武井　壮	三宅　豊
	関根　義雄	松丸　喜一郎	稲川　泰弘	土田　雅人
	丸　誠一郎	成田　昌憲	世耕　弘成	笹川　堯

顧　問

番匠　幸一郎　佐藤　浩市　北川　薫　竹田　恆正
岩城　光英　寶　馨　松浦　正人　今川　啓一
古城　資久　荒川　裕生　柏木　司　達増　拓也
鈴木　省三　鶴田　有司　吉村　美栄子　須佐　喜夫
大井川　和彦　遠藤　祐司　大野　元裕　熊谷　俊人
山本　博　岡田　伸浩　髙野　剛　花角　英世
阿部　守一　新田　八朗　馳　浩　杉本　達治
川勝　平太　大村　秀章　向井　弘光　田口　義隆
河本　英典　西脇　隆俊　牧野　明次　齋藤　元彦
池田　誠也　仁坂　吉伸　林　昭男　越宗　孝昌
苅田　知英　村岡　嗣政　槙田　實　柿内　愼一
大塚　岩男　青木　章泰　服部　誠太郎　山口　祥義
大石　賢吾　甲斐　隆博　麻生　益直　春山　豪志
塩田　康一　玉城　デニー　船田　元　福田　昭夫
簗　和生　佐藤　勉　茂木　敏充　五十嵐　清
藤岡　隆雄　上野　通子　高橋　克法　山形　修治
阿久澤　真理　古澤　利通　佐藤　栄一　古口　達也
君島　孝明　髙橋　正昭　久保　元芳

参　与

星野　芳隆　大西　啓介　和田　訓　田中　一明
池田　忠　青木　克明　阿部　寿一　阿部　博美
石坂　太　板橋　一好　一木　弘司　岩崎　信
岡部　光子　加藤　正一　加藤　雄次　金子　武蔵
木村　好文　小池　篤史　小菅　哲男　琴寄　昌男
小林　達也　佐藤　良　小林　幹夫　塩田　ひとし
白石　資隆　関谷　暢之　五月女　裕久彦　相馬　政二
高山　和典　螺良　昭人　中島　宏　中屋　大
西村　しんじ　野澤　和一　野村　せつ子　早川　桂子
日向野　義幸　平池　紘士　保母　欽一郎　松井　正一
三森　文徳　山口　恒夫　山田　みやこ　湯澤　英之
横松　盛人　吉羽　茂　渡辺　幸子　北村　一郎
末永　洋之　金子　達也　陣内　雄次　板橋　信行
鈴木　純美子　工藤　敬子　小川　俊彦　鈴木　英樹
國井　隆弘　野原　恵美子　小野寺　一行　仲山　信之
辻　真夫　青柳　俊明　坂井　康一　北條　俊明
大橋　哲也　清水　正則　伊藤　美智雄　桐渕　ゆか
野井　祐一　髙橋　彰　吉成　卓　坂本　宏夫
柳田　利夫　清水　武治　國谷　優　髙橋　高
熊倉　一臣　大川　直邦　栗原　丈晴　松本　和士
青木　勲　藤井　昌一　福田　徳一　齋藤　高藏
松下　正直　吉田　元　荻原　正寿　稲野　秀孝
関根　房三　柳田　京子　梅澤　啓子　内藤　進
揚石　哲司　髙橋　文吉

委員長	大野敬三			
副委員長	岡達生	西川由香	橋本陽夫	
総務委員	菊幸一	鈴木浩二	飯坂尚登	今井純子
	小野力	川原貴	坂井利郎	菅原哲朗
	松田基子	松永敬子	三ケ田礼一	森丘保典
	山本浩	髙崎淳也	橋憲市	千代森修一
	坂口純弘	浅沼道生	石松英昭	宮原耕史
	川内野修	畠山剛	山室元史	佐々木重夫
	伊藤明徳	河本弘	岡本友章	金沢敬
	江橋千晴	吉原暁憲	柏瀬仁	大牧稔
委員	平野了	髙橋聖一	植田昌利	松本康夫
	山本伊知郎	千野雅人	小山田裕二	小泉芳孝
	佐久間裕司	品田奥義	濱野勉	黒川重男
	舟喜信生	髙野修	坂井田米治	安藤正美
	金﨑正久	小林三郎	平真一	藤熊昇
	西田孝宏	田口大祐	鍵山博	網代忠宏
	岸川剛之	西原斗司男	後藤明男	日下修次
	長南哲生	衛藤敬輔	丸石博	中段亜由美
	佐藤直亮	山中博史	小倉好正	関根明子
	中山二三男	野上順	吉田由美子	杉本好二
	東野眞理子	田中徹	川口雅三	永井太介
	富澤佑也	小竹純太	松尾悠衣	佐藤梢
	小河原百映	髙崎淳也	成瀬幸宏	筒井諒太郎
	橋本元樹	角藤大樹	久田晴生	内海隆博
	太田よう子	宇田俊太郎	髙田祥伍	若井江利
	小笠原博	今野順	齊藤譲	武田浩一
	滝田勝彦	中嶋正宏	井出仁	林泰章
	荻布佳子	石川恵一朗	柏木佳久	中尾俊治
	荒木一聡	米田康彦	吉冨秀明	田部長右衛門
	宮滝寛己	分木秀樹	荒木健治	平江公一
	加藤寛章	瑞慶覧長行	大垣正雄	竹澤智明
	島田充高	渡辺直人	荒川髙志	綾部吉也

競 技 会 役 員

（順不同・敬称略）

名誉会長	相馬憲一			
会長	関根義雄			
副会長	大島実	福田達夫	山田順一郎	森田昇
	岡本允久			
顧問	君島孝明	篠山充	森喜朗	関谷勝嗣
	森田一	平田登志郎	青木昭二	毛利清
	内多小五郎	吹田修一	牧野武	村山幸雄
	濵中誠	岡本武利	三宅祐司	野村嘉明
	里見光徳	佐藤芳明	竹林克彦	油井秀男
	淺岡武	木村寛	岡村英男	川島一郎
	板垣隆房	上原信彦	加藤博司	藤本滋
	加藤寛治	原紀征	鈴木勝之	中山紀子
	藤原航	籾井勝人	野村安忠	西村健二
	工藤勇参	千葉健夫	築地孝彦	三井裕
	高橋英夫	栗原進	福士文敏	鈴木勇治
	斉藤永吉	鈴木隆一	吉田邦男	関俊夫
	能登則男	有瀬浩一	兒嶋昇	近藤勇司
	白倉一民	小田等	荒井和人	堂故茂
	久保幸男	中嶋光司	工藤喜久雄	末岡熙章
	金森正	杉山忠国	藤原健二	田中田鶴子
	瀬川欽也	石田真敏	福浜隆宏	成相安信
	荒木雷太	松藤研介	杉山覚	大森博一
	杉内邦弘	中村時広	桑名龍吾	浦山茂
	宮島治	里脇清隆	木村洋一郎	佐藤英雄
	相澤潔	新里登		
参与	小林正勝	髙﨑和夫	引地達雄	菊池久光
	髙瀬重嗣	前野良三	中川雅之	大豆生田春美
	滝田一郎	櫻井潤一郎	深澤正夫	菊地英樹
	大塚正義	前田則隆	新巻満雄	斎藤光浩
	秋山幸子	伊賀純	深澤道昭	川上聖子
	小林朋子	森泉	渡邉英憲	玉木茂
	吉岡博美	関谷忍	津守直人	菊池貴章
	益子邦浩	阿久津静	大沼健司	刑部節
	大島英世	仲西伸人	阿部将宏	植木淳
	丸茂博	半田好男	広瀬康雄	槐秀夫
	車田宏之	平久江徳昭	金澤裕司	櫻岡賢治
	植木重治	加藤健次	田中和夫	伊藤都
	小西久美子	髙橋一成	斎藤達朗	益子和弘

参	与	益	子	敦	子	松	浦	正	男	藤	田	友	弘	齋	藤	正	広
		渡	邉	和	栄	藤	沼	誓	子	山下部		恵美子		大	森	忠	夫
		阿	部	秀	夫	村	元	英	美	坂	上		昭	濵	中		勉
		河	野	幸	男	上	松	芳	則	小	野		理	芝		スミ	子
		小	林	幹	夫	大	島	喜代	子	磯		元一	郎	槐		一	博
		菊	地	孝	行	荒	川	信	昭	平	山		明				
委	員	長	銭	谷	欽	治											
副	委	員	長	舘	野	政	男	森		広	明						
委		員	朝	倉	康	善	岩	﨑	眞	美	岡	野	佳	浩	小	国	久	美
			河	崎	正	紀	歸	山	好	和	小	柳	尚	久	佐	竹	養	一
			田部井		秀	郎	丹	藤	勇	一	遠	井		努	中	村	新	一
			原	田	利	雄	源		憲	治	毛	利	達	彦	山	蔭		栄
			木	戸	純	一	京	田	和	男	民	谷	千寿	子	大	島	正	志
			大	島	真由	美	村	上	幸	一	小	川	民	生	福	田	芳	子
			入	江	久	夫	田	野	幸	一	千	坂	篤	史	北	島	秀	敏
			伊	藤	毅	人	山	崎	早	苗	恩	田	三江	子	谷	口	光	弘
			飯	田	一	美	笠	井	孝	之	大	堀		新	加	藤	好	伸
			芝	田	英	世	星	野	よし	美	伊	藤	高	御	劔	持	勝	巳
			伊	東	清	和	打	谷	桂	子								

競　技　役　員

（順不同・敬称略）

競技役員長	上田敏之			
総務部長	河崎正紀			
総務副部長	丹藤勇一	舘野政男	刑部節	伊東清和
総務主任	大島真由美	井伊ゆかり		
総務委員	山崎早苗	恩田三江子	三富久子	涌井江以子
	増川美子	福田芳子	北島秀敏	伊藤毅人
	荒井元輝			
競技審判部長	中野正一			
競技審判副部長	田野幸一	猪瀬祐香		
競技審判主任	大谷恵美子			
審判員	雨宮雅幸	瓜田正勝	坂本恵美	村戸博之
	髙橋春生	杉江寿彦	岡本幸	秋山啓太
	長友翔	西田覚	慶野誠	新井博司
	平野和男	森田五月	三浦泰子	高橋浩子
	佐倉和明	鈴木高弘	吉田千代子	大竹真弓
	新井博幸	村田香	山本雅己	梅蔭喜久治
	飯島春奈	雨宮光平	大谷恵美子	相良あや子
	和田恵	黒川恵里	吉田恵子	田中克巳
	田中一弘	金澤浩一	田崎真光	藤田恵美子
	平泉愛美	倉島郁乃	三本杉国親	佐藤佑樹
線審主任	稲村龍治			
線審員	落合愛美	丸山早苗	武田佳代	根岸陽子
	野阪真奈美	渡邊奈津	今野久美子	飯田一美
	小口理恵	植木栄子	角祐子	篠﨑悦子
	中村克枝	植木令世	大島淑子	霧生教子
	清水美奈子	村本和美	檜山由紀子	片野ひとみ
	田波恭子	福井順子	野村美江	山田幸子
	遠藤純子	松本裕美	黒川文子	櫻井ミキ
	粂川かおり	田中晴美	本庄順子	青砥薫
	佐藤麻美	下采麻記子	小野寺保子	中村妙子
	那花由美子	久保野佳美	北原保子	本田訓子
	根本恵子	石井日出子	福田友子	澤村智子
	細田奈佳子	曾我緑	佐藤美智子	根本すみれ
	細川初枝	柏木暁子	鈴木あゆみ	小島和子
	人見三江	坂本京子	大森佳子	押久保圭子
	堀江圭子	森智子	内山貴美	前川あかね
	西純子	海老沼恵	高橋美樹子	蛯澤敦子

線審員	鈴木 千代子	鶴見 よし子	飯島 美佐子	坂本 由美	
	名古屋 真弓	田中 恵美	小太刀 かつ子	大島 里奈	
	福田 典子	浅野 真希	秦 昌子	高﨑 るみ子	
	金澤 亮子	佐藤 武男	佐藤 文隆	佐藤 正子	
	大島 清	織田 利夫	鶴見 武司	峯岸 久	
	小野 雄太	桝谷 志穂	村上 崇	遠藤 洋和	
	菊地 悦子	長谷川 さくら	渡辺 悟史	坂本 悦子	
	小沼 達哉	須賀 起都	薄井 実	北川 美穂子	
	谷島 脩都	唐川 満里	六鎗 英人	手塚 海斗	
	原田 豊	若林 美鈴	幸 江美	鈴木 雄次	
	下野 悟	成田 伸二	河野 操	湊 芳江	
	島田 大輔	仁平 恵美	宮内 直也	川端 隆史	
	矢口 大記	木村 隼人	荒木 修	窪田 陽光	
	川島 慶裕	舩木 香奈	小栗 悠太朗	細川 恵太郎	
	山石 啓介	中村 貴彦	瀧村 浩平	荒井 力哉	
	倉井 充裕	濱 祐樹	村越 晴信	佐々木 和輝	
	飯野 正文	野村 将司	阿部 真樹	堀江 康一郎	
	奥田 剛史	中野 匠	海老原 隼人	飯村 茂男	
	上山 英夫	小泉 理史	齊藤 哲也	金子 稔	
	飯田 裕亮	猪瀬 達朗	後藤 美紅	水沼 健太	
	塩谷 悟史	林 数仁	佐藤 健次郎	八角 飛雄馬	
	久保野 泰央	中村 秀悦	山本 怜奈	早迫 瞭	
	西 翔大	秋山 志織	小堀 修斗	伊原 政成	
	永山 直樹	金子 博輝	若槻 あまね	土屋 周平	
	島袋 悟	青木 知美	杉浦 亮太	荒井 健史	
	迫 秀人	関 健太	石川 恵	出山 陽一	
	君島 敬子	長瀬 翼	熊沢 貴史	櫻井 拓朗	
	渡部 愛倫	佐藤 慎也	田崎 真里	森 心ノ丞	
	真々田 敏史	小坂部 陸	濱田 慧大	矢本 光成	
	山崎 夢人	與儀 七友	佐々木 志穏	井関 健人	
	小嶋 元喜	藤沼 拓	熊倉 侑哉	山下 歩夢	
	小野 梨花	遠藤 朱理	砂川 真穂	有田 桜	
	清水 有里紀	高橋 奈那	平元 さや	齋藤 美海	
	北原 瑞美	山川 拓	中里 好貴	宇田 優真	
	岡澤 慎一	吉田 美音	鹿谷 智也	片桐 明日香	
競技主任	大島 正志				
競技副主任	千坂 篤史				

競技委員	小島秀雄	山田宗敬	中吉高平	大上真樹	
	小坂任明	落合　章	小花智志	岸　紀之	
	川嵜喜久重	田村　光	木野早智子	山口拓幸	
	新　宗樹	入江久夫			
進行主任	入江久夫				
進行委員	山嵜丈生	阿部裕子	千葉哲也	石﨑由也	
	荒井俊充				
会場主任	井伊博亮				
会場委員	阿久津徹	林　幹人			
練習会場委員	田辺由香	山﨑　俊	髙木　優	今井真弓	
	吉成亜希子	小池宏和	佐藤綾子	和泉諭史	
	引野維人	渡邉　進	木下博之	高久　優	
	飯泉洋子	室井逸子	岩本真弓	渡辺多佳子	
	森久保　隆	鬼武一治	橋本英直	佐藤功基	
	永瀬あけみ	和氣久仁子	三好景子	髙田敦子	
	斎藤美奈	山田　進	土金秋彦	石原崇江	
記録主任	齋藤哲也				
記録委員	谷口光弘	蒲地真太朗	木村　愛	加藤好伸	
	石川　諒	佐藤由美子	水嶋俊介		
シャトル主任	會澤文吾				
シャトル委員	松久竜史	森山雄太			
得点表示主任	川上貴治				
得点表示委員	橋本佑磨				
掲示主任	菅原健太				
掲示委員	君島侑樹	松本佳子	吉澤さくら		
報道主任	大島真由美				
報道委員	山崎早苗				
放送主任	塚越　遥				
放送委員	飯島亜美				
招集主任	仁木宏明				
招集委員	吉田秀徳	吉田伸也	伊原政成	稲本　綾	
総合成績計算委員長	丹藤勇一				
総合成績計算委員	大島正志	水沼侑也			

競　技　補　助　員

（順不同・敬称略）

栃木県立大田原高等学校

佐藤　開大	髙橋　孝太朗	廣町　徠	三浦　隼成
菊池　悠聖	関谷　璃功	山本　蒼太朗	須戸　凛太郎
横山　竜士	本多　隼弥	八木沢　快	奈尾　洋一郎
大森　康惺	田辺　翼	鈴木　大智	十河　陽央

栃木県立大田原女子高等学校

浅井　心葉	矢口　詩乃	野中　芽依	永井　麗
中田　陽菜	星野　杏	阿久津　佑実	薄井　優有
金子　蒼	今野　華花		

栃木県立那須拓陽高等学校

岡部　拓哉	後藤　悠希	田嶋　宏丞	深澤　弘嗣
宇梶　恭平	山﨑　颯太	渡邉　航也	大町　天斗
根岸　悠愛	小髙　怜奈	新江　百柑	印南　結生花
三田　満理亜	三輪　彩乃	米山　咲羽	安野　倫恵

栃木県立那須清峰高等学校

益子　将也	穴山　優希	菊地　陽都	塚本　士禅
本橋　勇人	森山　七翔	小口　玲紗斗	

競技会係員（大田原市実施本部）

（順不同・敬称略）

競技会場部長	益子　敦子			
総務班長	渡邉　和栄			
会場総務係長	北條　文康			
会場総務係	成宮　直人	相馬　萌々香		
受付案内係長	伊藤　順子			
受付案内係	駒野　史典	早田　彩花	郡司　佳代	礒　睦実
	荒川　敦子	佐藤　彩華	新巻　有香	
広報記録係長	内田　えり子			
広報記録係	小林　祐介			
会場式典班長	熊田　明美			
競技会場係長	小堀　聡			
競技会場係	小林　理佳	鈴木　真以	石橋　陵太	星　尚子
	宮澤　遼太郎	西海　明日香	蓮實　薫菜	
式典表彰係長	伊東　佳子			
式典表彰係	鈴木　真以（兼）	石橋　陵太（兼）		
競技運営班長	君島　敬			
練習会場係長	木村　哲哉			
練習会場係	村上　昌弘	佐藤　雄一	花塚　佳樹	大髙　泰裕
	成田　峻治	大場　光	辺見　聖仁	古田　修一
	高梨　卓也			
おもてなし班長	遠藤　久子			
休憩所・売店係長	高野　浩之			
休憩所・売店係	日向野　恵子	簗瀬　しのぶ	田村　香名恵	渡辺　茉里奈
衛生・弁当係長	五月女　博子	磯　萌子		
衛生・弁当係	田口　恵美子	大金　さくら	松本　和奏	
輸送交通班長	小室　雄司			
輸送交通係長	小沢　貴幸			
輸送交通係	江連　周生	前田　智	岡村　憲昭	長谷野　優介
	鈴木　雅志	小泉　悦男	髙瀬　博至	杉江　亮彦
	森本　和雅	室井　皓貴		
駐車場係長	伊藤　甲文			
駐車場係	植田　賢司	黒﨑　遼	山本　仁志	白田　真梨子
	前田　裕	齋藤　優子	森　淳弘	小磯　智洋
	宮本　英彦	玉村　里志	白上　武志	深澤　健志
	石川　秀一	遅澤　安秀	深澤　聡	森嶋　正崇
	大金　弘樹	謝花　裕介	相馬　敦	薄井　秀行
	本堂　英則	加藤　拓哉	間庭　卓也	前澤　桂介
	手塚　輝	土屋　大貴	長谷川　慎弥	宮田　宏
	宇田川　直太			
警備救護班長	角藤　力			

警備消防係長	藤田裕史			
警備消防係	大類仁	増渕俊行	田中伸太郎	
医療救護係長	益子理恵子	大西美歩	小倉恵子	澁江夏美
医療救護係	片亀颯月	蓮實里奈	薄井千紘	片亀友子
総合接伴部	斎藤達朗			
総合案内班長	長井康男			
総合案内係長	阿久津和寿			
総合案内係	八木澤美斗			

〔実施本部事務局〕

事務局長	大森忠夫			
事務局次長	大島実			
事務局員	安部広伸	森広明	齋藤康弘	平山豊
	菅家彰人	平山知樹	森まりな	清水理沙
	田中優杜	唐橋文久	川上洋一	原享史
	宮本欣吾	粒来朋恵		

競　技　会　補　助　員

（順不同・敬称略）

一般ボランティア

櫻岡久司	福本迪子	山越信子	伊藤健次
川越美代子	永岡明子	黒田裕美子	鈴木栄二
鈴木啓子	東　紀子	福島信好	小野寺　彰
比企和代	飯島敬子	阿美俊博	山本節子
山本佳那	溝口浩樹	佐藤杏実	秋元悠奈
岡本愛花	大類春花	小野里綾華	

大田原市スポーツ推進委員

ＮＰＯ法人大田原市スポーツ協会

総　　則

開 催 の 趣 旨

国民体育大会は、広く国民の間にスポーツを普及し、スポーツ精神を高揚して国民の健康増進と体力の向上を図り、併せて地方スポーツの推進と地方文化の発展に寄与するとともに、国民生活を明るく豊かにしようとする国内最大のスポーツの祭典である。

栃木県で開催する第 77 回国民体育大会「いちご一会とちぎ国体」は、「夢を感動へ。感動を未来へ。」のスローガンのもと、「県民総参加で感動を創出する国体」、「栃木の魅力を発信する国体」、「生涯にわたりスポーツ活動を推進する国体」、「地域スポーツの活性化につながる国体」を大きな柱として掲げ、環境への配慮というテーマを共有しながら、県民の総力を結集して、夢や希望、感動を与える大会とするとともに、栃木に集う多くの方々をおもてなしの心で温かくお迎えし、さらには、国体を契機とした「新しいとちぎづくり」につながる大会を目指して開催する。

実　施　方　針

1　実施競技

(1)　正式競技（37 競技）

陸上競技、水泳、サッカー、テニス、ボート、ホッケー、ボクシング、バレーボール、体操、バスケットボール、レスリング、セーリング、ウエイトリフティング、ハンドボール、自転車、ソフトテニス、卓球、軟式野球、相撲、馬術、フェンシング、柔道、ソフトボール、バドミントン、弓道、ライフル射撃、剣道、ラグビーフットボール、スポーツクライミング、カヌー、アーチェリー、空手道、銃剣道、なぎなた、ボウリング、ゴルフ、トライアスロン

(2)　公開競技（５競技）

綱引、ゲートボール、武術太極拳、パワーリフティング、グラウンド・ゴルフ

(3)　デモンストレーションスポーツ（31 競技）

アームレスリング、インディアカ、ウォーキング、エアロビック、オリエンテーリング、カローリング、キッズトライアスロン、キンボールスポーツ、クリケット、さいかつぼーる、３Ｂ体操、スポーツウエルネス吹矢、スポーツチャンバラ、スマートフェンシング、３ｘ３、ソフトバレーボール、ターゲット・バードゴルフ、タグラグビー、ダンススポーツ、ドッジボール、長ぐつアイスホッケー、バウンドテニス、パークゴルフ、フォークダンス、フットサル、フットベースボール、フライングディスク、ふれあいトランポリン、ペタンク、ママさんバレーボール、リレーマラソン

(4)　特別競技（１競技）

高等学校野球

2　会期及び会場地

(1)　正式競技・特別競技（15 市、８町：計 23 市町）

会　期	会　場　地
2022 年 10 月　1 日(土) ～10 月 11 日(火) 〔11 日間〕	宇都宮市、足利市、栃木市、佐野市、鹿沼市、日光市、小山市、真岡市、大田原市、矢板市、那須塩原市、さくら市、那須烏山市、下野市、上三川町、益子町、茂木町、壬生町、野木町、塩谷町、那須町、千葉県千葉市
2022 年９月 10 日(土) ～９月 19 日(月) 〔10 日間〕	宇都宮市、足利市、小山市、市貝町 ※　水泳、バレーボール（ビーチバレーボール）、体操（体操競技、新体操）、弓道競技会は上記会場地で実施

(2)　公開競技（２市、３町：計５市町）

会　期	会　場　地
2022 年６月 25 日(土) ～９月 25 日(日)	鹿沼市、大田原市、芳賀町、高根沢町、那珂川町

(3)　デモンストレーションスポーツ（14 市、10 町：計 24 市町）

会　期	会　場　地
2022 年５月　7日(土) ～９月 25 日(日)	宇都宮市、足利市、栃木市、佐野市、鹿沼市、日光市、小山市、真岡市、大田原市、矢板市、那須塩原市、さくら市、那須烏山市、下野市、上三川町、益子町、茂木町、市貝町、芳賀町、壬生町、野木町、高根沢町、那須町、那珂川町

(4)　文化プログラム

文化プログラムの実施については、「文化プログラム実施基準」に基づき、2022 年４月１日から 2022 年 12 月 31 日までの期間で、原則として、県内市町で開催する。

3　競技方法

各競技別実施要項に示す方法とし、正式競技は都道府県対抗で実施する。

4　ドーピング検査の実施

大会におけるアンチ・ドーピング活動（ドーピング検査及びアンチ・ドーピング教育・啓発活動）は、公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構が定める「日本アンチ・ドーピング規程」及び別に定める「国民体育大会アンチ・ドーピング活動に関するガイドライン」に基づき実施する。

なお、治療の目的で禁止物質・禁止方法を用いる必要がある場合は、事前に「治療使用特例」（TUE）の手続きを行うこと。

各都道府県の代表選手は、大会期間中は常に「国民体育大会ドーピング検査同意書」を所持しなければならない。選手が 18 歳未満の場合、本人の署名及び親権者の署名、捺印がある同意書を所持すること。

5　参加資格、所属都道府県及び選手の年齢基準

選手及び監督の参加資格、所属都道府県及び選手の年齢基準は、次のとおりとする。

なお、参加資格については、「第 77 回国民体育大会参加資格、所属都道府県及び年齢基準等の

解釈・説明」を併せて確認すること。

【　公益財団法人日本スポーツ協会ホームページ　http://www.japan-sports.or.jp/　】

(1)　参加資格

ア　日本国籍を有する者であることとするが、選手及び監督のうち、次の者については、日本国籍を有しない者であっても、大会に参加することができる。

(ｱ)　「出入国管理及び難民認定法」に定める在留資格のうち「永住者」(「日本国との平和条約に基づき日本の国籍を離脱した者等の出入国管理に関する特例法」に定める「特別永住者」を含む。)

(ｲ)　少年種別年齢域に該当し、次の要件をいずれも満たす者

ａ　「学校教育法」第１条に規定する学校に在籍する学生又は生徒で、「８　参加申込方法」で定めた参加申込締切時に１年以上在籍していること。

ｂ　「出入国管理及び難民認定法」に定める在留資格のうち、「留学」又は「家族滞在」（中学３年生）に該当していること。

(ｳ)　成年種別年齢域に該当し、次の要件をいずれも満たす者

ａ　少年種別年齢域にあった時点において前号(ｲ)に該当していた者であること。

ｂ　「出入国管理及び難民認定法」に定める在留資格のうち、大会参加時から終了時まで「留学」に該当しないこと。

［注］上記(ｳ)ｂについて、大学及び専修学校等に在籍する成年種別の年齢域に該当する者は、「出入国管理及び難民認定法」に定める「留学」以外の在留資格を有する場合も「留学」と同等に扱う。

イ　選手及び監督は、所属都道府県の当該競技団体会長（代表者）と体育・スポーツ協会会長（代表者）が代表として認め、選抜した者であること。

ウ　第 75 回又は第 76 回大会（都道府県大会及びブロック大会を含む）において選手又は監督として参加した者は、次の場合を除き、第 75 回又は第 76 回大会と異なる都道府県から参加することはできない。

(ｱ)　成年種別

ａ　「学校教育法」第１条に規定する学校を卒業した者

ｂ　結婚又は離婚に係る者　[注]ａ及びｂは当該要件発生後、初めて参加するものに限る。

ｃ　ふるさと選手制度を活用する者（別記１「国民体育大会ふるさと選手制度」による。）

[注]別記３「JOC エリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」の適用を受け、ふるさと選手として参加する者を含む。

ｄ　東日本大震災に係る参加資格特例措置を活用する者（別記５「東日本大震災に係る選手及び監督の国民体育大会参加資格の特例措置」による。）

(ｲ)　少年種別

ａ　「学校教育法」第１条に規定する学校を卒業した者

ｂ　結婚又は離婚に係る者

ｃ　一家転住に係る者（別記２「『一家転住等』に伴う特例措置」による。）

［注］ａからｃは当該要件発生後、初めて参加するものに限る。

ｄ　JOC エリートアカデミーに在籍する者（別記３「JOC エリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」による。）

ｅ　東日本大震災に係る参加資格特例措置を活用する者（別記５「東日本大震災に係る選手及び監督の国民体育大会参加資格の特例措置」による。）

エ　選手と監督の兼任は、同一種別内に限る。
オ　選手及び監督は、回数を同じくする大会において、冬季大会及び本大会にそれぞれ１競技に限り参加できる。
カ　選手及び監督は、回数を同じくする大会において、異なる都道府県から参加することはできない。
キ　上記のほか、選手については次のとおりとする。
（ｱ）　都道府県大会及びブロック大会に参加し、これを通過した者であること。
（ｲ）　健康診断を受け、健康であることが証明された者であること。
（ｳ）　ドーピング検査対象に選定された場合は、検査を受けなければならない。
ク　上記のほか、監督については公益財団法人日本スポーツ協会（以下「日本スポーツ協会」という。）公認スポーツ指導者制度に基づく競技別指導者資格を有する者とし、各競技における対象資格については当該競技実施要項によるものとする。

(2)　所属都道府県

所属都道府県は、当該競技団体が限定する場合を除き、次のいずれかが属する都道府県から選択することができる。

ア　成年種別
（ｱ）　居住地を示す現住所
（ｲ）　勤務地
（ｳ）　ふるさと（別記１「国民体育大会ふるさと選手制度」による。）
[注]別記３「JOC エリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」の適用を受け、ふるさと選手として参加する者を含む。

イ　少年種別
（ｱ）　居住地を示す現住所
（ｲ）　「学校教育法」第１条に規定する学校の所在地（以下「学校所在地」という。）
（ｳ）　勤務地
（ｴ）　別記３「JOCエリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」に定める小学校の所在地

※　「居住地を示す現住所」、「勤務地」、「学校所在地」のいずれかから参加する場合は、2022年４月30日以前から本大会終了時（2022年10月11日）まで、引き続き当該地に、それぞれ居住、勤務、又は通学していなければならない。ただし、次の者はこの限りではない。

［成年種別］
ａ　別記４「トップアスリートの国民体育大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者
ｂ　別記５「東日本大震災に係る選手及び監督の国民体育大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者

［少年種別］
ａ　別記２「『一家転住等』に伴う特例措置」の適用を受ける者
ｂ　別記４「トップアスリートの国民体育大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者
ｃ　別記５「東日本大震災に係る選手及び監督の国民体育大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者

(3)　選手の年齢基準

ア　選手の年齢基準については、下記を原則とする。
（ｱ）　成年種別に参加する者は、2004年４月１日以前に生まれた者とする。

(ｲ)　少年種別に参加する者は、2004年４月２日から2007年４月１日までに生まれた者とする。

(ｳ)　年齢を区分している種別へ参加する者の年齢計算は、2022年４月１日を基準とする。

イ　日本スポーツ協会が特に認める場合は、上記アにかかわらず、競技ごとに年齢区分を設定することができる。ただし、年齢の下限は中学３年生（2007 年４月２日から 2008 年４月１日までに生まれた者）とする。

(4)　前記の各事項に疑義のあるときは、日本スポーツ協会及び当該競技団体が調査・審議の上、日本スポーツ協会がその可否を決定する。

6　各正式競技の総合成績決定方法

各正式競技の総合成績決定方法は次のとおりとする。

(1)　次のア、イの得点を合計したものを男女総合成績（天皇杯得点）及び女子総合成績（皇后杯得点）とする。

ア　競技得点

競技得点は、各種別、種目などの第１位から第８位までの都道府県に与え、次のとおりとする。ただし、同順位の場合は、次の順位のものを加え、当該都道府県で等分し、割り切れない場合は、小数第３位以下を切り捨てる。

		１位	２位	３位	４位	５位	６位	７位	８位
種別	４人以下	24 点	21 点	18 点	15 点	12 点	９点	６点	３点
	５人以上７人以下	40 点	35 点	30 点	25 点	20 点	15 点	10 点	５点
	８人以上	64 点	56 点	48 点	40 点	32 点	24 点	16 点	８点
種目	――――――	８点	７点	６点	５点	４点	３点	２点	１点

［注］「種別」：種別などに与える競技得点　　「種目」：種目などに与える競技得点

イ　参加得点

参加得点は 10 点とし、大会（ブロック大会を含む。）に参加した都道府県に与える。ただし、ブロック大会で本大会の出場権を獲得しながら、本大会に参加しなかった場合は与えない。

(2)　各競技の総合成績は、当該競技団体が決定する。

ただし、天候その他の事情により一部競技が中止になった場合は、当該競技団体と大会総務委員会が協議する。

(3)　参加資格違反等に関わる得点等の取り扱いについては、「国民体育大会における違反に対する処分に関する規程」によるものとする。

7　表　　彰

(1)　冬季大会及び本大会で実施した全正式競技の男女総合成績第１位の都道府県に天皇杯を、同じく女子総合成績第１位の都道府県に皇后杯をそれぞれ授与する。

(2)　冬季大会及び本大会で実施した全正式競技の男女総合成績及び女子総合成績の第１位から第８位までの都道府県に、それぞれ表彰状を授与する。

(3)　各正式競技の男女総合成績第１位の都道府県に、国民体育大会会長トロフィーを授与する。

(4)　各正式競技の男女総合成績及び女子総合成績の第１位から第８位までの都道府県に、それぞれ表彰状を授与する。

(5)　各競技の各種別及び各種目などの第１位から第８位までに賞状を授与する。団体競技の場合は、その都道府県名とチーム全員(監督を含む)の氏名を記載したものを都道府県用に１枚、更にその都道府県名と個人名を記載したもの、又は都道府県名とチーム全員（監督を含む）の氏名を記載したものをチーム全員に授与する。

８　参加申込方法

(1)　参加申込

都道府県体育・スポーツ協会会長（代表者）及び競技団体会長（代表者）は、連署の上、都道府県大会又はブロック大会において選抜された者及び公益財団法人日本高等学校野球連盟が選出したチームを、大会会長宛に申込むものとする。

(2)　参加申込締切

参加申込は、定められた締切日までに国民体育大会参加申込システムにより行う。

(3)　参加申込締切日

締　切　日	競　　技
2022 年 ８月 24 日（水） 【13 競技】	水泳、ボート、バレーボール（ビーチバレーボール)、体操、レスリング、セーリング、自転車、相撲、弓道、カヌー、ボウリング、ゴルフ、トライアスロン
2022 年 ９月７日（水） 【26 競技】	陸上競技、サッカー、テニス、ホッケー、ボクシング、バレーボール（６人制)、バスケットボール、ウエイトリフティング、ハンドボール、ソフトテニス、卓球、軟式野球、馬術、フェンシング、柔道、ソフトボール、バドミントン、ライフル射撃、剣道、ラグビーフットボール、スポーツクライミング、アーチェリー、空手道、銃剣道、なぎなた、高等学校野球

(4)　参加申込様式

参加申込様式は、日本スポーツ協会が実施競技団体と協議の上、作成する。

(5)　公開競技の参加申込

公開競技については、別途当該中央競技団体が定める所定の手続きにより行う。

(6)　選手の交代

参加申込締切後の選手の交代は、特別な事情がない限り認めない。特別な事情で選手を交代する場合は、所定の様式、方法により次のア～ウ宛に届け出なければならない。

ア　全国を統轄する各中央競技団体事務局

イ　いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会実行委員会事務局

ウ　いちご一会とちぎ国体各競技会場地市町実行委員会事務局

なお、日本スポーツ協会に対しては、大会終了後、所定の手続きにより参加申込情報を修正すること。

９　棄権手続

参加申込締切後から競技初戦までの間において、特別な事情で選手が競技会を棄権する場合には、所定の棄権手続きをとらなければならない。

なお、棄権手続きに係る届出については選手交代届と同じ様式を用いること。

10　大会参加負担金

(1)　大会に参加選手団（視察員を除く）を派遣する都道府県体育・スポーツ協会は、大会参加負担金を納入する。一人当たりの大会参加負担金の額は下記のとおりとする。

区　　分	負　担　金
少年の種別に参加する選手	2,000 円
上記以外の者（本部役員、監督、成年の種別に参加する選手等）	4,000 円

(注) 地震、風水害、感染症およびその他主催者の責によらない事由により大会を中止した場合、大会参加負担金の返金は行わない。

(2)　大会参加負担金は、都道府県体育・スポーツ協会で取りまとめ、次のとおり納入する。

ア　納入締切日　2022 年９月７日（水）

イ　納入先　　みずほ銀行　渋谷支店　普通預金口座　513729
　　公益財団法人日本スポーツ協会

11　宿泊申込

大会参加者は、いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会実行委員会が指定した所定の様式により、定められた締切日までに申込む。

12　都道府県選手団本部役員編成

(1)　都道府県選手団本部役員は、次のとおりとする。

ア　参加選手 500 名以上の場合は、団長、総監督及び総務ほか、計 20 名以内とする。

イ　参加選手 300 名以上 500 名未満の場合は、団長、総監督及び総務ほか、計 15 名以内とする。

ウ　参加選手 300 名未満の場合は、団長、総監督及び総務ほか、計 10 名以内とする。

(2)　上記役員のほか、５名以内の顧問を設けることができる。

(3)　上記(1)及び(2)による本部役員総数の範囲内で、スポーツドクターを帯同するものとする。
なお、帯同するスポーツドクターは日本スポーツ協会公認スポーツドクター資格を有する者とする。

(4)　上記(1)及び(2)による本部役員総数の範囲内で、原則としてアスレティックトレーナーを帯同するものとする。
なお、帯同するアスレティックトレーナーは日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー資格を有する者とする。

(5)　都道府県選手団本部役員の１日あたりの編成人数については、上記(1)及び(2)による人数を上限とする。

(6)　都道府県選手団本部役員の参加申込は、2022 年９月７日（水）までに国民体育大会参加申込システムにより行う。

13　視察員

(1)　視察員は、１都道府県３名以内とする。ただし、2023 年以降の国民体育大会または国民スポーツ大会の開催が決定又は内定している県については、鹿児島県 100 名以内、佐賀県及び滋賀県 60 名以内、青森県及び宮崎県 40 名以内とする。

(2)　都道府県の視察員の参加申込は、2022 年９月７日（水）までに国民体育大会参加申込システムにより行う。

14　大会参加章、記念章及び視察員章の交付

大会参加章、記念章及び視察員章は、次の者に交付する。

(1)　大会参加章

都道府県選手団本部役員、監督及び選手並びに大会役員、競技会役員及び競技団体が指定した競技役員

(2)　記念章

公開競技・デモンストレーションスポーツ参加者

※　公開競技参加者への交付は、中央競技団体との協議による。

(3)　視察員章

視察員

15　参加上の注意

(1)　大会期間中は、交付された大会参加章、記念章又は視察員章を携帯しなければならない。

(2)　各都道府県の代表選手は、競技に際し、「国民体育大会ユニフォーム規程」に基づき、ユニフォームを着用しなければならない。

16　個人情報及び肖像権に関わる取り扱い

日本スポーツ協会、いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会実行委員会、いちご一会とちぎ国体各競技会場地市町実行委員会及び国民体育大会実施競技中央競技団体（以下「国体関係機関・団体」という。）は、参加申込等を通じて取得する個人情報及び肖像権の取り扱いに関して以下のとおり対応するものとする。

(1)　個人情報の取り扱い

ア　利用目的

大会参加申込として国民体育大会参加申込システムへ登録された個人情報は、国体関係機関・団体において、参加資格の確認や競技組合せなどをはじめとする大会運営業務のために利用し、目的以外に利用しない。

イ　公表の範囲と方法

個人情報のうち、所属都道府県、氏名、性別、年齢、学校名、チーム名等、所属と個人を識別するために必要な情報については、以下の方法等により公表することがある。

(ｱ)　総合プログラム及び競技別プログラムへの掲載

(ｲ)　競技会場内におけるアナウンス等による紹介

(ｳ)　競技会場内外の掲示板等への掲載

(ｴ)　大会関連ホームページへの掲載

(ｵ)　報道機関への提供

ウ　競技結果（記録）等

競技結果（記録）については、上記イで定めた個人情報とともに、以下の方法等により公表することがある。

(ｱ)　いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会実行委員会が設置する記録本部を通じた公開

(ｲ)　国体関係機関・団体及び報道機関等による新聞・雑誌及び関連ホームページ等への掲載

(ｳ)　国体関係機関・団体が作成する大会報告書等への掲載

(ｴ)　次回以降の大会プログラムへの掲載【新記録、優勝及び上位入賞結果（記録）等】

(2) 肖像権に関する取り扱い

ア 写真

国体関係機関・団体又はこれらに認められた報道機関等によって撮影された写真が、新聞・雑誌・報告書及び関連ホームページ等で公開されることがある。

イ 写真（写真撮影企業等）

国体関係機関・団体に認められた写真撮影企業等によって撮影された写真等が販売されることがある。

なお、各競技・会場における販売の有無等の詳細は、当該中央競技団体を中心に対応する。

ウ 映像

国体関係機関・団体又はこれらに認められた報道機関等によって撮影された映像が、中継・録画放映及びインターネットによって配信されることがある。また、DVD 等に編集され、販売・配付されることがある。

なお、各競技における販売の有無等の詳細は、当該中央競技団体を中心に対応する。

(3) 対応

ア 承諾の確認

大会参加申込として国民体育大会参加申込システムへ登録された時点で、上記取り扱いに関する承諾を得たものとして対応する。

なお、各競技会における取り扱いに伴い、別途、当該中央競技団体等によって個別に承諾を確認することがある。

イ 役員等

大会役員、競技役員、運営役員、その他各種委員や補助員、国体関係機関・団体と大会に関する契約をしている者及び大会運営関係者については、上記取り扱いに関する承諾を得たものとして対応する。

17 都道府県大会及びブロック大会

正式競技については、本大会の予選として次のとおり都道府県大会（ブロック大会）を開催しなければならない。

(1) 都道府県の主催団体は、必要に応じて日本スポーツ協会及び中央競技団体等関係団体と協議の上、本要項に基づき実施要項を作成する。

なお、日本スポーツ協会及び中央競技団体は、その内容に不備がある場合、適宜指導を行うものとする。

(2) 都道府県大会の実施にあたり、当該都道府県主催団体は、適正な手続きに則り決定した代表選手の選抜方法・選考基準について、予め関係者に周知徹底を図るものとする。

(3) 参加者は、実施要項に基づき当該主催団体に申込む。

なお、参加は１人１競技に限る。

(4) ブロック大会の申込みは、原則として国民体育大会参加申込システムにより行い、様式は日本スポーツ協会及び当該主催団体が協議の上、作成する。

なお、参加申込システムを使用しない場合の様式については、当該主催団体において別途作成する。

(5) 都道府県大会の参加申込様式は、当該主催団体において作成する。

(6) 参加料を徴収する場合の金額は、当該主催団体が中央競技団体と協議の上、定める。

(7) 競技運営に差し支えない限り、栃木県選手は当該競技ブロック大会を経ることなく本大会

に参加することができる。

18　国民体育大会参加者傷害補償制度

日本スポーツ協会及び都道府県体育・スポーツ協会は、国民体育大会参加者に対する社会的責任体制を整えるとともに、大会参加者の相互扶助の精神に基づいた補償制度として大会参加者による国民体育大会参加者傷害補償制度を運営する。

(1)　本制度の対象となる参加者は、ブロック大会及び本大会に参加する本制度給付規定に定められた選手、監督、選手団本部役員(顧問を含む)、視察員並びにその他選手団役員とする。

(2)　大会参加の都道府県体育・スポーツ協会は、国民体育大会参加者傷害補償制度の対象となる参加者数に応じた制度負担金（一人あたり 1,000 円）を、日本スポーツ協会に納入する。

(3)　納入締切日及び納入先については、別途日本スポーツ協会から都道府県体育・スポーツ協会へ通知する。

19　そ の 他

(1)　参加申込及び宿泊申込が、定められた締切日までに行われない場合、又は、参加負担金が定められた納入締切日までに納入されない場合は、本大会への参加を認めない。

(2)　その他の事項については、国民体育大会開催基準要項及び同細則による。

(3)　大会の実施にあたっては、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、政府方針をはじめ、公益財団法人日本スポーツ協会策定の「国民体育大会開催における新型コロナウイルス感染拡大防止に関する基本方針」、開催地版ガイドライン、競技別ガイドライン、業種別ガイドライン等を基に、大会運営に必要な対策を十分に講じた上で開催することとする。なお、感染拡大防止対策として個人の健康管理の記録に際しては、体調管理アプリケーション又は体調管理チェックシートを利用するものとし、使用する体調管理アプリケーション又は体調管理チェックシートで取得した個人情報については、大会への出場・参加・来場資格の確認および大会運営業務のために利用し、目的以外に利用しない。

別記１　「国民体育大会ふるさと選手制度」

１　成年種別年齢域の選手は、国民体育大会開催基準要項細則第３項〔国民体育大会開催基準要項第８項第１号及び第 10 項第４号（参加資格及び年齢基準等）〕に基づき、下記のいずれかを拠点とした都道府県から参加することができる。

(1)　居住地を示す現住所

(2)　勤務地

(3)　ふるさと

２　「ふるさと」とは、卒業小学校、卒業中学校又は卒業高等学校のいずれかの所在地が属する都道府県とする。

　ただし、JOC エリートアカデミーに係る選手については、別に定める「JOC エリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」第３項により取り扱うものとする。

３　我が国の競技力向上を支援する観点より、日本国籍を有する者及び「永住者」については、日本における滞在期間に関わらず、本制度を活用できるものとする。

４　「ふるさと選手制度」を活用し参加を希望する選手は、予め所定の方法により「ふるさと」を登録しなければならない。なお、一度登録した「ふるさと」は変更できないものとする。

５　「ふるさと」から参加する選手は、国民体育大会開催基準要項細則第３項－(1)－1)－③（国内移動選手の制限）に抵触しないものとする。

６　ふるさと選手制度の活用については、原則として、１回につき２年以上連続とし、利用できる回数は２回までとする。

７　参加都道府県は「ふるさと選手」を所定の様式、方法により、当該大会実施要項で定めた参加申込み締切り期日までに、公益財団法人日本スポーツ協会宛に提出する。

別記２　「『一家転住等』に伴う特例措置」

転校への特例

１　次の内容をすべて満たすことにより、国内移動選手の制限（国民体育大会開催基準要項細則第３項－(1)－1)－③）に抵触しないものとする。

(1)　この特例の対象は、「少年種別」への参加者に限る。

(2)　本特例を受けることができるのは、一家転住等やむを得ない理由に限ることとする。

なお「一家転住等」とは概ね次のことを言う。

ア　親の転勤による一家の転居

イ　親の結婚、離婚による一家の転居

ウ　上記以外に、やむを得ない理由による一家の転居

(3)　転居した時点に応じて、以下の手続きを終了していること。

ア　本特例を受けようとする参加者は、下記２(1)の場合は転居元、下記２(2)の場合は転居先が属する都道府県体育・スポーツ協会及び都道府県競技団体に対し、その旨報告すること。

イ　報告を受けた都道府県体育・スポーツ協会及び都道府県競技団体は、下記２(1)の場合は転居先、下記２(2)の場合は転居元が属する都道府県体育・スポーツ協会及び都道府県競技団体に対し、その旨報告し了承を得ること。

２　本特例を受ける当該大会において、参加することができる都道府県は以下のとおりとする。

(1)　転居した時点において、以下に該当する場合は転居元が属する都道府県から参加することができる。

ア　転居先が属する都道府県の代表が既に決定している場合

イ　当該参加者が、転居元が属する都道府県の代表として既に決定している場合

ウ　当該参加者が、転居元が属する都道府県の代表選考過程にある場合

(2)　転居した時点において、以下に該当する場合は転居先が属する都道府県から参加することができる。

ア　転居元が属する都道府県において、当該大会における都道府県代表の選考が開始されていない場合

別記３　「JOC エリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」

公益財団法人日本オリンピック委員会が実施する「JOC エリートアカデミー」に係る選手のうち、下記１に該当する者については、国民体育大会開催基準要項細則第３項〔国民体育大会開催基準要項第８項第１号及び第 10 項第４号（参加資格及び年齢基準等）〕及び別記１「国民体育大会ふるさと選手制度」に関し、次の２～４の特例を適用する。

１　対象者

(1)　少年種別年齢域の選手で JOC エリートアカデミーに在籍する者

(2)　成年種別年齢域の選手でJOCエリートアカデミーを修了した者、または同アカデミーに在籍する者

２　少年種別年齢域の選手の所属都道府県

本特例第１項－(1)に定める少年種別年齢域の選手は、その所属都道府県について、国民体育大会開催基準要項細則第３項－(1)－2) - ②に定める「居住地を示す現住所」、「学校教育法第１条に規程する学校の所在地」、「勤務地」のほか、卒業小学校の所在地が属する都道府県を選択することができる。

なお、同アカデミーへの入校時において小学生であった場合には、入校する直前まで通学していた小学校の所在地が属する都道府県を選択することができる。

３　成年種別年齢域の選手の「ふるさと」

本特例第１項－(2)に定める成年種別年齢域の選手は、別記１「国民体育大会ふるさと選手制度」第２項に定める卒業小学校、卒業中学校又は卒業高等学校のいずれかの所在地が属する都道府県のほか、同アカデミーでの入校時において小学生であった場合には、入校する直前まで通学していた小学校の所在地が属する都道府県を「ふるさと」とすることができる。

４　国内移動選手の制限に係る例外適用

本特例第１項－(1)に定める少年種別年齢域の選手が前回の大会（都道府県大会を含む）と異なる都道府県から参加する場合、国民体育大会開催基準要項細則第３項－(1)－1)－③（国内移動選手の制限）に抵触しないものとする。

［注］　本特例第１項－(2)に定める成年種別年齢域の選手については、国民体育大会開催基準要項細則第３項－(1)－1)－③(国内移動選手の制限)の規定に従い取り扱うものとする。

別記４　「トップアスリートの国民体育大会参加資格の特例措置」

我が国の競技力向上を支援する観点より、一定の競技力を有する選手に対して、「トップアスリートの国民体育大会参加資格の特例措置（以下「本特例」という。）」を下記のとおり定める。

１　特例の対象となる選手

本特例の対象となる選手は、下記の条件のいずれかを満たす者とする。

（1）　第 32 回オリンピック競技大会（2021 年・東京）に参加した者。

（2）　2022 年４月 30 日時点で、下記のいずれかに該当し、各中央競技団体が本特例の対象として認めた者

ア　JOC オリンピック強化指定選手

イ　各競技（種目）における国内ランキング上位 10 位以内の者

ウ　中央競技団体が定めた強化指定選手

※　強化指定ランクについては、各競技における全日本選手権大会入賞レベル以上のカテゴリーを対象とする。

２　特例の内容

（1）　予選会の免除

本特例の対象となる選手については、都道府県予選会及びブロック大会を経ずに国民体育大会本大会に参加することができるものとする。ただし、ブロック大会実施競技種目・種別においては、当該都道府県代表選手又はチームがブロック大会に参加し、本大会参加枠を獲得している場合とする。

（2）　資格要件（日数要件の緩和）

本特例の対象となる選手が所属都道府県として「居住地を示す現住所」又は「勤務地」を選択する場合は、日数に関する要件を定めないこととし、以下のとおりとする。

ア　居住地を示す現住所

次の要件をいずれも満たすものとする。

（ｱ）　2022 年４月 30 日以前から大会終了時(2022 年 10 月 11 日)まで引き続き、住民票記載の住所に存する都道府県において生活している実態があり、当該都道府県以外（海外を含む）において生活している実態がないこと。

なお、生活の実態については、下記要件により判断する。

ａ　自ら所有する住居、又は自らの名義で住居を賃借していること

ｂ　当該住居に生計を一にする家族と共に住んでいること

ｃ　当該住居の水道光熱費など費用を自ら負担していること

ｄ　当該住居に主要な家財道具が存すること

（ｲ）　合宿、試合等により当該都道府県外で活動を行う場合、当該都道府県を移動の起点としていること。

イ　勤務地

次の要件をいずれも満たすものとする。

（ｱ）　2022 年４月 30 日以前から大会終了時（2022 年 10 月 11 日）まで引き続き、雇用主と雇用契約を締結した上で、当該都道府県内に存する雇用主の会社や事業所等に現実に通勤し、勤務していること。

（ｲ）　当該都道府県内で、競技普及活動等の事業に参加すること。

3　国内移動選手の制限

本特例の対象となる選手の国内移動選手の制限については、国民体育大会開催基準要項細則第３項－(1)－1)－③のとおりとする。

別記５　「東日本大震災に係る選手及び監督の国民体育大会参加資格の特例措置」

１　特例の対象となる被災地域都道府県

震災による被害状況及び影響等を総合的に勘案し、青森県、岩手県、宮城県、福島県、茨城県、千葉県の６県を本特例の適用対象となる被災地域都道府県（以下「特例対象県」という。）とする。

なお、特例対象県以外の都道府県において対応が必要となった場合は、個別に取り扱うこととする。

２　特例の内容

(1)　特例対象県を所属都道府県とする場合の要件緩和

以下の選手及び監督は、「居住地を示す現住所」、「学校所在地」または「勤務地」の各要件を満たしていなくとも、当該特例対象県から参加することができる。

【特例の対象者】

被災地域からの避難等、災害の影響によるやむを得ない事情によって、当該特例対象県における「居住地を示す現住所」、「学校所在地」または「勤務地」の各要件を満たすことができなくなった者。

ただし、以下の事項のいずれにも該当していること。

ア　2011 年３月 11 日（震災発生時）時点において、当該特例対象県内に居住または勤務していた者。もしくは当該特例対象県内の「学校教育法」第１条に規定する学校に在籍していた者であること。

イ　災害が発生しなかったと仮定した場合、 2022 年４月 30 日以前から大会終了時（2022 年 10 月 11 日）まで継続して当該特例対象県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」または「勤務地」とする要件を満たしていたと合理的に推測される者であること。

(2)　避難等による移動先の都道府県を所属都道府県とする場合の要件緩和

ア　被災地域からの避難等により、当該特例対象県と異なる都道府県に移動した以下の選手及び監督については、移動先の都道府県から参加することができる。

なお、この場合、第 75 回及び第 76 回大会に当該特例対象県から参加していても、国民体育大会開催基準要項細則第３項－(1)－1)－③（国内移動選手の制限）には抵触しないものとする。

【特例の対象者】

被災地域からの避難等、災害の影響によるやむを得ない事情によって、当該特例対象県から移動せざるを得なかった者。

ただし、以下の事項のいずれにも該当していること。

(ｱ)　2011 年３月 11 日時点において、当該特例対象県内に居住または勤務していた者。もしくは当該特例対象県内の「学校教育法」第１条に規定する学校に在籍していた者であること。

(ｲ)　移動先の都道府県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」または「勤務地」とする要件を満たしていること。

なお、移動が生じた時期が 2022 年４月 30 日以降の場合は、移動先の都道府県の予選会開始までに要件を満たしていることとする。

［注］「居住地を示す現住所」及び「学校所在地」として参加を希望する者については、当該自治体への住所に関する届出または学籍に係る要件を満たしていなくとも、それに準ずる公的な証明書類を提出でき、かつ移動先の都道府県に居住あるいは通学

している実態を有していると日本スポーツ協会が認めた場合、移動先の都道府県から出場することができる。

イ　本項アを適用して避難等による移動先の都道府県から第 76 回大会または第 77 回大会に参加した者が、2023 年開催の特別大会において、以下のような震災にかかる理由により再度都道府県を移動して参加する場合は、国民体育大会開催基準要項細則第３項－(1)－1)－③（国内移動選手の制限）には抵触しないものとする。

＜例＞ ○　避難先を離れ、当該特例対象県に戻る場合

○　避難先を離れ、他の都道府県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」とする場合

○　他の都道府県に避難先を移す場合

(3)　避難等による移動先の属する都道府県において学校を卒業した場合の「ふるさと」選択要件の緩和

避難等による移動先の属する都道府県において小学校、中学校または高等学校を卒業した者が、成年種別年齢域に達した際、「国民体育大会ふるさと選手制度」を活用して参加する場合、以下のいずれかを「ふるさと」として登録することができる。

ア　卒業小学校、卒業中学校または卒業高等学校の所在地

イ　災害の発生した時点で在籍していた小学校、中学校または高等学校の所在地

なお、本特例を適用して上記イの学校所在地を「ふるさと」登録した場合についても、卒業小学校、卒業中学校または卒業高等学校の所在地を「ふるさと」とする場合と同様、一度登録した「ふるさと」は変更できない。

【特例の対象者】

2011年度から2012年度（小学校は2015年度）までに、避難等による移動先の属する都道府県において小学校、中学校または高等学校を卒業した者。

第 77 回国民体育大会バドミントン競技会実施要項

1　期　　日　　2022 年 10 月７日（金）から 10 月 10 日（月）まで（４日間）

種　　別	10 月７日（金）	10 月８日（土）	10 月９日（日）	10 月 10 日（月）
成年男子	１・２回戦	３　回　戦	準々決勝・準決勝	３位決定戦・決勝
成年女子		１　回　戦	準々決勝・準決勝	３位決定戦・決勝
少年男子		１　回　戦	準々決勝・準決勝	３位決定戦・決勝
少年女子	１　回　戦	２　回　戦	準々決勝・準決勝	３位決定戦・決勝

2　会　　場　　大田原市　　栃木県立県北体育館

3　種別及び参加人員

種　　別	監　督	選　手	参加都道府県	小　計	合　計(人)
成年男子	1	3	47	188	444
成年女子	1	3	16	64	
少年男子	1	3	16	64	
少年女子	1	3	32	128	

※ 成年選手は監督を兼任することができる。

4　競技上の規程及び方法

(1)　2022 年度の公益財団法人日本バドミントン協会競技規則・大会運営規程並びに公認審判員規程による。

(2)　各種別とも１複２単による都道府県対抗トーナメント方式とし、うち２試合を得た方を勝ちとし、勝敗決定後の試合は打ち切る。また、３位決定戦を行う。

(3)　組合せは、公益財団法人日本バドミントン協会指名のレフェリー（競技役員長）もしくは、デピュティーレフェリー（競技審判部長）の指示及び公益財団法人日本スポーツ協会国体委員の立会いの下、主管団体役員との間で厳正に執り行う。

5　予選方法

ブロック大会を通過したチームが本大会に出場する。（成年男子は全都道府県が参加）

ブロック大会区分及び選出チーム数は、下表のとおりとする。

ブロック名	都　道　府　県　名	成年女子	少年男子	少年女子
北　海　道	北海道	1	1	1
東　　北	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島	2	2	4
関　　東	茨城、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨	2	2	5
北　信　越	新潟、長野、富山、石川、福井	2	2	3
東　　海	静岡、愛知、三重、岐阜	1	1	3
近　　畿	滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山	2	2	4
中　　国	鳥取、島根、岡山、広島、山口	2	2	3
四　　国	香川、徳島、愛媛、高知	1	1	3

九　　州	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄	2	2	5
開 催 県	栃木	1	1	1
計		16	16	32

6　参加資格、所属都道府県及び選手の年齢基準

総則５に定めるところによる。

(1)　少年種別に参加できる選手は、2007 年４月２日から 2008 年４月１日までの間に生まれた中学３年生を含むものとする。

(2)　監督は、公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度に基づく公認バドミントンコーチ１、公認バドミントンコーチ２、公認バドミントンコーチ３、公認バドミントンコーチ４の有資格者であることとする。

(3)　参加選手は、全期間出場できるものとする。

7　総合成績決定方法

男女総合成績（天皇杯得点）及び女子総合成績（皇后杯得点）は、競技得点と参加得点の合計とし、その得点の多い都道府県順に第１位から第８位までを決定する。

ただし、同点の場合は、その順位を共有し、次の順位を欠位とする。

(1)　競技得点

天皇杯対象種別	皇后杯対象種別	競　技　得　点
成 年 男 子 成 年 女 子 少 年 男 子 少 年 女 子	成 年 女 子 少 年 女 子	各種別とも１位 24 点、２位 21 点、３位 18 点、４位 15 点、５位（４チーム）各 7.5 点の競技得点を与える。

(2)　参加得点

大会（ブロック大会を含む）に参加した都道府県に 10 点を与える。ただし、ブロック大会で本大会の出場権を獲得しながら、本大会に参加しなかった場合は与えない。

8　表　　彰

(1)　男女総合成績及び女子総合成績第１位から第８位までの都道府県に、表彰状を授与する。

(2)　男女総合成績第１位の都道府県に、大会会長トロフィーを授与する。

(3)　各種別の第１位から第５位（４チーム）までに、賞状を授与する。

9　参加申込み方法

(1)　所定の Web ページ(国民体育大会参加申込システム)へアクセスし、必要項目を入力の上、所属都道府県体育・スポーツ協会を通じて、2022 年９月７日（水）までに申込み手続きを完了すること。

(2)　締切期限以降は所定の Web ページ(国民体育大会参加申込システム)へアクセスできなくなるので、締切期限を厳守すること。

(3)　参加申込み締切後の選手変更は、疾病、傷害、一親等内の親族の弔事などの特別な事情の場合のみ認めるものとし、その場合は、下記のア、イ、ウの事務局宛に文書で届け出なければならない。疾病、傷害などによる変更の場合は医師の診断書の添付が必要となる。また、監督変更については正当な理由がある場合は認められるが、選手変更と同様に下記のア、イ、

ウの事務局宛に文書で届けなければならない。その場合、監督交代の理由書の添付が必要となる。ただし、いずれの文書の提出も監督会議開催前までとする。

ア　〒160-0013　東京都新宿区霞ヶ丘町４番２号　JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE
公益財団法人日本バドミントン協会
TEL 03-6434-5141　FAX 03-6434-7715

イ　〒320-8501　栃木県宇都宮市塙田一丁目１番 20 号
いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会実行委員会事務局
（栃木県国体・障害者スポーツ大会局　競技式典課　競技担当）
TEL 028-623-3849　FAX 028-623-3527

ウ　〒324-8641　栃木県大田原市本町一丁目４番１号
いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会大田原市実行委員会事務局
（大田原市教育委員会教育部国体推進課）
TEL 0287-47-6100　FAX 0287-47-6101

なお、公益財団法人日本スポーツ協会に対しては、大会終了後、別途、所定の手続きにより参加申込情報を修正すること。

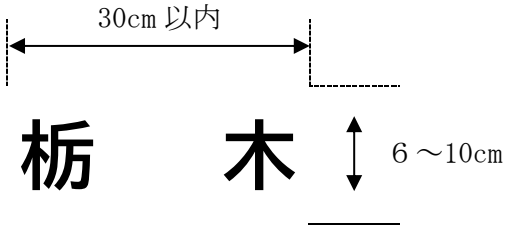
10　参加上の注意

競技に際しては、上衣背面中央に縦６～10cm、横 30cm 以内の範囲に都道府県名を明示すること。文字は、上衣背面の都道府県名明示部分の色と明確に区別できる文字色の漢字とする。

また、ゼッケンを使用する場合には、縦 15cm、横 30cm を基準とし、必ず四隅を固定すること。

なお、文字列の大きさについては公益財団法人日本バドミントン協会大会運営規程第 24 条による。

（例）



11　その他

(1)　組合せ抽選会

日　時　　2022 年９月９日（金）　午後１時

場　所　　JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE
〒160-0013　東京都新宿区霞ヶ丘町４番２号　JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE
TEL 03-6434-5141　FAX 03-6434-7715

(2)　監督会議

日　時　　2022 年 10 月６日（木）　午後２時 30 分

場　所　　栃木県立県北体育館
〒324-0047　栃木県大田原市美原三丁目２番 62 号
TEL 0287-22-8012　FAX 0287-22-8016

(3) 審判会議

日　時　　2022年10月６日（木）　午後４時30分

場　所　　栃木県立県北体育館

〒324-0047　栃木県大田原市美原三丁目２番62号

TEL 0287-22-8012　FAX 0287-22-8016

(4) 表彰式

日　時　　2022年10月10日（月）　午後２時

場　所　　栃木県立県北体育館

〒324-0047　栃木県大田原市美原三丁目２番62号

TEL 0287-22-8012　FAX 0287-22-8016

表彰式次第

１　日　程　　令和４年１０月１０日（月）　午後２時００分

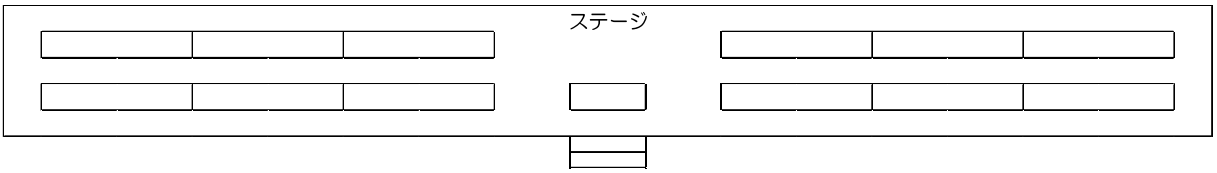
２　場　所　　栃木県立県北体育館メインアリーナ

３　式次第

順　序	次　　第	予定時刻
１	競技（決勝戦）終了	１３：００
２	選手団集合・関係役員整列完了	１３：５５
３	開式通告	１４：００
４	成績発表	１４：０１
５	表彰	１４：０４
６	競技会会長あいさつ	１４：３４
７	感謝状贈呈	１４：３７
８	歓送のことば	１４：４０
９	競技会終了宣言	１４：４３
１０	閉式通告	１４：４４
１１	選手団解散	１４：４５
１２	関係役員解散	１４：５０

表彰式会場図

栃木県立県北体育館メインアリーナ



少年女子	少年男子	成年女子	成年男子	女子総合	男女総合
１位	１位	１位	１位	１位	１位
２位	２位	２位	２位	２位	２位
３位	３位	３位	３位	３位	３位
４位	４位	４位	４位	４位	４位
５位	５位	５位	５位	５位	５位
５位	５位	５位	５位	６位	６位
５位	５位	５位	５位	７位	７位
５位	５位	５位	５位	８位	８位

競　技　日　程

監 督 会 議	10月6日（木）	14時30分	栃木県立 県北体育館
審 判 会 議	10月6日（木）	16時30分	同上

		１０月７日（金）	１０月８日（土）	１０月９日（日）	１０月１０日（月）
栃木県立県北体育館	9:00 9:30				
	10:00 10:30	成年男子（M） １回戦（７試合） 9:30～	少年男子（B） １回戦（８試合） 9:30～	成年女子（W） 準々決勝（４試合） 少年男子（B） 準々決勝（４試合） 9:30～	成年男子（M） 成年女子（W） 少年男子（B） 少年女子（G） ３位決定戦 9:30～
	11:00 11:30	成年男子（M） １回戦（８試合） 10:45～	成年女子（W） １回戦（８試合） 11:15～	成年男子（M） 準々決勝（４試合） 少年女子（G） 準々決勝（４試合） 11:15～	成年男子（M） 成年女子（W） 少年男子（B） 少年女子（G） 決勝戦 11:15～
	12:00 12:30 13:00	少年女子（G） １回戦（８試合） 12:00～			
	13:30 14:00	少年女子（G） １回戦（８試合） 13:15～	少年女子（G） ２回戦（８試合） 13:00～	成年女子（W） 準決勝（２試合） 少年男子（B） 準決勝（２試合） 13:00～	
	14:30 15:00 15:30	成年男子（M） ２回戦（８試合） 14:30～	成年男子（M） ３回戦（８試合） 14:45～	成年男子（M） 準決勝（２試合） 少年女子（G） 準決勝（２試合） 14:45～	
	16:00 16:30 17:00	成年男子（M） ２回戦（８試合） 15:45～			
	17:30 18:00 18:30 19:00				

表　彰　式	10月10日（月）	14時00分	栃木県立県北体育館

※　Mは成年男子、Wは成年女子、Bは少年男子、Gは少年女子

タイムテーブル

競技会場		栃木県立県北体育館								
月　日	コート番号 / 開始時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9
第１日目 １０月7日 （金）	9:30	M１	M２	M３	M４	M５	M６	M７		
	10:45	M８	M９	M１０	M１１	M１２	M１３	M１４	M１５	
	12:00	G１	G２	G３	G４	G５	G６	G７	G８	
	13:15	G９	G１０	G１１	G１２	G１３	G１４	G１５	G１６	
	14:30	M１６	M１７	M１８	M１９	M２０	M２１	M２２	M２３	
	15:45	M２４	M２５	M２６	M２７	M２８	M２９	M３０	M３１	
第２日目 １０月８日 （土）	9:30	B１	B２	B３	B４	B５	B６	B７	B８	
	11:15	W１	W２	W３	W４	W５	W６	W７	W８	
	13:00	G１７	G１８	G１９	G２０	G２１	G２２	G２３	G２４	
	14:45	M３２	M３３	M３４	M３５	M３６	M３７	M３８	M３９	
第３日目 １０月９日 （日）	9:30	B９	B１０	B１１	B１２	W９	W１０	W１１	W１２	
	11:15	M４０	M４１	M４２	M４３	G２５	G２６	G２７	G２８	
	13:00	B１３		B１４			W１３		W１４	
	14:45		M４４		M４５		G２９		G３０	
第４日目 １０月１０日 （月）	9:30	G３１		W１５			M４６		B１５	
	11:15		G３２		W１６	M４７		B１６		
	14:00	表　彰　式								

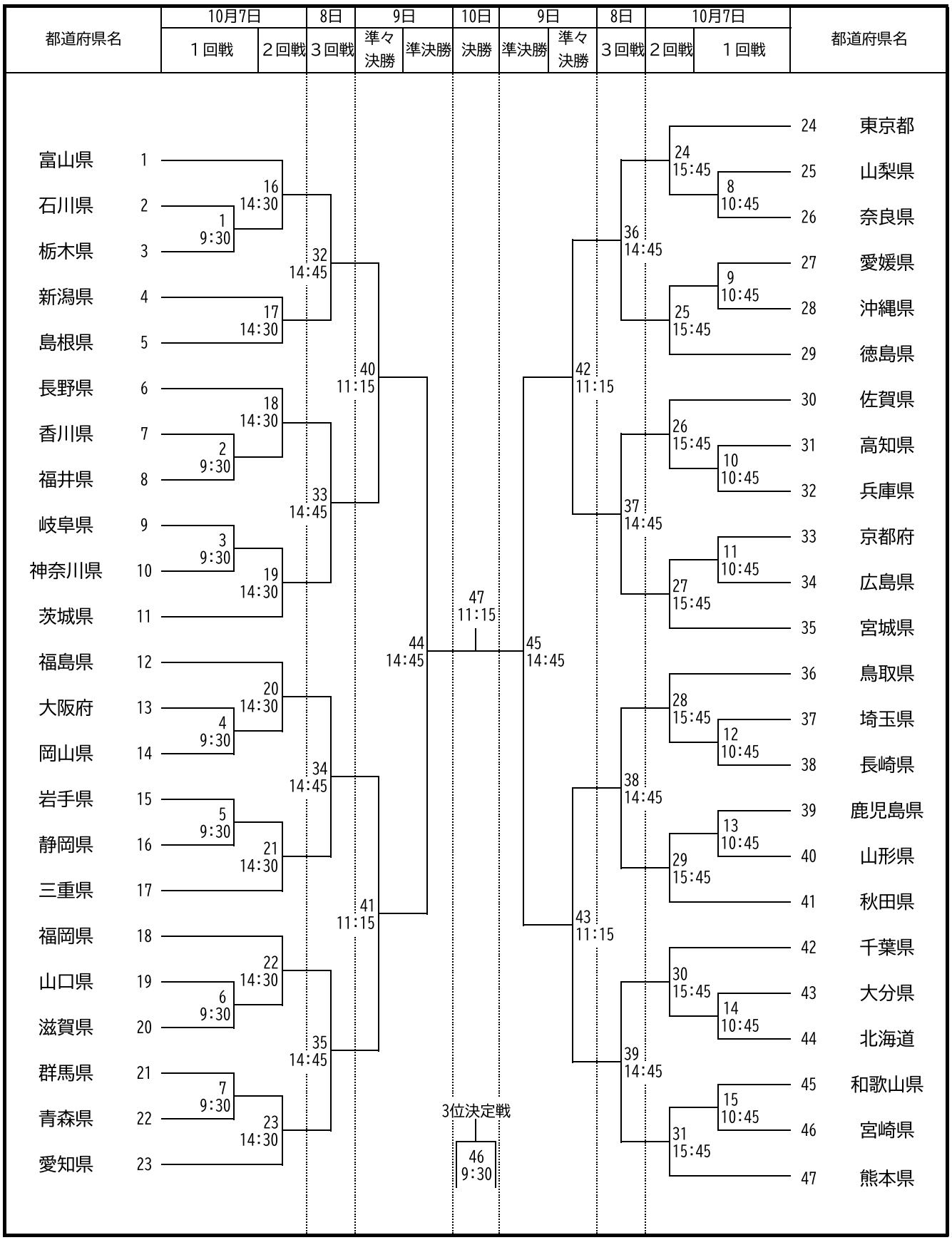
＊　Mは成年男子、Wは成年女子、Bは少年男子、Gは少年女子

＊　□　は決勝戦、＿＿＿　は３位決定戦

＊　試合が遅れた場合はコートを変更して行うことがあります。

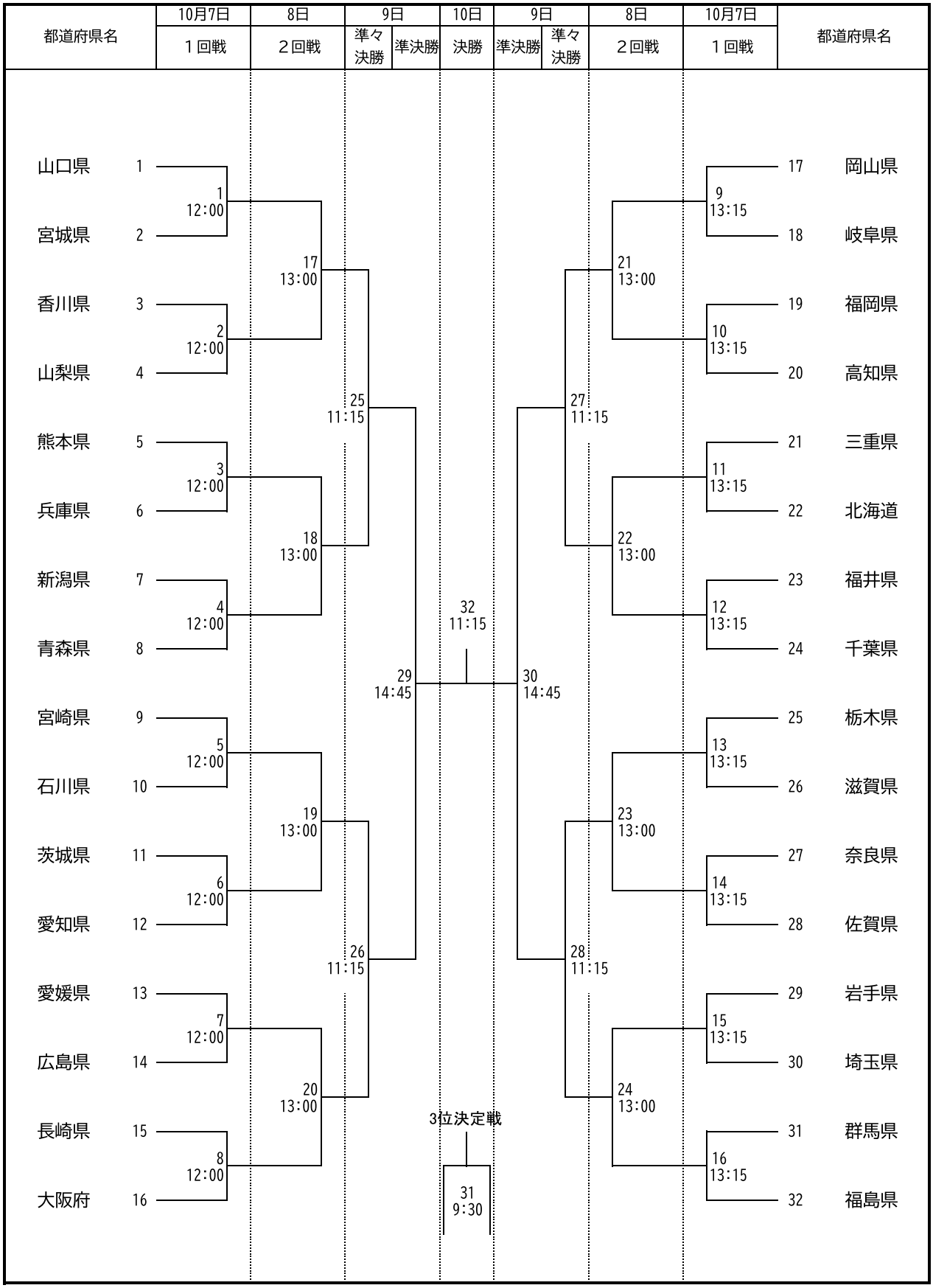
成年男子　組合せ表

【　成年男子（M）】



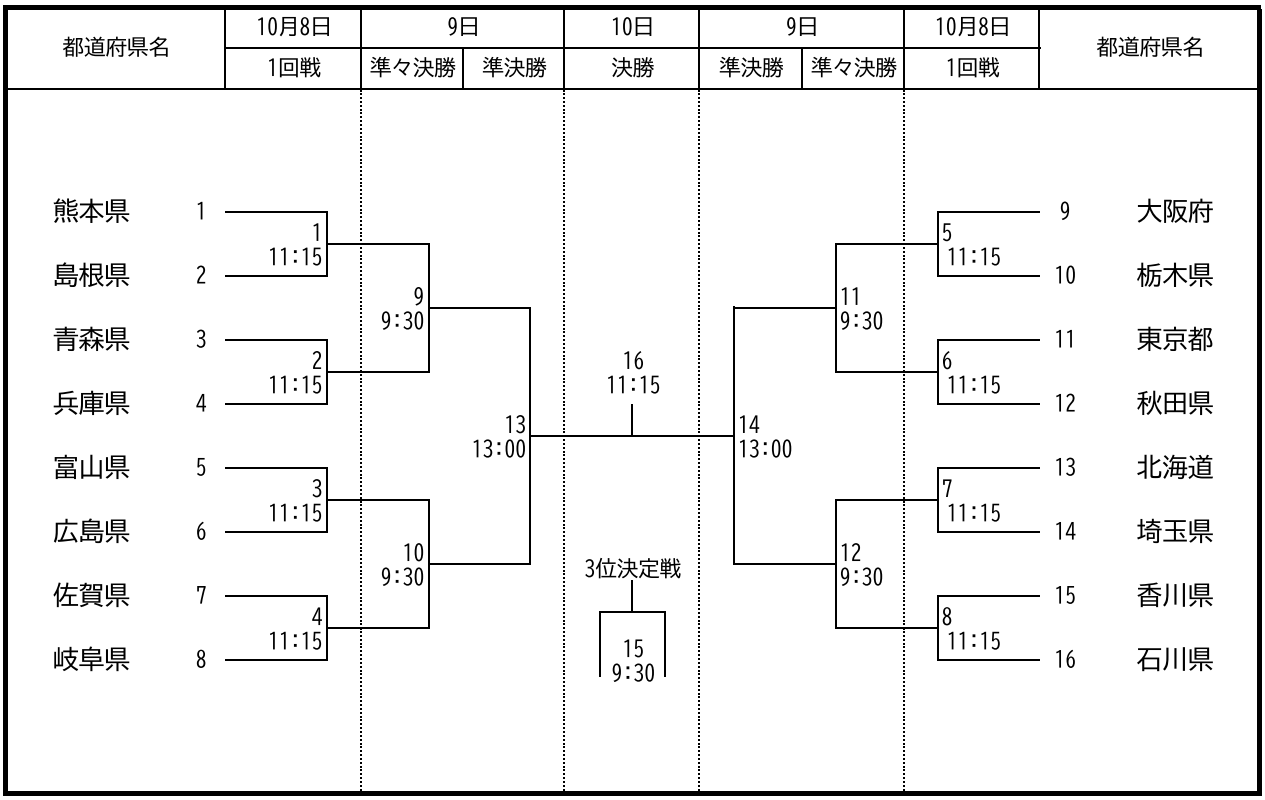
少年女子　組合せ表

【　少年女子（G）】

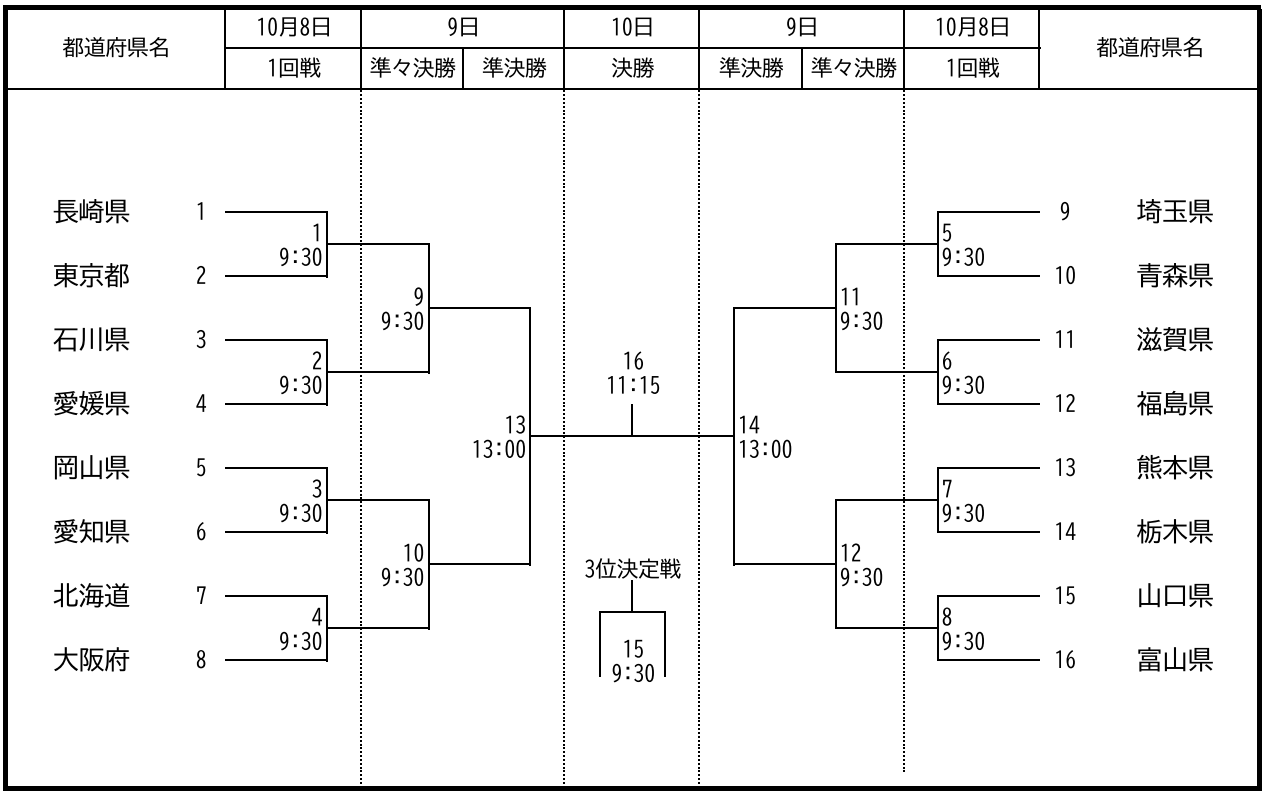


成年女子・少年男子　組合せ表

【　成年女子（W）】



【　少年男子（B）】



バドミントンを楽しく見るために



一般的な質問

Q. バドミントンとは、どんなスポーツですか？

A.　ネットを挟んでラケットでシャトル（羽根）を打ち合うスポーツです。決められた相手コート内にシャトルを落とすか、相手がフォルト（反則）を取られた場合、点数が入ります。

試合には、１対１のシングルス（単）と２対２のダブルス（複）があり、ダブルスには、男性同士、女性同士でペアを組むものと、男女でペアを組むミックスダブルスがあります。

競技としてのバドミントンは、緩急を使い分ける様々なショットやフットワーク、対戦相手との駆け引き、ダブルスの場合、ペアとのコンビネーションなど多岐にわたる技術を必要とし、パワーや瞬発力とともに持久力の優劣も勝負を左右する、複雑で非常に激しいスポーツです。

Q. シャトル（羽根）とはどんなものですか？

A.　コルクの台にガチョウまたはアヒルの羽根を 16 枚取り付けています。重さは５ｇ程しかありません。

Q. ラケットの重さや長さはどれくらいですか？

A.　規定ではフレームの全長が 68 ㎝以内、幅 23 ㎝以内と決められています。重さは 80～86ｇが主流で、材質はカーボンやチタン等が使われています

プレーヤーはそれぞれ自分に合わせてラケットを選んだり、ストリング（ガット）の張りの強さを変えたりして使っています。

Q. 打たれた時のシャトルのスピードはどれ位ですか？

A.　全ての球技の中で打球の初速が最も速いことで、ギネスブックに認定されています。下向きに強く打つスマッシュのとき、世界の一流選手の初速は 400 ㎞を超え、世界記録はなんと 493 ㎞（2013 年 7 月 28 日ギネス世界記録認定）にもなり、その速度は瞬間的には新幹線より速いスピードです。

Q. 新幹線より速いシャトルをどうして打ち返すことができるのですか？

A.　ラケットから離れる時の速度は速いのですが、シャトルは羽根がついているので空気抵抗を受けやすいため、打球がネットを越えてある距離になると減速します。初速と終速の差が一番大きいスポーツでもあります。また、慣れてくると飛んでくるシャトルのコースを予測できるようになります。

Q. どうすれば得点（ポイント）になりますか？

A.　試合は３ゲーム行い（１ゲーム 21 点）、２ゲーム先取した方が勝ちとなります。

また、両者が 20 点になった場合は、その後最初に２点差をつけた方、もしくは先に 30 点に達した方が勝ちとなります。

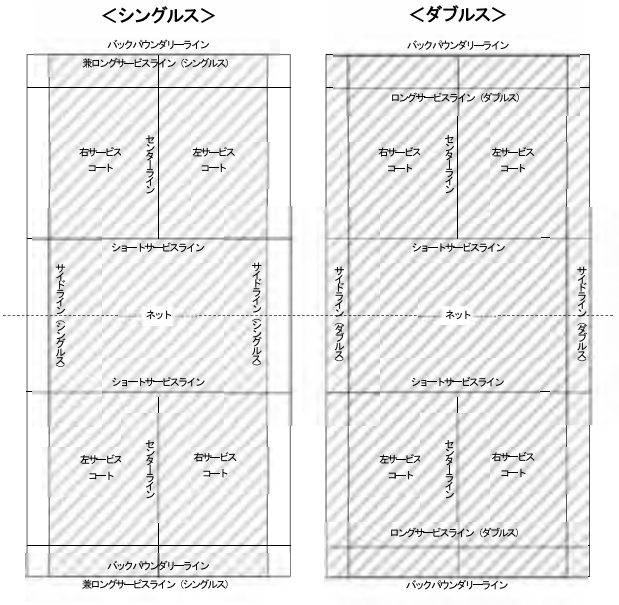
Q. ラリーポイント制とは何ですか？

A.　サービス権の有無にかかわらず、ラリーに勝ったときに得点になるのがラリーポイント制です。

（国体では 2006 年に開催された兵庫国体までは、サービス権を持っているサイドの方がラリーに勝ったときだけ得点になりましたが、翌年の秋田国体からはラリーポイント制に変わりました。）

Q. シングルスとダブルスでコートの使い方は違うのですか？

A.　下の図のとおりロングサービスラインやサイドラインの位置が異なります。斜線で塗りつぶしている部分が使用する範囲になります。



国体に特化した質問

Q. 種別はどのようなものがありますか？

A.　成年男子・成年女子・少年男子・少年女子の４種別があります。

Q. 参加都道府県はどうやって決めるのですか？

A.　ブロック大会を通過したチームが国体に出場できます。

第 77 回国民体育大会では成年男子は４７都道府県全てが出場できます。

成年女子、少年男子、少年女子は全国を９ブロックに分けて、各ブロック大会を勝ち抜いた都道府県が出場でき、成年女子と少年男子は開催県（栃木県）を含む 16 チーム、少年女子は開催県（栃木県）を含む 32 チームの参加となります。

Q. 試合はどのようにして行いますか？

A.　すべて都道府県対抗の団体戦トーナメント方式で行います。

試合は、ダブルス（複）－シングルス（単）－シングルス（単）の順で行い、先に２勝したチームが勝ちとなります。なお、勝敗決定後のゲームは行いません。

Q. 天皇杯得点・皇后杯得点は、どのようにして決まるのですか？

A.　得点には、競技得点と参加得点があります。競技得点は、各種別ともに１位 24 点、２位 21 点、３位 18 点、４位 15 点、５位（４チーム）各 7.5 点です。参加得点は、大会（ブロック大会を含む）に参加した都道府県に 10 点を与えるものです。ただし、ブロック大会で本大会の出場権を獲得しながら、本大会に参加しなかった場合は与えられません。

男女総合成績を競う天皇杯の対象種別は全種別となり、女子総合成成績を競う皇后杯の対象種別は成年女子・少年女子になります。

都道府県別参加人数一覧表

ブロック	都道府県	監督	成年男子	成年女子	少年男子	少年女子	計
北海道	北海道	4	3	3	3	3	16
東北	青森県	4	3	3	3	3	16
	岩手県	2	3			3	8
	宮城県	2	3			3	8
	秋田県	2	3	3			8
	山形県	1	3				4
	福島県	3	3		3	3	12
関東	茨城県	2	3			3	8
	栃木県	4	3	3	3	3	16
	群馬県	2	3			3	8
	埼玉県	4	3	3	3	3	16
	千葉県	2	3			3	8
	東京都	3	3	3	3		12
	神奈川県	1	3				4
	山梨県	2	3			3	8
北信越	新潟県	2	3			3	8
	長野県	1	3				4
	富山県	3	3	3	3		12
	石川県	4	3	3	3	3	16
	福井県	2	3			3	8
東海	静岡県	1	3				4
	愛知県	3	3		3	3	12
	三重県	2	3			3	8
	岐阜県	3	3	3		3	12
近畿	滋賀県	3	3		3	3	12
	京都府	1	3				4
	大阪府	4	3	3	3	3	16
	兵庫県	3	3	3		3	12
	奈良県	2	3			3	8
	和歌山県	1	3				4
中国	鳥取県	1	3				4
	島根県	2	3	3			8
	岡山県	3	3		3	3	12
	広島県	3	3	3		3	12
	山口県	3	3		3	3	12
四国	香川県	3	3	3		3	12
	徳島県	1	3				4
	愛媛県	3	3		3	3	12
	高知県	2	3			3	8
九州	福岡県	2	3			3	8
	佐賀県	3	3	3		3	12
	長崎県	3	3		3	3	12
	熊本県	4	3	3	3	3	16
	大分県	1	3				4
	宮崎県	2	3			3	8
	鹿児島県	1	3				4
	沖縄県	1	3				4
総計		111	141	48	48	96	444

都道府県別出場選手・監督一覧　【成年男子】

都道府県	監督・選手名		勤務先・学校名
北海道	監督	吉　田　　仁	(一社)コンサドーレ北海道スポーツクラブ
	選手	加　藤　太　基	北海道旅客鉄道(株)
		大　越　　泉	(一社)コンサドーレ北海道スポーツクラブ
		三　浦　將　誓	(一社)コンサドーレ北海道スポーツクラブ
青森県	監督	奈良岡　　浩	トータルプロジェクト
	選手	福　士　賢　一	浪岡ジュニア
		有　馬　尭　嗣	青森市立浪岡中学校(教)
		奈良岡　功　大	日本大学
岩手県	監督	佐々木　翔　太	岩手県立北上翔南高等学校(職)
	選手	筑　後　恵　太	JA全農いわて
		菊　川　旭　飛	明治大学
		長谷川　剛　之	立命館大学
宮城県	監督	草　井　　篤	株式会社七十七銀行
	選手	澁　谷　勇　希	大和電設工業株式会社
		佐　伯　健　人	テルウェル東日本株式会社
		八　島　良　弥	東北学院大学
秋田県	監督	平　山　政　史	株式会社北都銀行
	選手	甲　谷　　望	株式会社北都銀行
		河　原　　樹	株式会社北都銀行
		村　井　蓮　弥	秋田県社会福祉事業団
山形県	監督	加　藤　安　史	株式会社NTTドコモ
	選手	内　山　創　平	株式会社でん六
		林　　泰　成	株式会社でん六
		小　野　優　真	鶴岡市立鶴岡第三中学校(教)
福島県	監督	齋　藤　　亘	福島県立ふたば未来学園中学校(教)
	選手	吉　田　　翼	日本体育大学
		荻　原　聖　也	明治大学
		齋　藤　　広	日本体育大学
茨城県	監督	大　橋　雅　道	阿見町役場
	選手	藤　澤　佳　史	筑波大学
		野　口　翔　平	筑波大学
		中　村　　舜	筑波大学

都道府県	監督・選手名		勤務先・学校名
栃木県	監督	笠　井　孝　之	日産自動車(株)栃木工場
	選手	大　堀　　新	栃木県立宇都宮白楊高等学校(教)
		寺　田　真　也	栃木県立鹿沼商工高等学校(教)
		北　川　史　翔	法政大学
群馬県	監督	岩　﨑　健　吾	高崎健康福祉大学(職)
	選手	手　嶋　柊　斗	高崎健康福祉大学
		堀　口　晃　平	高崎健康福祉大学
		藤　原　優　作	(株)SUBARU
埼玉県	監督	山　田　秀　樹	ユニアデックス(株)
	選手	川　本　拓　真	BIPROGY株式会社
		河　村　　翼	日本体育大学
		百　上　拓　海	明治大学
千葉県	監督	野　村　和　弘	株式会社　エッチ・アール・オー
	選手	齋　藤　謙　太	東京地下鉄株式会社
		石　井　宏　昌	旭工芸株式会社
		宮　下　　怜	明治大学
東京都	監督	落　合　久　夫	法政大学(教)
	選手	小　本　大　佑	東日本電信電話株式会社
		武　井　凜　生	東日本電信電話株式会社
		高　上　麟　龍	BIPROGY株式会社
神奈川県	監督	鰐　川　　朗	日立情報通信エンジニアリング
	選手	野　村　拓　海	日立情報通信エンジニアリング
		稲　光　翔太郎	日立情報通信エンジニアリング
		嶺　岸　　洸	日立情報通信エンジニアリング
山梨県	監督	伊　東　雅　俊	THK(株)
	選手	滝　川　亮　太	甲府市立甲府商業高等学校(教)
		奥　石　　涼	東京地下鉄株式会社
		古　屋　　樹	旭工芸株式会社
新潟県	監督	竹　村　祥　吾	ファイナンシャル・ジャパン(株)
	選手	武　藤　映　樹	敬和学園大学
		菊　池　海　聖	敬和学園大学
		武　田　航　太	明治大学

都道府県別出場選手・監督一覧　【成年男子】

都道府県	監督・選手名		勤務先・学校名
長野県	監督	小宮山　聖　文	大日本法令印刷株式会社
	選手	本　田　　光	明治大学
		仁　科　潤　海	敬和学園大学
		内　河　柊　介	中央大学
富山県	監督	荒　木　　純	トナミ運輸株式会社
	選手	金　子　真　大	トナミ運輸株式会社
		大　林　拓　真	トナミ運輸株式会社
		秦　野　　陸	トナミ運輸株式会社
石川県	監督	横　山　康　博	金沢学院大学附属高等学校(教)
	選手	坂　井　一　将	金沢学院大学(職)
		荒　井　大　輝	金沢学院大学附属高等学校(教)
		日　光　　凌	石川県立いしかわ特別支援学校(教)
福井県	監督	松　川　直　弘	勝山市役所
	選手	農　口　拓　弥	明治大学
		牧　野　桂　大	(株)日立情報通信エンジニアリング
		南　茂　蓮　太	テヅカ設備有限会社
静岡県	監督	栗　　佑　貴	ジヤトコ株式会社
	選手	平　岡　佑　太	敬和学園大学
		土　井　大　和	神戸学院大学
		小　西　秦　世	ジヤトコ株式会社
愛知県	監督	平　田　典　靖	(株)ジェイテクト
	選手	松　村　健　太	(株)ジェイテクト
		村　本　竜　馬	(株)ジェイテクト
		馬屋原　大　樹	(株)ジェイテクト
三重県	監督	梅　本　洋　平	津市役所
	選手	山　川　　連	NTN株式会社
		大　谷　啓　斗	共和産業株式会社
		大　西　　成	大阪体育大学
岐阜県	監督	安　村　達　二	株式会社丸杉
	選手	竹　内　宏　気	株式会社丸杉
		佐　藤　雄　輝	株式会社丸杉
		後　藤　海　斗	株式会社丸杉

都道府県	監督・選手名		勤務先・学校名
滋賀県	監督	村　上　　俊	滋賀県立彦根翔西館高等学校(教)
	選手	藤　原　圭　祐	株式会社ジェイテクト
		三　宅　将　平	豊田通商株式会社
		増　本　康　祐	法政大学
京都府	監督	髙　木　孝一郎	三菱自動車京都
	選手	内　田　裕太郎	三菱自動車京都
		西　　大　輝	龍谷大学
		常　塚　　光	三菱自動車京都
大阪府	監督	明　石　倫　子	大阪府バドミントン協会
	選手	佐　野　大　輔	法政大学
		谷　津　央　祐	法政大学
		曹　　淵　鍼	日本大学
兵庫県	監督	横　田　英　士	大和製衡株式会社
	選手	戸　内　佑　亮	豊田通商
		友　金　利玖斗	金沢学院クラブ
		河　野　匠　真	和幸会
奈良県	監督	森　田　正　秀	奈良県立添上高等学校(教)
	選手	植　田　将　成	WAKOKAI
		疋　田　聖　也	三菱自動車京都
		吉　村　徳　仁	豊田通商
和歌山県	監督	山　本　慎　二	和歌山県立粉河高等学校(教)
	選手	弓　倉　義　己	西日本旅客鉄道株式会社
		岩　橋　稜　典	関西学院大学
		田　中　晴　人	大阪体育大学
鳥取県	監督	花　本　大　地	三洋テクノソリューションズ鳥取
	選手	林　谷　理　貴	三菱自動車工業(株)
		森　田　慎　司	大同特殊鋼(株)
		馬屋原　光大郎	日本体育大学
島根県	監督	今　泉　裕　輔	(株)ユートレード
	選手	佐　藤　康　平	岡田電工(株)
		福　原　忠　宣	米子北高等学校(教)
		佐　野　大　地	東海大学

都道府県別出場選手・監督一覧　【成年男子】

都道府県	監督・選手名		勤務先・学校名
岡山県	監督	畑　　健　二	倉敷市立倉敷第一中学校(教)
	選手	實　金　三　暢	JFE物流株式会社
		山　下　恭　平	東日本電信電話株式会社
		一　井　亮　太	法政大学
広島県	監督	本　山　宏　士	府中町役場
	選手	新　宮　佑　哉	株式会社ヒロエー
		藤　井　湧　真	香川県庁
		河　野　拓　真	関西学院大学
山口県	監督	松　尾　光　平	宇部興産セメントサービス株式会社
	選手	桐　田　和　樹	UBE株式会社
		藤　井　湧　也	宇部物流サービス株式会社
		福　間　璃　来	UBE株式会社
香川県	監督	中　村　　亨	(株)タダノ
	選手	猪　熊　心太朗	WAM ATLETE
		岡　田　侑　生	明治大学
		福　崎　泰　平	日本大学
徳島県	監督	平　岡　耕　平	JA徳島　厚生連　阿波病院
	選手	小　笠　宙　生	徳島県立徳島商業高等学校(教)
		吉　岡　壮　馬	明治大学
		庄　野　正　博	ラクーン
愛媛県	監督	濵　中　裕　太	ラケットショップハマナカ
	選手	西　野　勝　志	東海興業
		河　内　達　哉	アーガスBMC
		長谷部　伸　洋	アーガスBMC
高知県	監督	中　原　　学	高知海洋高等学校(教)
	選手	松　田　壮　平	ワールドスポーツ(株)
		稲　盛　晃　平	JA高知県
		深　木　洸　哉	関西学院大学
福岡県	監督	岩　下　裕　一	西日本シティ銀行
	選手	阿久根　直　輝	九州国際大学
		石　橋　　陸	日本体育大学
		武　生　卓　也	トヨタ自動車九州

都道府県	監督・選手名		勤務先・学校名
佐賀県	監督	森　田　広　貴	佐賀県バドミントン協会
	選手	野　田　悠　斗	(株)ジェイテクト
		川　原　聡　麿	豊田スチールセンター(株)
		永　渕　雄　大	筑波大学
長崎県	監督	小　川　量　平	鶴鳴学園長崎女子高等学校(教)
	選手	滝　口　友　士	中央大学
		中　島　　巧	法政大学
		杉　本　一　樹	日本体育大学
熊本県	監督	前　田　尚　史	熊本学園大学付属高等学校(教)
	選手	小　本　翔　太	日立情報通信エンジニアリング
		霜　上　雄　一	日立情報通信エンジニアリング
		池　端　元　哉	早稲田大学
大分県	監督	小　俣　　功	由布市役所
	選手	中　島　拓　哉	東京観光興業(株)
		和　田　　季	大分県立日出支援学校(教)
		東　本　忠　也	福岡大学
宮崎県	監督	井　手　　大	バドミントンショップIBS
	選手	緒　方　友　哉	東日本電信電話株式会社
		長　峰　　善	東海興業株式会社
		小　川　翔　悟	法政大学
鹿児島県	監督	勢　瀬　拓　也	指宿市役所
	選手	田　中　佑　貴	(株)ジェイテクト
		山　元　拓　摩	旭工芸(株)
		吉　松　　基	九州国際大学
沖縄県	監督	藤　岡　　徹	県立首里東高等学校(教)
	選手	西　平　賢　矢	琉球BULLFIGHTS
		金　城　智　大	琉球BULLFIGHTS
		安谷屋　千　寿	九州国際大学

都道府県別出場選手・監督一覧　【少年女子】

都道府県	監督・選手名		勤務先・学校名
北海道	監督	相　澤　俊　彰	帯広大谷高等学校(教)
	選手	濱　下　亜　美	帯広大谷高等学校
		藤　堂　悠　菜	酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校
		土　佐　梨緒菜	旭川実業高等学校
青森県	監督	藤　田　真　人	青森山田高等学校(教)
	選手	石　川　心　菜	青森山田高等学校
		小　林　優　花	青森山田高等学校
		清　瀬　璃　子	青森山田高等学校
岩手県	監督	渡　邉　清　一	岩手県立花北青雲高等学校(教)
	選手	佐　藤　鈴　緒	岩手県立花北青雲高等学校
		志　田　菜々海	岩手県立前沢高等学校
		澤　田　　凛	盛岡白百合学園高等学校
宮城県	監督	田　所　光　男	聖ウルスラ学院英智高等学校(職)
	選手	亀　井　菜　杏	聖ウルスラ学院英智高等学校
		後　藤　咲　々	聖ウルスラ学院英智高等学校
		山　口　菜　摘	聖ウルスラ学院英智高等学校
福島県	監督	大久保　菜　摘	福島県立ふたば未来学園高等学校(教)
	選手	須　藤　海　妃	福島県立ふたば未来学園高等学校
		星　　夢	尚志高等学校
		山　北　奈　緒	福島県立ふたば未来学園高等学校
茨城県	監督	青　山　　真	茨城県バドミントン協会
	選手	神　山　　葵	茗溪学園高等学校
		伊　藤　ののか	茗溪学園高等学校
		青　木　優　羽	茗溪学園高等学校
栃木県	監督	遠　藤　敦　史	作新学院高等学校(教)
	選手	水　井　寿々妃	作新学院高等学校
		須　崎　沙　織	作新学院高等学校
		遠　藤　美　羽	作新学院高等学校
群馬県	監督	近　藤　直　之	前橋市役所
	選手	朝　倉　ひより	共愛学園高等学校
		近　藤　ももな	共愛学園高等学校
		柏　瀬　倫　佳	共愛学園高等学校

都道府県	監督・選手名		勤務先・学校名
埼玉県	監督	滝　内　　亮	埼玉栄高等学校(教)
	選手	石　井　夢　楓	埼玉栄高等学校
		小　原　未　空	埼玉栄高等学校
		高　津　愛　花	埼玉栄高等学校
千葉県	監督	髙　瀬　秀　雄	西武台千葉高等学校(教)
	選手	岡　本　萌奈未	西武台千葉高等学校
		竹　澤　みなみ	西武台千葉高等学校
		黒　川　璃　子	西武台千葉高等学校
山梨県	監督	柿　崎　孝　央	甲斐清和高等学校(教)
	選手	遠　藤　　桐	甲斐清和高等学校
		門　倉　菜　月	甲斐清和高等学校
		三　橋　葵　香	甲斐清和高等学校
新潟県	監督	吉　田　亜土夢	新潟青陵高等学校(教)
	選手	島　谷　明日香	新潟青陵高等学校
		柴　原　君　枝	新潟青陵高等学校
		辻　井　清　加	開志国際高等学校
石川県	監督	車　　浩　明	石川県立金沢向陽高等学校(教)
	選手	吉　田　陽　萌	石川県立金沢向陽高等学校
		吉　川　羽　音	石川県立金沢向陽高等学校
		多　﨑　未　波	石川県立金沢向陽高等学校
福井県	監督	大　石　　宏	福井工業大学附属福井高等学校(教)
	選手	松　田　仁衣菜	福井工業大学附属福井高等学校
		岩　谷　麗　奈	福井工業大学附属福井高等学校
		相　磯　美　心	福井工業大学附属福井高等学校
愛知県	監督	菅　野　俊　助	名古屋経済大学市邨高等学校(教)
	選手	河　辺　美　颯	名古屋経済大学市邨高等学校
		尾　形　珠　季	名古屋経済大学市邨高等学校
		髙　野　葵　姫	岡崎城西高等学校
三重県	監督	槙　野　貴　行	皇學館高等学校(職)
	選手	吉　居　　要	皇學館高等学校
		梅　本　りずむ	皇學館高等学校
		世古口　来　海	倉田山中学校

都道府県別出場選手・監督一覧　【少年女子】

都道府県	監督・選手名		勤務先・学校名
岐阜県	監督	黒　田　匠　馬	岐阜県立岐阜商業高等学校(教)
	選手	山　下　紗　依	岐阜県立岐阜高等学校
		安　福　万　澄	岐阜県立岐阜商業高等学校
		外　山　乃　彩	岐阜県立岐阜商業高等学校
滋賀県	監督	鈴　木　草麻生	滋賀短期大学附属高等学校(職)
	選手	松　川　華　実	滋賀短期大学附属高等学校
		中　西　月　渚	滋賀短期大学附属高等学校
		山　名　彩　心	滋賀短期大学附属高等学校
大阪府	監督	西　上　正　一	大阪市立大空小学校(職)
	選手	木　山　琉　聖	四天王寺高等学校
		古根川　美　桜	四天王寺高等学校
		岩　城　杏　奈	四天王寺高等学校
兵庫県	監督	野　村　このみ	兵庫県立高砂高等学校(教)
	選手	杉　野　柚　月	園田学園高等学校
		生　田　佳志乃	園田学園高等学校
		古　西　葵　衣	園田学園高等学校
奈良県	監督	武　野　　忠	NTTアノードエナジー西日本事業本部
	選手	松　本　笑　舞	奈良大学附属高等学校
		棄　元　晴　奈	奈良大学附属高等学校
		堀　川　実桜子	奈良大学附属高等学校
岡山県	監督	尾　﨑　勝　久	倉敷中央高校(教)
	選手	吉　川　天　乃	倉敷中央高校
		江　見　日和菜	倉敷中央高校
		尾　﨑　羽　音	倉敷中央高校
広島県	監督	赤　川　雅　美	安田女子高等学校(教)
	選手	宮　本　千　聖	安田女子高等学校
		伊　瀬　友　花	安田女子高等学校
		加　藤　夏　音	安田女子高等学校
山口県	監督	竹　光　唯　至	山口県立柳井商工高等学校(教)
	選手	宮　崎　友　花	山口県立柳井商工高等学校
		明　地　陽　菜	山口県立柳井商工高等学校
		田　口　真　彩	山口県立柳井商工高等学校

都道府県	監督・選手名		勤務先・学校名
香川県	監督	雉　鳥　幸　奈	県立高松商業高等学校(教)
	選手	豊　口　紗智華	県立高松商業高等学校
		笠　井　李　柑	県立高松商業高等学校
		村　上　ミチル	英明高等学校
愛媛県	監督	久　枝　ゆ　い	新田高等学校(教)
	選手	加　藤　は　る	愛媛県立新居浜東高等学校
		尾　藤　　優	新田高等学校
		大　森　帆　花	新田高等学校
高知県	監督	小　賀　元　裕	宿毛高等学校(教)
	選手	黒　石　愛　奈	土佐女子高等学校
		利　根　美　咲	土佐女子高等学校
		田　中　志　歩	土佐高等学校
福岡県	監督	目　野　俊　昭	福岡常葉高等学校(教)
	選手	梶　原　藍　実	福岡常葉高等学校
		八　木　美　帆	福岡常葉高等学校
		吉　村　茉　恩	福岡常葉高等学校
佐賀県	監督	今給黎　将　之	佐賀女子高校(職)
	選手	永　渕　妃　香	佐賀女子高校
		下　村　彩　花	佐賀女子高校
		今　泉　明日香	佐賀女子高校
長崎県	監督	西　山　勝　也	長崎県立諫早商業高等学校(教)
	選手	宮　平　のぞみ	長崎県立諫早商業高等学校
		工　藤　葉　那	長崎県立諫早商業高等学校
		田　中　佐　彩	長崎県立諫早商業高等学校
熊本県	監督	井　村　勝　英	八代白百合学園高等学校(教)
	選手	猿　川　優　香	八代白百合学園高等学校
		千　北　梨花子	八代白百合学園高等学校
		檜　垣　希　望	玉名女子高等学校
宮崎県	監督	山　内　　勉	宮崎県立佐土原高等学校(教)
	選手	武　末　　藍	日章学園高等学校
		山　内　のどか	日章学園高等学校
		牧　野　美　涼	日章学園高等学校

都道府県別出場選手・監督一覧　【成年女子】

都道府県	監督・選手名		勤務先・学校名
北海道	監督	村　井　秀　樹	東日本電信電話(株)
	選手	内　山　真　希	北翔大学
		石　澤　未　夢	プレンティグローバルリンクス(株)
		塚　本　あゆみ	プレンティグローバルリンクス(株)
青森県	監督	工　藤　峰　靖	藤崎町文化センター
	選手	大　竹　望　月	BIPROGY
		福　井　美　空	昭和電工
		髙　橋　美　優	BIPROGY
秋田県	監督	佐々木　　翔	株式会社北都銀行
	選手	永　原　和可那	株式会社北都銀行
		松　本　麻　佑	株式会社北都銀行
		川　上　紗恵奈	株式会社北都銀行
栃木県	監督	芝　田　由紀恵	(株)オリジナル皮革
	選手	佐　川　智　香	筑波大学
		杉　村　南　美	丸杉
		舛　木　さくら	北都銀行
埼玉県	監督	名　倉　康　弘	埼玉栄中学校(教)
	選手	林　　樂	ACT SAIKYO
		上　杉　　杏	明治大学
		吉　田　瑠　実	早稲田大学
東京都	監督	内　藤　祐　輔	ヨネックス株式会社
	選手	香　山　未　帆	BIPROGY株式会社
		杉　山　　薫	BIPROGY株式会社
		木　村　百　伽	ヨネックス株式会社
富山県	監督	安　村　康　介	トナミ運輸株式会社
	選手	大　堀　　彩	トナミ運輸株式会社
		木　林　千　耀	日本体育大学
		中　村　優　希	明治大学
石川県	監督	星　　明　彦	株式会社北國銀行
	選手	星　　千　智	BIPROGY株式会社
		小　野　菜　保	再春館製薬所
		大　家　夏　稀	東日本電信電話株式会社

都道府県	監督・選手名		勤務先・学校名
岐阜県	監督	吉　冨　桂　子	株式会社丸杉
	選手	古　川　佳　奈	株式会社丸杉
		川　添　麻依子	株式会社丸杉
		今　井　莉　子	株式会社丸杉
大阪府	監督	木　村　　寛	四條畷学園高等学校(教)
	選手	重　山　智　佳	PLENTY GLOBAL LINX
		兒　玉　亜　依	立命館大学
		坂　中　琴　音	立命館大学
兵庫県	監督	酒　井　将　之	三菱電機株式会社
	選手	韮　澤　美　羽	三菱電機株式会社
		徳　岡　梨々香	三菱電機株式会社
		髙　木　美　季	三菱電機株式会社
島根県	監督	丸　岡　智　子	(株)山陰合同銀行
	選手	髙　崎　夏　実	(株)山陰合同銀行
		矢　﨑　月　子	(株)山陰合同銀行
		田　部　真　唯	(株)山陰合同銀行
広島県	監督	小　林　寛　哉	広島ガス株式会社
	選手	山　藤　千　彩	広島ガス株式会社
		濱　北　も　も	広島ガス株式会社
		志　波　寿　奈	広島ガス株式会社
香川県	監督	小　泉　秀　登	(株)百十四銀行
	選手	池　田　有　希	(株)百十四銀行
		正　田　捺　実	(株)百十四銀行
		清　家　菜々子	(株)百十四銀行
佐賀県	監督	山　下　大　介	プレーヤーズ　ワン
	選手	毛　利　未　佳	(株)七十七銀行
		池　田　あかり	日本体育大学
		秋　好　美　有	龍谷大学
熊本県	監督	池　田　雄　一	株式会社再春館製薬所
	選手	福　本　真恵七	株式会社再春館製薬所
		内　山　智　尋	株式会社再春館製薬所
		金　廣　美　希	株式会社再春館製薬所

都道府県別出場選手・監督一覧　【少年男子】

都道府県	監督・選手名		勤務先・学校名
北海道	監督	大　島　健　史	札幌龍谷学園高等学校(職)
	選手	佐々木　颯　太	旭川実業高等学校
		伊　藤　彰　悟	旭川実業高等学校
		小　島　滉　貴	旭川実業高等学校
青森県	監督	戸　祭　　潤	青森山田高等学校(教)
	選手	今　田　竜　大	青森山田高等学校
		佐　藤　史　隆	青森山田高等学校
		菅　原　海　斗	青森県立浪岡高等学校
福島県	監督	本　多　裕　樹	福島県立ふたば未来学園高等学校(教)
	選手	岩　野　滉　也	福島県立ふたば未来学園高等学校
		谷　岡　大　后	福島県立ふたば未来学園高等学校
		崎　野　翔　太	福島県立ふたば未来学園高等学校
栃木県	監督	遠　井　　努	栃木県立宇都宮南高等学校(教)
	選手	浅　石　裕　都	作新学院高等学校
		白　田　圭　人	作新学院高等学校
		遠　井　嵩　玄	栃木県立宇都宮南高等学校
埼玉県	監督	大　屋　貴　司	埼玉栄高等学校(教)
	選手	藤　原　睦　月	埼玉栄高等学校
		井　上　誠　也	埼玉栄高等学校
		沖　本　優　大	埼玉栄高等学校
東京都	監督	堀　越　義　広	淑徳巣鴨高等学校(教)
	選手	佐　藤　憲　蔵	淑徳巣鴨高等学校
		荒　井　太　一	実践学園高等学校
		田　中　一　基	淑徳巣鴨高等学校
富山県	監督	中　田　真　琴	高岡第一高等学校(教)
	選手	大　田　隼　也	高岡第一高等学校
		佐々木　大　樹	高岡第一高等学校
		松　久　知　弘	高岡第一高等学校
石川県	監督	石　本　明　男	金沢市立工業高等学校(教)
	選手	今　越　健　太	金沢市立工業高等学校
		西　村　勇汰郎	金沢市立工業高等学校
		荒　井　　輝	金沢学院大学附属高等学校

都道府県	監督・選手名		勤務先・学校名
愛知県	監督	稲　垣　翔　悟	名古屋経済大学市邨高等学校(教)
	選手	永　森　一　輝	名古屋経済大学市邨高等学校
		冨　田　万南斗	名古屋経済大学市邨高等学校
		近　藤　海　裕	名古屋経済大学市邨高等学校
滋賀県	監督	数　野　健　太	比叡山高等学校(教)
	選手	池　山　蒼　人	比叡山高等学校
		衣　川　真　生	比叡山高等学校
		桑　原　朋　也	比叡山高等学校
大阪府	監督	明　石　浩　和	東大阪大学柏原高等学校(教)
	選手	犬　嶋　宏　介	東大阪大学柏原高等学校
		野　村　波　輝	東大阪大学柏原高等学校
		神　山　剛　輝	東大阪大学柏原高等学校
岡山県	監督	関　　啓　之	倉敷翠松高校(教)
	選手	城　戸　郁　也	水島工業高校
		平　田　璃　月	水島工業高校
		橋　村　優　翔	水島工業高校
山口県	監督	渡　邊　和　人	宇部物流サービス株式会社
	選手	生　田　壮　志	山口県立柳井商工高等学校
		中　村　陵　雅	山口県立柳井商工高等学校
		中　山　康　平	山口県立柳井商工高等学校
愛媛県	監督	徳　永　　督	新田高等学校(教)
	選手	森　川　翔　暉	新田高等学校
		水　村　健　人	新田高等学校
		吉　田　　悠	新田高等学校
長崎県	監督	林　　貴　昭	瓊浦高等学校(教)
	選手	櫻　井　煌　介	瓊浦高等学校
		南　本　和　哉	瓊浦高等学校
		奥　野　天　斗	瓊浦高等学校
熊本県	監督	権　藤　浩　二	熊本県立八代東高等学校(教)
	選手	毛　利　柊　光	熊本県立八代東高等学校
		石　原　叶　登	熊本県立八代東高等学校
		山　本　朱　祐	熊本学園大学付属高等学校

競技成績決定方法

男女総合成績（天皇杯得点）及び女子総合成績（皇后杯得点）は、競技得点と参加得点の合計とし、その得点の多い都道府県に第１位から第８位までを決定する。
ただし、同点の場合は、その順位を共有し、次の順位を欠位とする。

１　競技得点

天皇杯対象種別	皇后杯対象種別	競　　技　　得　　点
成　年　男　子	成　年　女　子	各種別とも１位２４点、２位２１点、３位１８点、４位１５点、５位（４チーム）各７．５点の競技得点を与える。
成　年　女　子		
少　年　男　子	少　年　女　子	
少　年　女　子		

２　参加得点

大会（ブロック大会を含む）に参加した都道府県に１０点を与える。
ただし、ブロック大会で本大会の出場権を獲得しながら、本大会に参加しなかった場合は与えない。

総合成績（天皇杯・皇后杯）一覧表

	都道府県名	成年男子		成年女子		少年男子		少年女子		男女総合成績（天皇杯）				女子総合成績（皇后杯）			
		順位	競技得点	順位	競技得点	順位	競技得点	順位	競技得点	競技得点	参加得点	合計	総合順位	競技得点	参加得点	合計	総合順位
1	北海道																
2	青森県																
3	岩手県																
4	宮城県																
5	秋田県																
6	山形県																
7	福島県																
8	茨城県																
9	栃木県																
10	群馬県																
11	埼玉県																
12	千葉県																
13	東京都																
14	神奈川県																
15	山梨県																
16	新潟県																
17	長野県																
18	富山県																
19	石川県																
20	福井県																
21	静岡県																
22	愛知県																
23	三重県																
24	岐阜県																
25	滋賀県																
26	京都府																
27	大阪府																
28	兵庫県																
29	奈良県																
30	和歌山県																
31	鳥取県																
32	島根県																
33	岡山県																
34	広島県																
35	山口県																
36	香川県																
37	徳島県																
38	愛媛県																
39	高知県																
40	福岡県																
41	佐賀県																
42	長崎県																
43	熊本県																
44	大分県																
45	宮崎県																
46	鹿児島県																
47	沖縄県																

過去の成績一覧表

第４回　　昭和２４年　　東京都ＹＭＣＡ（個人戦オープン）

順位 / 種別	1 位	2 位	3 位
一般男子　単	東京　広田敏秀	北海道　佐藤保	東京　藤井光男
一般男子　複	東京　広田敏秀 藤井光男	神奈川　岡淳一 相馬万吉	北海道　佐藤保 村上三郎
一般女子　単	神奈川　吉田とよ子	愛知　吉沢千里	神奈川　遠藤文子
一般女子　複	神奈川　吉田とよ子 遠藤文子	神奈川　小林歌子 中村多喜	愛知　吉沢千里 後藤範子

第５回　　昭和２５年　　愛知県　　白鷗小学校・東桜小学校(総合優勝　神奈川県)

順位 / 種別	1 位	2 位	3 位
一般男子	東京　広田敏秀 藤井光男 小宮淳宏 山田康久	神奈川　岡淳一 相馬万吉 大谷直次 松本武道	北海道　佐藤保 村上三郎 葛西英俊 若林守
一般女子	神奈川　吉田とよ子 遠藤文子 小林歌子 荒川とみ子	愛知　水谷鈴子 堀江綾子 保田久子 伊与田照子	北海道　伊藤絹代 安藤栄子 佐賀信子 片岡京子
高校男子	北海道　石田裕 神山周二 大塚健一 島中貞夫	愛知　石川光男 渡辺成雄 大竹健司 野口勇	神奈川　岡道明 村松弘喬 江井実 藤井昂一

第６回　　昭和２６年　　広島県　　広大東雲分校・同大附属小学校（総合優勝　愛知県）

順位 / 種別	1 位	2 位	3 位
一般男子	東京　広田敏秀 岡道明 山田康久	岐阜　玉越忠治 大竹健司 下野和彦	愛知　藤井光男 渡辺成雄 蟹和男
一般女子	愛知　堀江綾子 保田久子 伊与田照子	石川　登悦子 貝原まさえ 高田八重子	北海道　伊藤絹代 片岡京子 栗原澄子
高校男子	愛知　服部興治 野口勇 立松健市	石川　東正直 西貞夫 諸江秀一	岐阜　後藤裕八郎 林金太郎 田中正則

第７回　　昭和２７年　　宮城県　　東北大学体育館（総合優勝　神奈川県）

順位 / 種別	1位		2位		3位	
一般男子	神奈川	広田敏秀 岡道明 藤井昂一 吉原秀雄	北海道	石田裕 神山周二 葛西英俊 野坂豊三郎	東京	江井実 小宮章敬 山崎茂 佐藤芳朗
一般女子	石川	貝原まさえ 登悦子 高田八重子 岩倉衣絵	東京	田中知江子 中谷成子 佐之瀬教子 小野寺京子	愛知	堀江綾子 保田久子 伊与田照子 水野美根子
高校男子	東京	望月文雄 倉田一彦 力石潔 鈴木隆治	神奈川	新倉利男司 関根秀明 内藤広則 伏島光	石川	諸江秀一 井上晴夫 山本圭三 上田稔
高校女子	兵庫	広瀬延子 西尾貞子 小笠原美津子 関一子	山形	佐藤照子 五十嵐弘子 斎藤久美子 佐藤明	神奈川	大川良子 竜野美代子 藤田光子 中島緑

第８回　　昭和２８年　　香川県　　善通寺体育館（総合優勝　神奈川県）

順位 / 種別	1位		2位		3位	
一般男子	神奈川	広田敏秀 佐治豊 川崎順久 杉田博	東京	藤井光男 諸江秀一 相川十一郎 萩原誠	岐阜	大竹健司 松岡龍三 丹波哲昭 林金太郎
一般女子	神奈川	遠藤文子 小林歌子 荒川とみ子 小野智子	北海道	岡元弘子 梅津貴久江 阿部悦子 荒井重子	石川	貝原まさえ 登悦子 島谷須磨子 町駒ヤス子
高校男子	北海道	片石兼敏 加藤正則 長谷川龍男 井桁啓充	石川	江尻桂三 辻貞三 半田外喜男 岡崎健一	神奈川	越川啓 花岡牧夫 折井利彦 内藤弘明
高校女子	宮城	西堀富美子 谷津京子 佐藤範子 松本幸子	香川	大西誉子 秋山武子 真鍋寿子	神奈川	大川良子 藤田光子 竜野美代子 波多野澄子

第９回　　昭和２９年　　北海道　　札幌市(総合優勝　愛知県)

順位 / 種別	1位		2位		3位	
一般男子	岐阜	玉越忠治 大竹健司 松岡龍三	愛知	野口勇 服部興治 稲熊貞夫	富山	清水正 釣谷友一 荒木亥久男
一般女子	宮城	西堀富美子 佐藤範子 谷津京子	石川	登悦子 貝原まさえ 澁谷信	愛知	保田久子 伊与田照子 堀江綾子
高校男子	愛知	豊場建 御友昡正 伊藤雅昭	石川	西村嘉彦 江尻桂三 島谷昇	神奈川	宮沢健一 伊豆内宏 渡辺潔
高校女子	福島	武田信子 伊藤桂子 尾形亨子	岡山	大森嘉美 友野文子 三宅基子	愛知	大沢節子 大室久美子 大竹泰子

第１０回　　昭和３０年　　神奈川県　　神奈川県体育館・鶴見女高校体育館（総合優勝　神奈川県）

種別＼順位	1 位		2 位		3 位	
一般男子	神奈川	広田敏秀 杉田博 岡道明	岐阜	大竹健司 松岡龍三 酒井弘	富山	釣谷友一 荒木亥久男 高木満
一般女子	福島	武田信子 伊藤桂子	神奈川	荒川とみ子 小林歌子 大川良子	北海道	梅津貴久江 阿部悦子 下山重子
高校男子	東京	永井栄一 北島克英 小野岡順一	石川	北方匡 関功 米谷外喜彦	山形	生田仁紀 板垣隆房 羽角至
高校女子	岡山	友野文子 権田節子 三宅基子	宮城	佐々木功子 三津節 菅井静子	香川	永田豊子 藤田純代 藤村怜子

第１１回　　昭和３１年　　兵庫県　　神戸ＹＭＣＡ・生田中学校（総合優勝　岡山県）

種別＼順位	1 位		2 位		3 位	
一般男子	神奈川	杉田博 佐藤芳朗 佐藤昌久	大阪	上田益弘 増木節男 武村俊平	岡山	毛利清志 前田俊一 石原利道
一般女子	宮城	西堀冨美子 小野寺静江 佐藤範子	岡山	友野文子 権田節子 光本政子	兵庫	西尾貞子 加藤洋子 金森奎子
高校男子	神奈川	小宮好雄 中村智 齊藤裕之	北海道	四ツ柳邦夫 小田桐正徳 岩本竜一	山形	板垣隆房 山岸重孝 鑓水勝志
高校女子	香川	横井キヌエ 井上桂子 山下衣子	岡山	小林桂子 戸田寿子 根岸純	宮城	三浦節 沼倉英子 三浦与志子

第１２回　　昭和３２年　　静岡県　　富士市体育館・富士高講堂（総合優勝　神奈川県）

種別＼順位	1 位		2 位		3 位	
一般男子	神奈川	佐藤芳朗 杉田博 新倉和男	東京	望月文雄 力石潔 鈴木峻三	北海道	島中貞夫 星野嘉雄 神山周二
一般女子	香川	横井キヌエ 井上桂子 山下衣子	岡山	権田節子 光本政子 小林桂子	神奈川	大川良子 小林歌子 石川英子
高校男子	神奈川	小宮好雄 中村智 鈴木敏勝	石川	酒井明夫 村田和男 堀知章	島根	平野隆 森脇英裕 富田豊
高校女子	香川	田島外茂子 山下久子 宮川ツヤ子	静岡	掛橋良子 西村弘子 佐野禎子	石川	有田順子 長田悠喜子 松田富美子

第１３回　　昭和３３年　　富山県　　高岡女子高校体育館・南星中学校体育館（総合優勝　東京都）

順位 / 種別	1 位	2 位	3 位
一般男子	東京 片石兼敏 越川　啓 花岡牧夫	神奈川 杉田　博 佐藤芳朗 佐藤昌久	大阪 高谷芳弘 上田益弘 松王清志
一般女子	香川 横井キヌエ 山下久子 田島外茂子	神奈川 小林歌子 大川良子 二見文子	岡山 権田節子 光本政子 小林桂子
高校男子	山形 金森義弘 板垣義憲 小林　賢	東京 鈴木幸春 宮永武司 貝戸　肇	奈良 森　晃一 榎　高嗣 中川安正
高校女子	香川 藤本文子 有木とみ子 福本和子	富山 高島洋子 中島玲子 栂野尾桂子	石川 山崎紀久子 川　節子 竹多光子

第１４回　　昭和３４年　　東京都　　足立区体育館（総合優勝　神奈川県）

順位 / 種別	1 位	2 位	3 位
一般男子	神奈川 佐藤芳朗 佐藤昌久 関口　潔	石川 新田正治 酒井明夫 村田和男	大阪 松王清志 小松康博 小松　貢
一般女子	神奈川 大川良子 二見文子 椎野みや子	香川 横井キヌエ 山下久子 宮川ツヤ子	富山 大坪愛子 高島洋子 中島玲子
教員男子	神奈川 杉田　博 山本　剛 石塚義治	大阪 佐藤茂雄 宝来敏夫 北野敬四郎	東京 平田登志郎 市川和司 柳田直規
高校男子	宮城 渡部紘一 後藤忠広 甲斐昭宏	北海道 龍瀬康彦 竹中将晃 梅木　聡	神奈川 山本洋彦 岡崎恵三 小坂拓充
高校女子	香川 藤本文子 有木とみ子 福本和子	静岡 伊沢利子 志村セツ子 石原待子	富山 栂野尾桂子 橘　美智子 酒井美智子

第１５回　　昭和３５年　　熊本県　　菊池市体育館（総合優勝　富山県）

順位 / 種別	1 位	2 位	3 位
一般男子	東京 永井栄一 北島克英 貝戸　肇	神奈川 佐藤芳朗 遠藤啓治 砥石　勤	富山 荒木亥久男 扇沢三徳 大野幸雄
一般女子	富山 高島洋子 中島玲子 栂野尾桂子	秋田 脇坂チエ 木村政子 横山満子	静岡 野村志津江 伊沢利子 志村セツ子
教員男子	石川 北方　匡 河原山晴夫 茂藤　寛	神奈川 杉田　博 山本　剛 石塚義治	秋田 宮越竜三 脇坂安隆 鈴木裕司
高校男子	神奈川 岡崎恵三 小坂拓充 長谷川敏彦	山形 佐藤勝彦 出沢勇男 高橋清一	新潟 阿部　孚 笠原　淳 伊藤洋祐
高校女子	富山 橘　美智子 酒井美智子 平田敦子	香川 横井文子 林　信子 森　久子	秋田 高橋奉子 石沢七子 長崎文子

第１６回　　昭和３６年　　秋田県　　象潟町中学校体育館（総合優勝　秋田県）

順位 / 種別	1 位	2 位	3 位
一般男子	東京 片石兼敏 永井栄一 星野忠男	神奈川 佐藤芳朗 岡崎恵三 遠藤啓治	山形 板垣隆房 出沢勇男 北村任
一般女子	富山 栂野尾桂子 橘美智子 酒井美智子	秋田 木村政子 横山満子 高橋奉子	香川 宮川ツヤ子 福本和子 横井文子
教員男子	石川 北方匡 河原山晴夫 江尻桂三	神奈川 杉田博 岡田敬三郎 秋山捷彦	秋田 脇坂安隆 鈴木裕司 高橋弘喜
高校男子	新潟 大竹紘一 安沢武司 星野義昭	北海道 中村富光 松浦潔 松本直治	山梨 平田勲 秋山真男 早川博
高校女子	山形 佐藤弘子 小笠原詔子 矢口淳子	静岡 高木紀子 天野博江 影山昭子	秋田 伊藤美津子 横山綾子 大門モモ子

第１７回　　昭和３７年　　岡山県　　県立倉敷青陵高校体育館（総合優勝　東京都、富山県）

順位 / 種別	1 位	2 位	3 位
一般男子	東京 星野忠男 富田豊 井門鎮雄	神奈川 遠藤啓治 鈴木敏勝 岡崎恵三	愛知 北島克英 小宮好雄 長谷川陽一
一般女子	香川 福本和子 横井文子 森久子	富山 橘美智子 酒井美智子 栂野尾桂子	秋田 木村政子 横山満子 高橋奉子
教員男子	石川 北方匡 河原山晴夫 江尻桂三	神奈川 杉田博 秋山捷彦 岡田敬三郎	秋田 脇坂安隆 鈴木裕司 真崎俊光
高校男子	新潟 本田務 荒川治男 阿野善紀	東京 西野一征 須田孝夫 関一誠	青森 奥谷国昭 長谷川勇 三上義明
高校女子	富山 橘妙子 室崎光子 河村和子	秋田 大塚トシ 大門サヨ子 間瀬幸子	岡山 高塚淳子 重政百代 七村泰子

第１８回　　昭和３８年　　山口県　　下関市体育館（総合優勝　新潟県）

順位 / 種別	1 位	2 位	3 位
一般男子	愛知 小宮好雄 板垣善憲 稲熊文隆	東京 井門鎮雄 宮永武司 堺栄一	島根 星野忠男 富田豊 山崎春茂
一般女子	秋田 横山満子 高橋奉子 長崎文子	香川 田島外茂子 横井文子 森久子	富山 栂野尾桂子 酒井美智子 室崎光子
教員男子	石川 北方匡 河原山晴夫 江尻桂三	神奈川 杉田博 岡田敬三郎 秋山捷彦	大阪 大世古吉弘 北野敬四郎 片岡輝明
高校男子	新潟 星野義夫 裏田光男 樋口一春	東京 関一誠 中村安 古屋和正	北海道 福島智徳 林守 久保田和男
高校女子	栃木 前沢和子 松本昭子 小出千代子	新潟 後藤和子 茂沢純子 竹内泰子	北海道 高森幸子 高田裕子 村田泰子

第１９回　　昭和３９年　　新潟県　　県立三条高校体育館（総合優勝　新潟県）

順位 / 種別	1 位	2 位	3 位
一般男子	愛知 小宮好雄 板垣善憲 岩后隆昭	東京 永井栄一 宮永武司 堺　栄一	石川 新田正治 村田和男 松下　力
一般女子	香川 横井文子 田島外茂子 森　久子	秋田 横山満子 高橋奉子 長崎文子	岐阜 高木紀子 天野博江 岩后蛍子
教員男子	新潟 渡部紘一 永井　司 佐藤俊夫	石川 北方　匡 河原山晴夫 江尻桂三	神奈川 杉田　博 岡田敬三郎 秋山捷彦
高校男子	新潟 鈴木正浩 神田和夫 片山　毅	奈良 森　芳夫 橋本　修 真壁年一	富山 立野正昭 盛野博之 高林弘則
高校女子	栃木 植木タカ子 大島コヨ 武田初枝	新潟 竹内泰子 石本恵美子 高野八重子	秋田 佐々木フミ 中川美枝子 加賀谷ユミ子

第２０回　　昭和４０年　　岐阜県　　富田学園体育館（総合優勝　岐阜県）

順位 / 種別	1 位	2 位	3 位
一般男子	愛知 小宮好雄 板垣善憲 長谷川敏彦	東京 堺　栄一 宮永武司 田上十六	香川 東条義昭 山口立朗 牟礼　顕
一般女子	岐阜 高木紀子 天野博江 高田康子	香川 横井文子 森　久子 加藤和子	新潟 後藤和子 石崎妙子 竹内泰子
教員男子	石川 河原山晴夫 北方　匡 村西　一	北海道 杉田茂良 笹森　剛 中嶋弘志	岡山 毛利清志 三宅　勝 柳本堯敏
高校男子	富山 栂野尾昌一 寺前信之 中坪邦雄	岐阜 堀　幸矩 杉山　修 尾関美智則	奈良 真壁年一 河村憲一 滝野公一
高校女子	大阪 近藤光枝 才脇妙子 池田栄子	岐阜 高橋葉子 稲葉良子 川本美代子	栃木 上野明美 石崎喜代子 吉田サト子

第２１回　　昭和４１年　　大分県　　日田林工高校体育館（総合優勝　新潟県）

順位 / 種別	1 位	2 位	3 位
一般男子	愛知 長谷川敏彦 板垣善憲 安沢武司	山梨 岡崎恵三 秋山真男 三上　勇	大分 宮永武司 田中大也 春武俊一
一般女子	岐阜 高木紀子 天野博江 高田康子	新潟 後藤和子 石崎妙子 加藤　操	秋田 横山満子 高橋奉子 加賀谷ユミ子
教員男子	北海道 杉田茂良 安達憔彦 上山功夫	石川 河原山晴夫 北方　匡 原　栄一	岡山 三宅　勝 毛利清志 柳本堯敏
高校男子	新潟 本間順次 高橋　宣 奥田良秋	宮城 我妻一郎 市川　清 寒河江一利	香川 西辻和一 西崎健弘 小田忠庸
高校女子	山形 小山登茂子 遠藤幹子 伊藤シゲ子	新潟 本間恵美子 日下悦子 高坂　薫	岡山 湯木博江 浦口恵子 佐藤民子

第２２回　　昭和４２年　　埼玉県　　越ヶ谷市立体育館（総合優勝　香川県）

順位 / 種別	1位		2位		3位	
一般男子	愛知	板垣善憲 安沢武司 小林一宏	神奈川	小島一平 山本洋彦 遠藤啓治	東京	堺栄一 田上十六 本橋平八
一般女子	香川	有木とみ子 横井文子 山本真江	新潟	五十嵐明美 後藤和子 加藤操	岐阜	高木紀子 天野博江 虫賀雅子
教員男子	富山	清水芳隆 正木史郎 松山信之	北海道	杉田茂良 安達憔彦 上山功夫	宮城	加茂和夫 渡部紘一 菊地功
高校男子	富山	米田実 松島保 谷口寛	奈良	滝野公一 小林正昭 葛輪博一	宮城	門間幹夫 山田哲夫 木戸純一
高校女子	新潟	相沢マチ子 金子美和子 高坂薫	香川	小片千恵子 竹森経子 山下清美	栃木	田仲美津江 枝加代子 印波和子

第２３回　　昭和４３年　　福井県　　県立勝山合同体育館（総合優勝　岐阜県）

順位 / 種別	1位		2位		3位	
一般男子	山梨	岡崎恵三 秋山真男 田中登	神奈川	小島一平 吉良悠一 渡辺直人	東京	堺栄一 西野一征 関一誠
一般女子	岐阜	高木紀子 天野博江 安藤久美子	東京	高橋とも子 水野小夜子 田仲美津江	新潟	五十嵐明美 後藤和子 小林邦子
教員男子	熊本	南直治 工藤勇参 芦原健身	石川	北方匡 村西一 原栄一	岡山	毛利清志 三宅勝 柳本堯敏
高校男子	富山	二上敏博 草島正治 布目茂	山形	遠藤好男 田所光男 伊藤政臣	岐阜	岩田昇 後藤路宏 足立守男
高校女子	大阪	平山泰子 柴山きよ子 高崎弘子	香川	宮武泰子 福本幸子 赤沢ひろ子	新潟	堀川栄美子 竹中礼子 大竹由里子

第２４回　　昭和４４年　長崎県　　諫早市体育館、県立諫早高校体育館（総合優勝　新潟県）

順位 / 種別	1位		2位		3位	
一般男子	山梨	窪田恵三 秋山真男 野田秀応	神奈川	小島一平 渡辺直人 坂本聖二	東京	堺栄一 西野一征 関一誠
一般女子	岐阜	高木紀子 天野博江 高橋千代美	東京	高橋とも子 田仲美津江 水野小夜子	京都	永井かおり 山下三枝子 岡崎繁子
教員男子	熊本	西田壽明 工藤勇参 芦原健身	岡山	毛利清志 三宅勝 柳本堯敏	石川	北方匡 原栄一 村西一
高校男子	新潟	本間享 小泉司 九原正敏	群馬	内田通夫 桐生台次郎 渡辺稔	奈良	菅原弘貴 岡田昇久 山本繁幸
高校女子	大阪	柴山きよ子 高崎弘子 大場照美	岐阜	及川恵子 脇田和子 紅谷島子	栃木	望月しずか 石崎茂子 阿久津まさ子

第２５回　　昭和４５年　　岩手県　　釜石製鉄所健康保険組合体育館（総合優勝　岩手県）

種別＼順位	1 位	2 位	3 位
一般男子	山梨 窪田恵三 秋山真男 野田秀応	東京 池田信孝 栂野尾昌一 鈴木健二	神奈川 小島一平 渡辺直人 坂本聖二
一般女子	新潟 竹中悦子 相沢マチ子 後藤和子	岐阜 高木紀子 天野博江 桑原富士子	栃木 松本昭子 石崎喜代子 望月しずか
教員男子	岩手 佐々木彦士 佐々木邦夫 永沢和彦	石川 北方匡 原栄一 松本忠之	熊本 西田壽明 工藤勇参 芦原健身
高校男子	奈良 巽康司 竹内真 西川繁美	石川 銭谷欽治 竹村勇治 青山信吾	岩手 高橋信夫 佐藤壮 佐藤吉雄
高校女子	大阪 西尾真理子 秋本八代美 秋本幸子	栃木 小林敏枝 藤井幸子 池田静江	香川 川東秀美 森清美 田所静子

第２６回　　昭和４６年　　和歌山県　　湯浅中学校、耐久高校体育館（総合優勝　新潟県）

種別＼順位	1 位	2 位	3 位
一般男子	神奈川 渡辺直人 小島一平 宮川秀樹	山梨 窪田恵三 秋山真男 岩下一雄	岐阜 森芳夫 河田満 安藤義治
一般女子	新潟 鈴木明美 後藤和子 本間恵美子	神奈川 杉田良子 味蓼とも子 秋山陽子	北海道 田村静子 高野美千子 今川喜佐子
教員男子	滋賀 久保田良昌 藤原健二 藤上良信	和歌山 森隆 中西詳味 佐藤光伸	熊本 本郷節生 南直治 工藤勇参
高校男子	新潟 土田征雄 鈴木裕 佐野直行	和歌山 山本茂樹 倉内徹 岡忠成	奈良 西川繁美 佐野弘 中井基夫
高校女子	大阪 西尾真理子 秋本八代美 秋本幸子	福島 千葉陽子 宮内すみ子 木村瑞江	岡山 林寿美子 平田喜久江 三宅一美

第２７回　　昭和４７年　　太陽国体　　鹿児島県　　南高校体育館（総合優勝　東京都）

種別＼順位	1 位	2 位	3 位
一般男子	神奈川 小島一平 渡辺直人 宮川秀樹	東京 鈴木健二 池田信孝 栂野尾昌一	山梨 窪田恵三 秋山真男 岩下一雄
一般女子	東京 湯木博江 竹中悦子 石崎茂子	愛知 橋本香代 池田静江 富居康子	香川 小片千恵子 小西幸代 森清美
教員男子	和歌山 森隆 中西詳味 門間幹夫	栃木 別井晃 斉藤佶 森田昇	石川 北方匡 原栄一 長谷川進
高校男子	奈良 中井基夫 南田義正 辻敏弘	石川 原敏夫 山下敏行 谷島助男	岐阜 古西悟 角田勝 後藤純一
高校女子	大阪 秋本幸子 高田幹子 徳田敦子	山形 矢口洋子 本間浩子 今田真知子	千葉 山田尚子 平野美千代 瀬野清美

第２８回　　昭和４８年　　若潮国体　　千葉県　　県立茂原高校体育館（総合優勝　東京都）

種別＼順位	1　位		2　位		3　位	
一般男子	神奈川	小島一平 宮川秀樹 笠井教行	東京	関一誠 栂野尾昌一 池田信孝	愛知	本間順次 松島保 谷口寛
一般女子	東京	湯木博江 相沢マチ子 竹中悦子	香川	森清美 川東秀美 長尾弥生	岐阜	天野博江 広沢功子 日比野悦子
教員男子	滋賀	藤上良英 藤上良信 藤原健二	石川	原栄一 長谷川進 和田修	山形	永井司 高山昌三 斉藤和夫
高校男子	富山	西村正美 梶川博之 上治雄	福島	寺田繁 矢部芳光 五十嵐弘之	奈良	池田文昭 松重恵三 坪内利夫
高校女子	大阪	高田幹子 徳田敦子 植野恵美子	千葉	山田尚子 平野美千代 瀬野清美	山形	堀田正子 清水礼子 福原友子

第２９回　昭和４９年　水と緑のまごころ国体　茨城県　石岡小学校体育館、石岡二高校体育館（総合優勝　東京都）

種別＼順位	1　位		2　位		3　位	
一般男子	東京	池田信孝 栂野尾昌一 今井茂満	神奈川	小島一平 宮川秀樹 笠井教行	愛知	松島保 本間順次 谷口寛
一般女子	東京	石崎茂子 今田眞知子 柴山きよ子	香川	田所静子 山口豊子 川東秀美	北海道	田村静子 高野美千子 藤島百子
教員男子	和歌山	門間幹夫 武藤隆志 森隆	石川	原栄一 長谷川進 高来秀夫	茨城	佐藤利昭 関本昌和 大川健太郎
高校男子	山形	米山孝二 中島俊彦 加藤信之	奈良	塚本良一 小倉久和 村田信博	福井	長谷川博幸 諏訪芳博 中村幸平
高校女子	新潟	関根和子 大塚ソノエ 佐藤由喜子	香川	牛田真由美 片山千英子 渡辺幸子	大阪	植野恵美子 石川好子 北村寿弥子

第３０回　　昭和５０年　　たくましくあすをひらこう　みえ国体　三重県　県立松阪高校体育館（総合優勝　石川県）

種別＼順位		1　位		2　位		3　位	
成年男子	一般	神奈川	小島一平 宮川秀樹 笠井教行	東京	池田信孝 栂野尾昌一 銭谷欽治	富山	河村博之 今泉勉 米沢和男
成年男子	教員	石川	原栄一 長谷川進 和田修	群馬	今井勇司 関俊夫 桐生台次郎	宮城	渡部紘一 木戸純一 白岩良治
成年女子		東京	湯木博恵 池田美加 柴山きよ子	香川	川東秀美 田所静子 山口豊子	岡山	石田雅子 三田明美 藤原敦子
少年男子		奈良	吉岡伸浩 冨田章夫 田島裕司	石川	宮森庄吉 酒井直人 坂本宏志	宮城	橘川光孝 沼沢隆 宍戸隆夫
少年女子		大阪	植野恵美子 北村寿弥子 石川好子	三重	谷口元美 槇野いく子 野崎知花	香川	前川加代子 渋谷茂子 金崎美保

第３１回　昭和５１年　若楠国体　佐賀県　県立牛津高校体育館、町立牛津中学校体育館（総合優勝　石川県）

種別＼順位		1位		2位		3位	
成年男子	一般	神奈川	小島一平 宮川秀樹 笠井教行	富山	今泉勉 河村博之 米沢和男	石川	相川進 米正隆 堂谷内均
	教員	石川	原栄一 長谷川進 和田修	群馬	関俊夫 今井勇司 桐生台次郎	和歌山	門間幹夫 武藤隆志 山本茂樹
成年女子		東京	湯木博恵 石崎茂子 今田眞知子	香川	石原英子 田所静子 牛田真由美	大阪	西尾真理子 谷美津代 秋本幸子
少年男子		石川	重山成生 森田均 坂本昌嗣	滋賀	北橋進 西山博司 西堀武	香川	平野勝彦 上原明 木田敬二
少年女子		大阪	石川好子 平久美子 河村茂美	新潟	青木恵子 藤井良子 佐藤友子	東京	徳永順子 松枝睦子 永野ふみ子

第３２回　昭和５２年　あすなろ国体　青森県　浪岡町民体育館（総合優勝　青森県）

種別＼順位		1位		2位		3位	
成年男子	一般	埼玉	尾崎幹雄 飯野佳孝 土田証雄	東京	池田信孝 栂野尾昌一 銭谷欽治	神奈川	小島一平 笠井教行 辻敏弘
	教員	石川	原栄一 長谷川進 舛田吉光	群馬	今井勇司 栗原恒夫 桐生台次郎	和歌山	門間幹夫 山本茂樹 米山正和
成年女子		東京	湯木博恵 池田美加 池田茂子	大阪	西尾真理子 谷美津代 秋本幸子	香川	石原英子 田所静子 牛田真由美
少年男子		滋賀	西山博司 矢部忠司 山田和樹	栃木	角田光永 久郷俊明 関根忠	青森	丹藤勇一 楠美誠悦 島内俊二
少年女子		大阪	平久美子 河村茂美 原口恵子	高知	浜田由理 田村圭香 寺田史枝	青森	葛西明子 山下奈々子 柳沼端代

第３３回　昭和５３年　やまびこ国体　長野県　塩尻市立体育館（総合優勝　熊本県）

種別＼順位		1位		2位		3位	
成年男子	一般	千葉	田所光男 大場和博 西村龍夫	新潟	棒勇 鈴木裕 丸山法男	石川	相川進 米正隆 堂谷内均
	教員	石川	長谷川進 舛田吉光 和田修	群馬	今井勇司 栗原恒夫 岩崎盛和	熊本	工藤勇参 稲津悟 田中芳文
成年女子		大阪	谷美津代 秋本幸子 東海林文子	福岡	桶本百合子 丸山富江 山口峰子	栃木	沼能久子 日山裕子 日向野藤枝
少年男子		熊本	本石俊憲 権藤浩二 井上哲章	山形	桜井雅人 五十嵐正弘 須貝英徳	滋賀	保科正浩 横田悟司 川嶋栄司
少年女子		新潟	月岡広美 中沢一枝 斎藤優子	栃木	上野加代子 高田康子 海賀里美	大阪	合川裕子 原口恵子 北田スミ子

第３４回　　昭和５４年　　日本のふるさと宮崎国体　　宮崎西都市民体育館（総合優勝　熊本県）

種別＼順位		1位		2位		3位	
成年男子	一般	千葉	田所光男 大場和博 織本富之	神奈川	小島一平 高橋清 菅敏明	北海道	遠藤好男 木村敏男 久原正敏
	教員	石川	長谷川進 和田修 舛田吉光	群馬	今井勇司 栗原恒夫 鏑木智博	滋賀	藤原健二 藤上良信 脇坂重之
成年女子		栃木	日山裕子 日向野藤枝 大嶌和代	大阪	東海林文子 葛西明子 原口恵子	香川	平井佐代子 山田高子 前川加代子
少年男子		熊本	権藤浩二 村上英介 井上哲章	香川	岡野佳浩 小西太 竹田佳史	栃木	馬場良浩 小野口正 大島正志
少年女子		大阪	北田スミ子 植田日出子 冨田美千代	新潟	藤井直子 遠藤えり子 富岡栄子	熊本	川添安代 高峯和子 陣内貴美子

第３５回　　昭和５５年　　栃の葉国体　　栃木県　　真岡市総合体育館（総合優勝　富山県）

種別＼順位	1位		2位		3位	
成年男子	富山	今泉勉 米正隆 二上敏博	石川	長谷川進 舛田吉光 堂谷内均	神奈川	小島一平 池田隆治 菅敏明
成年女子	東京	端洋護 渡辺多喜子 高岸陽子	滋賀	谷美津代 若村弥生 阪口典子	愛知	小松澄子 渡辺喜美 柳田智佳子
少年男子	滋賀	山本裕幸 竹端英夫 松浦進二	栃木	大島正志 大堀円 戸村正樹	熊本	井上哲章 伊東幸男 福田和幸
少年女子	熊本	高峯和子 陣内貴美子 森山弘美	大阪	松田全代 新木千織 尾崎升美	新潟	野上満子 山内美子 山田登美子

第３６回　昭和５６年　びわこ国体　滋賀県　大津市皇子が丘公園体育館（総合優勝　滋賀県）

種別＼順位	1位		2位		3位	
成年男子	富山	今泉勉 米正隆 林加永	青森	佐藤光伸 須藤茂 村元英美	群馬	今井勇司 秋庭克行 鏑木智博
成年女子	東京	湯木博恵 高岸陽子 月岡広美	滋賀	谷美津代 西村美千代 磯野恵理子	大阪	河村茂美 平久美子 葛西明子
少年男子	滋賀	松浦進二 片岡泰 辻田泰昌	山梨	松野修二 宮健次 宮康二	石川	羽田義仁 村松博 宮本照啓
少年女子	熊本	陣内貴美子 高峯尚子 森山弘美	香川	山内佳子 佃貴子 永井明美	新潟	山内美子 石崎咲知子 本田佳代子

第３７回　昭和５７年　くにびき国体　島根県　大東町立体育館（総合優勝　滋賀県）

種別＼順位	1 位	2 位	3 位
成年男子	群馬 今井勇司 鏑木智博 秋庭克行	富山 今泉勉 米沢和男 米正隆	北海道 遠藤好男 米山孝二 千葉昌弘
成年女子	岡山 河本小織 高田幹子 小寺裕美	大阪 河村茂美 平久美子 国奥美智子	静岡 山本美津子 川島直子 原田純子
少年男子	滋賀 西川勉 辻田泰昌 杉本吉男	石川 山尾克則 岡島浩一 羽田憲治	埼玉 長内征美 新井利幸 大割誠一郎
少年女子	大阪 松田太嘉子 石井香澄 鴻原春美	熊本 森山弘美 高峯尚子 青木きよみ	栃木 三沢真奈美 岡崎仁子 小貫早苗

第３８回　昭和５８年　あかぎ国体　群馬県　桐生市民体育館（総合優勝　群馬県）

種別＼順位	1 位	2 位	3 位
成年男子	群馬 今井勇司 栗原恒夫 鏑木智博	新潟 鈴木裕 山下圭一 飯塚芳英	静岡 後藤和之 飯野佳孝 井出裕雄
成年女子	岡山 河本小織 高田幹子 中原裕美	静岡 川島直子 白松千加子 原田純子	東京 枝美代子 月岡広美 高峯尚子
少年男子	熊本 川本英明 林謙一 三次英昭	兵庫 佐藤浩 松本泰典 村山喜洋	奈良 見市昌弘 小野満哲 村山友二
少年女子	大阪 鴻原春美 新木貴子 宮崎正美	熊本 上村美香 平井真由美 青木きよみ	新潟 原田真理恵 本田みどり 川野名智美

第３９回　昭和５９年　わかくさ国体　奈良県　田原本町中央体育館（総合優勝　大阪府）

種別＼順位	1 位	2 位	3 位
成年男子	熊本 工士恭司 江藤正治 権藤浩二	群馬 今井勇司 栗原恒夫 鏑木智博	奈良 辻敏弘 中井基夫 吉岡伸浩
成年女子	大阪 葛西明子 星和枝 平山美恵子	石川 伊東ひとみ 小野順子 小路和代	東京 枝美代子 森山弘美 三田知佳子
少年男子	滋賀 江藤裕樹 中川健 中川康	富山 平井保光 中嶋正男 室田繁行	埼玉 松元功一 生井沢勝美 石橋隆
少年女子	大阪 新木貴子 今村薫 山田陽子	新潟 若井郁子 小池由扶子 青戸香織	青森 徳光由美子 谷地春子 西田美知子

第４０回　昭和６０年　わかとり国体　鳥取県　県立由良育英高校体育館（総合優勝　熊本県）

順位 / 種別	1位		2位		3位	
成年男子	熊本	工士恭司 権藤浩二 堺　圭一	群馬	今井勇司 栗原恒夫 竹内康夫	愛知	坂本宏志 古賀勝志 坂井外喜男
成年女子	新潟	月岡広美 野上満子 山内美子	大阪	高峯和子 星　和枝 平山美恵子	山形	東海林文子 佐藤栄美子 田口真由美
少年男子	埼玉	生井沢勝美 菊地　修 石橋　隆	石川	気谷篤人 山本明彦 中川　守	熊本	浜北和彦 中村徳祐 小本義久
少年女子	熊本	田島志乃 田代美智世 松尾知美	新潟	小池由扶子 青戸香織 棒　匡子	青森	横手智江美 平間由紀 乳井智秋

第４１回　昭和６１年　かいじ国体　山梨県　勝沼町民体育館（総合優勝　山梨県）

順位 / 種別	1位		2位		3位	
成年男子	山梨	山本裕幸 松野修二 宮　健次	大阪	森下一夫 谷田尚嗣 保科正浩	熊本	工士恭司 権藤浩二 堺　圭一
成年女子	新潟	月岡広美 野上満子 山内美子	富山	今川真理子 大谷鶴美 田向和子	山梨	高田幹子 野口英代 清藤　和
少年男子	熊本	久住　猛 畑野宏幸 本山秀昭	山梨	内田高史 輿石　努 岩佐延寿	富山	吉田直樹 越田芳成 城木夢高
少年女子	福岡	田村富士美 田島由美 間庭由美	熊本	松尾知美 毛利千秋 渡辺喜美子	埼玉	秋元美佐緒 太田悦子 清水由紀子

第４２回　昭和６２年　海邦国体　沖縄県　糸満市西崎総合体育館（総合優勝　熊本県）

順位 / 種別	1位		2位		3位	
成年男子	岐阜	蘭　和真 木内広史 横尾宣幸	群馬	栗原恒夫 竹内康夫 片桐哲也	熊本	工士恭司 権藤浩二 堺　圭一
成年女子	富山	今川真理子 大谷鶴美 伏喜由美子	愛知	宮本美津子 大屋幸恵 松本清美	石川	彼島佳子 小路和代 水本幸代
少年男子	滋賀	鈴木草麻生 平井　肇 小河原　崇	熊本	本山秀昭 高村誠也 廣龍宗美	埼玉	関根英勝 石井　隆 鈴木秀二
少年女子	熊本	中原敬子 甲斐美和 宮村愛子	大阪	南里高子 岩田良子 水井妃佐子	新潟	棒　匡子 高橋朱美 加賀ゆかり

第４３回　　昭和６３年　　京都国体　　京都府　　長岡京市西山公園体育館（総合優勝　大阪府）

種別＼順位	1　位	2　位	3　位
成年男子	神奈川　長谷川　博　幸 石　場　隆　雄 細　谷　　昇	京　都　村　尾　　勉 山　本　裕　幸 杉　本　吉　男	群　馬　鏑　木　智　博 竹　内　康　夫 片　桐　哲　也
成年女子	富　山　今　川　真理子 大　谷　鶴　美 伏　喜　由美子	大　阪　今　村　　薫 田　代　美智世 磯　崎　照　枝	愛　知　大　屋　幸　恵 丑　田　明　子 佐　々　恵　理
少年男子	埼　玉　大　谷　知　昌 内　村　　剛 須　賀　隆　弘	北海道　工　藤　忠　和 藤　本　謙　治 村　井　秀　樹	滋　賀　平　井　　肇 小河原　　崇 中　橋　一　晃
少年女子	大　阪　岩　田　良　子 水　井　妃佐子 新　木　美志子	熊　本　中　原　敬　子 甲　斐　美　和 宮　村　愛　子	宮　城　立　花　久　枝 矢　野　直　子 伏　見　亜　古

第４４回　平成元年　はまなす国体　北海道　日本工学院北海道専門体育館（総合優勝　熊本県）

種別＼順位	1　位	2　位	3　位
成年男子	神奈川　長谷川　博　幸 石　場　隆　雄 細　谷　　昇	北海道　伊　藤　雅　弘 山　尾　克　則 角　谷　淳　一	京　都　村　尾　　勉 山　本　裕　幸 杉　本　吉　男
成年女子	群　馬　野　口　英　代 中　島　真　美 藤　岡　美智子	大　阪　今　村　　薫 奥　山　保　子 秋　元　美佐緒	東　京　都　木　弘　美 毛　利　千　秋 星　野　実智代
少年男子	北海道　佐　藤　嘉　伸 郷　路　一　郎 古　川　英　樹	埼　玉　片　山　卓　哉 久保田　雄　三 関　根　靖　則	熊　本　田　上　厚　志 本　田　和　裕 霜　上　和　宏
少年女子	熊　本　宮　村　愛　子 松　田　治　子 阪　本　雅　子	大　阪　水　井　妃佐子 利　川　三　貴 坂　田　美　佐	佐　賀　庄　島　由美子 寺　尾　美　紀 篠　原　久　子

第４５回　　平成２年　　とびうめ国体　　福岡県　筑紫野市農業者ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞｾﾝﾀｰ（総合優勝　大阪府）

種別＼順位	1　位	2　位	3　位
成年男子	三　重　福　田　　実 中　川　　健 常　山　兼　二	大　阪　辻　田　泰　昌 奥　野　　勉 早　戸　敬　雄	福　岡　荒　木　秀　文 中　村　正　巳 石　井　正　行
成年女子	福　岡　清　水　尚　美 田　村　富士美 田　頭　美奈子	静　岡　金　丸　陽　子 横　手　智江美 山　田　美　紀	大　阪　今　村　　薫 奥　山　保　子 三ツ川　貴　子
少年男子	大　阪　岸　田　明　宏 上　瀧　賢　二 片　岡　詔市郎	熊　本　本　田　和　裕 岡　部　英　朗 前　田　尚　文	埼　玉　関　根　靖　則 高　橋　　真 増　田　直　樹
少年女子	埼　玉　井　田　貴　子 青　木　由美子 浜　崎　　忍	大　阪　松　田　洋　子 杉　田　暢　子 大　田　貴　子	佐　賀　寺　尾　美　紀 篠　原　久　子 鬼　塚　知　美

第４６回　　平成３年　　石川国体　　石川県　　美川町総合スポーツセンター（総合優勝　石川県）

種別＼順位	1　位	2　位	3　位
成年男子	中　川　　健 三　重　常　山　兼　二 山　内　一　志	辻　田　泰　昌 大　阪　奥　野　　勉 早　戸　敬　雄	毛　利　達　彦 石　川　羽　田　義　仁 崎　田　健　一
成年女子	田　児　よし子 東　京　都　木　弘　美 立　花　久　枝	青　戸　香　織 神奈川　森　　真由美 加　賀　ゆかり	小　泉　陽　子 石　川　上　浜　陽　子 中　尾　仁　美
少年男子	太　田　慎　二 千　葉　石　橋　秀　法 佐　藤　裕　二	増　田　直　樹 埼　玉　高　橋　　真 加賀谷　　洋	青　木　　康 石　川　竹　鼻　拓　也 石　本　明　男
少年女子	橋　本　淳　子 宮　城　山　田　裕　美 貴　田　　泉	高　野　八　重 群　馬　丹　野　恭　子 田部井　美　奈	津　田　藍　子 石　川　安　田　香　奈 丸　山　実支子

第４７回　　平成４年　　べにばな国体　　山形県　　新庄市体育館（総合優勝　熊本県）

種別＼順位	1　位	2　位	3　位
成年男子	辻　田　泰　昌 大　阪　今　井　彰　宏 鈴　木　草麻生	西　山　博　司 山　形　渡　邉　清　一 寺　島　剛　志	角　谷　淳　一 北海道　工　藤　忠　和 古　川　英　樹
成年女子	大　堀　麻　紀 富　山　佐々木　　忍 野々村　美　春	林　　美　希 熊　本　田　畑　美　香 上　田　純　子	田　児　よし子 東　京　岡　山　登紀子 立　花　久　枝
少年男子	高　橋　幸　治 群　馬　横　山　秀　之 坂　入　秀　貴	成　島　瑞　穂 茨　城　樋　渡　順　也 矢　部　正　博	片　岡　直　茂 熊　本　花　田　政　文 野　田　亮　介
少年女子	大　田　貴　子 大　阪　水　井　泰　子 川　口　桐　香	小　室　恭　子 埼　玉　伊　藤　さおり 浅　井　康　代	宮　村　亜貴子 熊　本　村　上　直　美 伊　藤　真由美

第４８回　　平成５年　　東四国国体　　香川県　　坂出市立体育館（総合優勝　大阪府）

種別＼順位	1　位	2　位	3　位
成年男子	高　橋　英　治 東　京　峯　岸　康　史 須　賀　隆　弘	谷　田　尚　嗣 大　阪　植　村　昭　彦 常　山　兼　二	中　川　　健 三　重　磯　部　昌　弘 吉　田　義　利
成年女子	西　田　美由紀 大　阪　村　上　直　美 大　田　貴　子	林　　美　希 熊　本　田　畑　美　香 上　田　純　子	中　尾　仁　美 香　川　川　本　光佐子 磯　崎　照　枝
少年男子	樋　渡　順　也 茨　城　矢　部　正　博 大　橋　雅　道	田　中　肇　一 千　葉　池　田　哲　徳 小　倉　伸　彦	井　野　嘉　久 北海道　一　宮　孝　一 馬　木　智　一
少年女子	水　井　泰　子 大　阪　川　口　桐　香 鬼　池　めぐみ	増　茂　孝　枝 北海道　中　山　智香子 田　村　裕　美	山　田　潤　子 富　山　進　藤　範　子 山　田　青　子

第４９回　　平成６年　わかしゃち国体　　愛知県　　大府市民体育館（総合優勝　大阪府）

種別＼順位	1 位	2 位	3 位
成年男子	東京 須賀隆弘 片山卓哉 久保田雄三	大阪 辻田泰昌 今井彰宏 植村昭彦	富山 気谷篤人 岩渕公一 本山秀昭
成年女子	東京 松尾知美 道上彰子 阪本雅子	富山 佐々木忍 渡辺真由美 高野八重	新潟 竹野景子 遠藤みゆき 亀田幸恵
少年男子	滋賀 酒井将之 諏訪良人 松本徹	北海道 一宮孝一 馬木智一 今西隆浩	石川 津田光一郎 奥森正志 舛田圭太
少年女子	大阪 福島由佳 鬼池めぐみ 市橋美紀	福岡 長谷部裕子 吉富明子 吉武由加里	群馬 中麻依子 岡田真紀 亀山貴代

第５０回　　平成７年　　ふくしま国体　　福島県　　白河市中央体育館（総合優勝　福島県）

種別＼順位	1 位	2 位	3 位
成年男子	福島 柳谷辰哉 大堀均 平野泰宏	富山 気谷篤人 本山秀昭 本田和裕	大阪 常山兼二 渡辺哲義 岸田明宏
成年女子	福島 棒匡子 大堀麻紀 寺尾美紀	大阪 中山智香子 増茂孝枝 田中美保	富山 佐々木忍 松田治子 高野八重
少年男子	滋賀 松本徹 向裕樹 川口馨士	福島 渡部訓生 沈逸文 竹俣洋平	石川 徳坂渉 栄代正男 舛田圭太
少年女子	石川 中島珠美 片糸由希子 堀哲子	富山 山田青子 石橋陽子 加藤真知子	福岡 吉富明子 大石瞳 稗田華子

第５１回　　平成８年　　ひろしま国体　　広島県　　三原リージョンプラザ（総合優勝　熊本県）

種別＼順位	1 位	2 位	3 位
成年男子	富山 今井彰宏 谷内貴昭 本田和裕	熊本 霜上和宏 花田政文 福田茂	北海道 村井秀樹 佐藤嘉伸 水澤直哉
成年女子	富山 河口奈緒美 明石由美 市橋理恵	新潟 竹野景子 斎藤かおり 住矢直美	広島 福井奈美 吉川愛 渡辺夕子
少年男子	石川 舛田圭太 車浩明 酒井忠相	埼玉 小吹公彦 中西洋介 長嶺宙	熊本 大束忠司 木下伸介 二瓶良
少年女子	埼玉 井川里美 岩脇史 李荔	熊本 杉浦美幸 永峰弘子 橋本純子	大阪 吉岡知香 鄭有琁 安城美華

第５２回　　平成９年　　なみはや国体　大阪府　　大東市立体育館（総合優勝　大阪府）

順位 / 種別	1　位	2　位	3　位
成年男子	東　京 兒嶋　昇 町田　文彦 須賀　隆弘 久保田　雄三	大　阪 松井　峰生 常山　兼二 植村　昭彦 岸田　明宏	福　岡 森　裁美 清水　文武 棟居　秀行 五十嵐　一智
成年女子	大　阪 宮崎　克巳 貴田　智香子 増山　茂枝 井中　孝	奈　良 谷口　章子 水井　妃佐子 水辺　泰子 渡　未奈	富　山 河合　昭博 高野　八重美 河口　奈緒 市橋　美紀
少年男子	大　阪 和田　泰 仲尾　修 永谷　和 福川　和也	熊　本 權藤　浩二 二大　瓶良 中束　真也 村　寿史	石　川 彼島　重範 車井　浩明 酒谷　忠相 茶　徳靖
少年女子	福　岡 樽野　智子 森　かおり 中内　景子 三好　奈緒	石　川 和田　修 田井　美幸 舛田　恵 田村　恵理	大　阪 西上　正一 福永　麻美 安城　美華 速水　永子

第５３回　平成１０年　かながわ・ゆめ国体　神奈川県　大和市ｽﾎﾟｰﾂｾﾝﾀｰ体育会館（総合優勝　大阪府）

順位 / 種別	1　位	2　位	3　位
成年男子	富　山 今泉　勉 鈴木　草麻生 今井　紀夫 大山　宏司	東　京 兒嶋　昇 町田　文彦 須賀　隆弘 渡邉　清一	大　阪 松井　峰生 岸田　明宏 松井　充 川口　馨士
成年女子	奈　良 谷口　章子 水井　泰子 松田　治恵 市橋　理子	茨　城 磯部　和弘 米倉　加奈子 大坂　千尋 岩松　絵理子	富　山 河合　昭博 高野　八重美 河口　奈緒 明石　由美
少年男子	熊　本 權藤　浩二 大束　真也 中村　寿史 茂見　祥平	埼　玉 関根　務 橋村　竜彦 平山　政史 川崎　和宗	石　川 彼島　重範 酒井　忠相 茶谷　徳靖 山下　淳
少年女子	福　岡 樽野　智子 中内　景子 藤本　乃恵 松尾　美穂子	大　分 吉田　信之 末綱　聡子 赤尾　美代 赤尾　亜希	埼　玉 加藤　勝 大熊　倫子 山口　絵美 謝　婷婷

第５４回　　平成１１年　　くまもと未来国体　　熊本県　　八代市総合体育館（総合優勝　熊本県）

順位 / 種別	1　位	2　位	3　位
成年男子	熊　本 石黒　久 霜上　武之 花田　和宏 大東　政文 吉　忠司	富　山 今泉　勉 今井　紀夫 大山　宏司 吉川　大助	神奈川 石場　隆雄 舛田　圭太 清水　隆志 古川　裕輔
成年女子	大　阪 宮崎　克巳 鬼池　めぐみ 森本　かおり 関　祥子	茨　城 大塚　佳子 米倉　加奈子 中島　暁子 大坂　千尋	富　山 河合　昭博 山本　静香 山田　潤子 山田　青子
少年男子	東　京 渋谷　実 安村　介 佐藤　康治 佐々木　翔	熊　本 權藤　浩二 茂見　祥平 池田　礼奈 土田　真義	香　川 岡野　佳浩 二宮　和敬 前田　丈博 木場　喬
少年女子	福　岡 明神　憲一 松尾　美穂子 藤本　乃恵 脇坂　郁	熊　本 伊東　幸男 田上　千晴 松本　舞子 野口　理加	埼　玉 中島　正敏 陳　暁娜 大下　詩織 広岡　まり香

第５５回　平成１２年　２０００年とやま国体　富山県　高岡市民体育館（総合優勝　富山県）

種別＼順位	1　位	2　位	3　位
成年男子	富　山 今泉　勉夫 今井紀昭 谷内貴司 大山宏	熊　本 村中陽介文 花田政治 上良高 古井博	神奈川 石場隆雄 舛田圭太 清水隆志 古川裕輔
成年女子	茨　城 下鳥洋樹子 米倉加奈子 長縄美佳子 岩松絵理	大　阪 喜多祥子 関本千努 田上宏子 西井晴予	富　山 河合昭博香 山本静子子 山田潤 山口青
少年男子	東　京 渋谷実 佐藤治翔 佐々木翔一 池田雄一	富　山 山形口英 川口佳明 米坂隆介 劉志夫遠	北海道 井早幸一 石坂圭司平 竹田村大純
少年女子	青　森 髙屋仁 廣瀬栄理子 今別府靖代 楊藹琳	富　山 麦谷正二 田村美幸 今井代 劉晶	長　崎 春野良三 松田友美子 西山真鯉 宇津早也香

第５６回　平成１３年　新世界・みやぎ国体　宮城県　塩竈市体育館（総合優勝　富山県）

種別＼順位	1　位	2　位	3　位
成年男子	富　山 今泉　勉 吉川大助太 舛田圭司 大東忠	熊　本 村中陽介 古井博高 花田政文 上良治	埼　玉 中條彪 中村憲尚士 福井剛 加賀谷洋
成年女子	千　葉 中村本新悦子 寺田尾友美 松尾亜希 赤堀	茨　城 小島浦木津夫 松本裕子澄 正真知恵 梅津貴司	富　山 河合昭博 山田潤子幸 村伯美佳 佐口知
少年男子	東　京 渋谷実仁一 山浦田尚雄士 池田開慎 新木	埼　玉 大屋藤元 斉上敦伸 堤井知史 貴也	青　森 戸祭脇峰 岩原克潤生 長佳博 鈕平
少年女子	青　森 髙屋仁 楊藹琳 廣瀬栄理子 今別府靖代	富　山 中田庄二 佐伯美都 劉晶 今井幸代	大　分 吉田信之 服部麻衣 倉満一美 橋本麻衣子

第５７回　平成１４年　よさこい高知国体　高知県　南国市立ｽﾎﾟｰﾂｾﾝﾀｰ（総合優勝　東京都）

種別＼順位	1　位	2　位	3　位
成年男子	富　山 今泉　勉 今井紀夫太 舛田圭司 大東忠	北海道 古川英樹 水澤直哉 三上裕司 長原正博	大　阪 渡辺哲義士 川口馨一 谷宮孝昭 内貴一
成年女子	千　葉 中村本新静子 山田尾友香 松尾亜美希 赤堀	宮　城 山並川人 小長縄子子 徳永尚佳 美幸	東　京 落合田久夫子 岩倉井良子 米上加奈 田美幸
少年男子	東　京 渋谷実一 池田雄慎士 新開洋平 高木	埼　玉 大屋貴一 井上知也 秋山駿祐 新井克巳	滋　賀 藤山上信 数口洋太 早野公一 川健賢
少年女子	青　森 髙屋仁 廣瀬栄理子 今別府靖代 小柳知子	岐　阜 尾藤伸治 脇田侑舞 後藤裕佳 林	宮　城 常田貴裕 平嶋朝美 松山優 村咲希

第５８回　　平成１５年　　ＮＥＷ!!わかふじ国体　静岡県　富士宮市民体育館（総合優勝　東京都）

順位 / 種別	1位	2位	3位
成年男子	東京 兒嶋　昇 久保田雄三 片山卓哉 清水　裕	岡山 藤原道弘 松川大記 尾崎勝久 佐伯浩一	宮城 原田利雄 草井　篤 山下洋平 鈴木知道
成年女子	千葉 中村新一子 寺本悦子美 松田友美 赤尾亜希	宮城 山並正人 小川尚子 長縄美佳子 徳永幸子	熊本 今井彰宏 末綱聡子 中内景子 今井幸代
少年男子	滋賀 藤上良信 数野健太 早川賢一 早崎修平	東京 小林重徳 高木洋平 堀川善生 林　森	埼玉 大屋貴司 中尾祐介 黒田俊明 宗形俊克
少年女子	宮城 常田貴裕 平山　優 松村咲希 麻植まさよ	青森 髙屋　仁 小柳知子 藤澤美佑紀 今別府香里	熊本 工藤勇参 吉村征美 前田美順 岡　ひとみ

第５９回　　平成１６年　　彩の国まごころ国体　　埼玉県　久喜市総合体育館（総合優勝　埼玉県）

順位 / 種別	1位	2位	3位
成年男子	富山 今泉　勉 舛田圭太 大束忠司 大束真也	埼玉 中條　彪 山田英孝 福井剛士 中西洋介	北海道 小倉隆司 松本　章 竹村純 長原正博
成年女子	熊本 今井彰宏 末綱聡子 幡谷好美 前田美順	宮城 山並正人 小川尚子 長縄美佳子 平山　優	東京 岩田良子 田井美幸 媚山映里 今別府靖代
少年男子	東京 渋谷　実 藤田真生生 堀川善也 高階知也	埼玉 帰山好和 遠藤大由 山田和司 小松谷　輝	滋賀 藤上良信 早川賢一 早崎修平 川下剛士
少年女子	青森 髙屋　仁 今別府香里 本間ちさと 藤井瑞希	埼玉 名倉康弘 高橋沙織 井上春奈 李　舒静	宮城 常田貴裕 松村咲希 麻植まさよ 大阪あや

第６０回　　平成１７年　　晴れの国おかやま国体　　岡山県　岡山市総合文化体育館（総合優勝　埼玉県）

順位 / 種別	1位	2位	3位
成年男子	富山 荒木　純 舛田圭太 大束忠司 大束真也	埼玉 中條　彪 山田英孝 福井剛士 中西洋介	東京 町田文彦 松本　徹 川口馨士 清水　裕
成年女子	岐阜 尾藤伸治 後藤　愛侑 脇田征美 吉村	熊本 今井彰宏 末綱聡子 今井幸代 前田美順	大阪 谷内貴昭 脇坂　郁 多谷郁恵 今別府香里
少年男子	埼玉 大屋貴司 林　純司 三橋智希 上田拓馬	岡山 西崎文貴 佐伯祐行 三宅達也 米元優樹	滋賀 藤上良信 早崎修平 田中昭太 川下剛士
少年女子	青森 髙屋　仁 本間ちさと 藤井瑞希 垣岩令佳	埼玉 田部井秀郎 井上春奈 富永翔子 作山智美	石川 車　浩明 浜中麻亜子 樽野　恵 南出なつき

第６１回　　平成１８年　　のじぎく兵庫国体　　兵庫県　　宝塚市立総合体育館（総合優勝　埼玉県）

種別＼順位	1　位		2　位		3　位	
成年男子	富　山	今泉　勉太 舛田　圭司 大束　忠遠 劉　志	埼　玉	中條　彪一 仲尾　修也 井上　知和 山田　和司	秋　田	鈴木　理之 佐々木　翔 西浦　和広 鈕　佳平
成年女子	埼　玉	小室　恭子 岩脇　史子 大熊　倫香 広岡　まり	熊　本	今井　彰宏美 幡谷　好美 今井　幸代 岡　ひとみ	岐　阜	尾藤　伸治 後藤　愛 脇田　侑 吉村　征美
少年男子	埼　玉	大屋　貴司 上田　拓馬 田児　賢一 佐々木　啓	福　井	木戸口　元 松川　直弘 笹木　里司 川村　勝平	熊　本	権藤　浩二 武山　修三 嘉村　健士 園田　啓悟
少年女子	石　川	車　浩明 樽野　恵菜 木村　唯き 南出　さ	青　森	藤田　真人 藤井　瑞希 佐々木　理恵 垣岩　令佳	埼　玉	田部井　秀郎 大森　舞 三木　佑里子 中森　理紗

第６２回　　平成１９年　　秋田わか杉国体　　秋田県　　美郷総合体育館（総合優勝　秋田県）

種別＼順位	1　位		2　位		3　位	
成年男子	秋　田	鈴木　理之 佐々木　翔 菅野　俊助 鈕　佳平	富　山	今泉　勉 平田　典靖 劉　志遠 菊田　健一	滋　賀	酒井　良之 数野　健太 早川　賢一 早崎　修平
成年女子	石　川	和田　修幸 田井　美知恵 梅津　恵 樽野　恵	秋　田	鈴木　康修 三好　奈緒 金上　路子 下崎　彩	神奈川	鶴見　和彦 坂田　雅美 伊東　可奈 内藤　真実
少年男子	埼　玉	大屋　貴司 松丸　一輝 田児　賢一 和田　周	熊　本	権藤　浩二 嘉村　健士 園田　啓悟 今給黎　将之	福　井	木戸口　元 松浦　正輝 千京　尚将 坂井　哲也
少年女子	青　森	藤田　真人 垣岩　令佳 内井　快枝 橋本　由衣	石　川	車　浩明 桜井　みどり 村上　彩 三谷　美菜津	福　岡	明神　憲一 栗原　文音 植田　悠 古賀　さやみ

第６３回　　平成２０年　　チャレンジ！おおいた国体　　大分県　　日田市総合体育館
（総合優勝　東京都・熊本県・富山県・青森県）

種別＼順位	1　位		2　位		3　位	
成年男子	富　山	荒木　純 平田　典靖 劉　志遠 古財　和輝	東　京	笹林　義春 早坂　幸平 廣部　好輝 岩脇　峰生	埼　玉	中西　洋介 井上　知也 上田　拓馬 松丸　一輝
成年女子	熊　本	今井　彰宏美 幡谷　好美希 藤井　瑞令 垣岩　佳	秋　田	原田　利雄 三好　奈緒子 金上　路由佳 楠瀬　由	東　京	栂野尾　昌一 今別府　靖代 伊東　可奈 野尻野　匡世
少年男子	福　岡	北島　義浩 末松　純二 北野　拓 原田　和憲	滋　賀	藤上　良信 矢部　拓也 村上　俊 宇野　賢人	青　森	戸祭　潤 北島　翼 吉田　尚弘 櫻庭　弘貴
少年女子	宮　城	田所　光男 高橋　礼華 佐藤　冴香 松友　美佐紀	青　森	藤田　真人 橋本　由衣 米元　小春 佐藤　楓	大　阪	谷田　尚嗣 西　友理 久後　あすみ 福万　尚子

第６４回　　平成２１年　トキめき新潟国体　　新潟県　　五泉市総合会館（総合優勝　東京都）

順位／種別	1　位	2　位	3　位
成年男子	東　京 笹林義春 廣部好輝 岩脇峰生 山田和司	熊　本 村中陽介 武山修三 園田啓悟 嘉村健士	宮　城 草井篤 菊田健一 佐藤黎 木戸道治
成年女子	岐　阜 山田青子 後藤愛侑 脇田理恵 江藤	秋　田 原田利雄 金上路子 三好奈緒 楠瀬由佳	大　阪 谷内貴昭 森かおり 今別府香里 関谷真由
少年男子	埼　玉 大屋貴司 星野翔平 小林晃也 長谷川達	熊　本 権藤浩二 嘉村昌俊 坂中賢太 平山涼介	東　京 小林重徳 間瀬俊介 高岡透平 鄭圭介
少年女子	青　森 藤田真人 佐藤楓 田中志穂 市丸美里	石　川 車谷浩明 三谷美菜津 平野華梨 三納英莉佳	富　山 麦谷正二 古西佳那子 髙橋沙也加 中尾佳淑

第６５回　　平成２２年　ゆめ半島千葉国体　千葉県　　野田市関宿総合公園体育館、野田市総合公園体育館
（総合優勝　埼玉県）

順位／種別	1　位	2　位	3　位
成年男子	千　葉 野村和弘 佐藤翔治 山口公洋 川内崇士	東　京 坂本修一 廣部好輝 池田雄一 佐伯祐行	富　山 荒木純 古財和輝 橋本博且 黒瀬尊敏
成年女子	岐　阜 山田青子 後藤愛侑 脇田恵 江藤理	石　川 和田修 田井美幸 樽野恵 伊東可奈	兵　庫 酒井将之 木村早紀 小椋しのぶ 大迫晴加
少年男子	埼　玉 大屋貴司 和田治久気 竹内宏憲 竹内義	福　島 大堀均 桃田賢斗 松居圭一郎 小森洋佑	大　阪 有田圭一 相和勇輝 小高拓也 佐野拓磨
少年女子	埼　玉 大高史夫 中村梨沙 小橋霞 奥原希望	愛　知 下込貞司 峰歩美 與猶くるみ 城口優里花	富　山 麦谷正二 高橋沙也加 古西佳那子 中尾佳淑

第６６回　　平成２３年　おいでませ！山口国体　山口県　光市総合体育館（総合優勝　埼玉県・東京都）

順位／種別	1　位	2　位	3　位
成年男子	東　京 坂本修一 池田雄一 藤井真生 畑亮太	富　山 荒木純 小財和樹 黒瀬尊敏 銭谷翔	山　口 大東真也 山平尾直樹 松本光平 米村優樹
成年女子	石　川 毛利愛 三谷達彦 伊東美津 樽野可奈恵	岐　阜 尾藤伸治 脇田佑 梅津知恵 江藤理恵	秋　田 原田利雄 楠瀬由佳 馬上崎愛 下村彩
少年男子	福　島 大堀均 齋藤太一 桃田賢斗 松居圭一郎	埼　玉 大屋貴司 古井賀輝 金上拓斗 子樹	東　京 小林重徳 関口直孝 森田川英太郎 吉野
少年女子	青　森 藤田真人 福島由紀 篠谷菜留 窓場加奈	埼　玉 大高史夫 小橋霞 奥原希望 渡邉あかね	石　川 車野浩明 芝村由花 木星百千智

第６７回　　平成２４年　　ぎふ清流国体　　岐阜県　　池田町総合体育館（総合優勝　埼玉県）

順位 / 種別	1　位		2　位		3　位	
成年男子	埼　玉	中山遠上 條田藤田 和大拓 彪司由馬	富　山	荒園嘉武 木田村下 啓健利 純悟士一	千　葉	野竹大松 村内越丸 和宏　一 弘気泉輝
成年女子	岐　阜	尾後脇江 藤藤田藤 伸　理 治愛侑恵	東　京	岩今別田 田府村井 良靖千杏 子代秋奈	石　川	毛伊樽三 利東野谷 達可　美 彦奈恵津菜
少年男子	埼　玉	大井金西 屋上子本 貴拓祐拳 司斗樹太	福　島	大桃松保 堀田居木 賢圭卓 均斗郎朗一	滋　賀	仲河三宮 尾崎川津 修駿剛雄 一輔史大
少年男子	埼　玉	山奥渡中 田原邉西 秀希あ貴 樹望ね映か	青　森	藤永中宮 田田村浦 真　恭玲 人麗子奈	富　山	松山松野 田口田上 高ソヨ 幸力蒼水碧

第６８回　　平成２５年　　スポーツ祭東京２０１３　　東京都　　町田市立総合体育館（総合優勝　埼玉県）

順位 / 種別	1　位		2　位		3　位	
成年男子	富　山	荒佐園嘉 木木田村 啓健 純翔悟士	埼　玉	中遠山和 西藤田田 洋大和 介由司周	東　京	坂数上早 本野田川 修健拓賢 一太馬一
成年女子	東　京	清髙松土 水橋友井 文礼美杏 武華紀奈佐	熊　本	吉峰福廣 富　島田田 桂歩由彩 子美紀花	岐　阜	山脇江山 田田藤本 青　理紗 子侑恵梛
少年男子	埼　玉	大五中小 屋嵐里寺 貴　裕裕 司優貴介十野	大　阪	有下常疋 田田農山田 圭　幹聖 一走太也樹	福　岡	成成原馬 富富口場 勝勇拓湧 彦太巳生
少年女子	青　森	藤宮永永 田浦田原 真玲　和 人奈麗那可	埼　玉	山中清川 田西水島 秀貴　里 樹映望羅	富　山	越松金中 田田浦村 芳　紗 成蒼樹幸

第６９回　　平成２６年　　長崎がんばらんば国体　　長崎県　　長崎市民会館（総合優勝　埼玉県）

順位 / 種別	1　位		2　位		3　位	
成年男子	石　川	長伊坂小 谷川東井林 克一　 進範将晃	北海道	小竹佐々 倉村木田 隆　大 司純翔輝	東　京	坂数垰堀 本野畑内 修健亮研 一太太人
成年女子	熊　本	今伊福廣 井東島田 彰可由彩 宏奈紀花	兵　庫	酒大平杉 井迫野野 将晴華文 之加梨保	東　京	内土鈴板 藤井木垣 祐杏温有 輔奈子紀
少年男子	大　阪	有下小常 田田農倉山 圭　由幹裕 一走嵩太樹	埼　玉	大玉中渡 屋手田邉 勝政航真 貴人空奈羽	福　島	大古渡三 堀賀辺橋 　勇健 均穂大也
少年女子	福　島	本大東川 多堀野上 有紗恵 彩紗奈	青　森	藤安園荒 田田田木 美絵茜里 寛羅織子	埼　玉	川尾西 下島崎口 智里沙涼

第７０回　　平成２７年　紀の国わかやま国体　和歌山県　岩出市立市民総合体育館（総合優勝　福島県）

順位 / 種別	1　位		2　位		3　位	
成年男子	福　島	瓶子　良司 藤藤　浩太圭一郎 内居　彰可由 齋松　宏奈紀花	埼　玉	井丸　秀一郎輝 内雅　研利 堀古　雄佳春穂	宮　城	諸堀　大善大圭 多川　木田藤 鈴大　祐杏温由紀
成年女子	熊　本	井東　島田 堀辺　橋澤 直陽　咲彩	秋　田	田瀬　元中 川山　下本 大晃　恭泰敏	東　京	内土　鈴仲 井木　井屋 川岡　邉瀬 秀萌　みな
少年男子	福　島	大渡　三山 小林　木口 鈴山　西江	岡　山	松奥　山坂 田藤　畑島 祐紀　美南	埼　玉	大小　森渡 貴佳　秀航 雄恵　天み
少年女子	福　井	上齋　高川	埼　玉	栞子　南	千　葉	高荒　岡小

第７１回　　平成２８年　希望郷いわて国体　岩手県　北上総合体育館　（総合優勝　熊本県）

順位 / 種別	1　位		2　位		3　位	
成年男子	富　山	荒木　純 山口　容正 常山　幹太 下農　走	宮　城	諸多　大輔 堀川　木善　生 鈴木　伯健　裕 佐　人	熊　本	井上　哲章 池田　雄一 権藤　公平 小本　翔太
成年女子	熊　本	今井　彰宏 伊東　可奈 福島　彩紀 廣田　花	東　京	内藤　祐輔 土井　杏奈 鈴　温子 髙畑　祐紀子	埼　玉	山田　秀樹 道野　京耶 川島　里羅 尾崎　沙織
少年男子	福　島	本多　樹 山澤　裕貴 金子　直大 久田　真祐 保友　之	埼　玉	大屋　貴司 渡邉　航貴 小寺　雅之 野村　洋輝 岡　浩明	熊　本	権藤　浩二 平川　拓透 山本　大摩 小　秀佑
少年女子	福　島	大堀　菜 仁平　咲 吾妻　明 髙橋　日香	石　川	車家　稀 大椎　夏伽 南部　萌 一	千　葉	髙瀬　雄 岡部　天み 小沼　な奈 有川　友理

第７２回　平成２９年　愛顔つなぐえひめ国体　愛媛県　砥部町陶街道ゆとり公園体育館　（総合優勝　埼玉県）

順位 / 種別	1　位		2　位		3　位	
成年男子	富山	荒木　純 西本　拳太 常山　幹太 下農　走	福島	渡部　訓生 松居　圭一郎 古賀　健穂 三橋　也	埼玉	中條　彪 竹内　義憲 小川　佳汰 渡邉　航貴
成年女子	秋田	原田　雄 米元　利春 田中　小穂 川上　志紗 西藤　恵奈	埼玉	山田　秀樹 川島　里羅 尾崎　沙織 西口　子	熊本	吉富　桂 峰田　歩千 志山　奈 松　美陽未
少年男子	熊本	権藤　浩二 小本　大佑 田中　湧士 森新　太郎	宮崎	井出　大善 長峰　翔悟 小川　樹 岩切　至	長崎	林本　昭 村口　馬也 辻内　貴竜 滝　凌友
少年女子	茨城	磯部　弘 島倉　唯 海澤　咲花 老澤　彩	山口	竹井　光 柳井　唯 淺内　咲和 宮公　佳	埼玉	滝内　亮実 正田　捺実 吉田　瑠杏 上杉

第７３回　平成３０年　福井しあわせ元気国体　福井県　勝山市体育館「ジオアリーナ」　（総合優勝　埼玉県）

順位 / 種別	1　位		2　位		3　位	
成年男子	富山	荒木本木山純 西保常太朗 三松永川大緒	埼玉	中條上邉彪 井金渡子拓斗 渡三綿山西祐樹	北海道	吉田野部枝仁 東渡三圭吾 横星小大力起
成年女子	秋田	拳奈麻和可 卓幹紗恵 好本原上那奈	福井	賢里茜花 貴矢口江 翔汐彩和	石川	山野家川博 康千菜夏智 野家大亮保
少年男子	埼玉	屋山川藤司 貴裕大太貴 大中緑加輝基	大阪	石治野橋浩 明宇佐高巧 西原田大洸	岡山	松一藤山記 一藤山太凌 川井井川翼
少年女子	埼玉	滝内杉藤亮 上齋吉藤田杏 瀧内杉藤夏 齋吉瑠実	栃木	芝田恵 海老原紀 佐川石由 奥香智香 江里香	千葉	髙栗栗瀬田 山原原田雄 秀あか楓 琉り夏

第７４回　　令和元年　いきいき茨城ゆめ国体　茨城県　石岡市石岡運動公園体育館　（総合優勝　熊本県）

順位 / 種別	1　位		2　位		3　位	
成年男子	富山	荒木純 下農走 金子大 久保田祐 真之介	熊本	前田尚史 山田和一 霜上雄士 田中湧 司	東京	坂本修一 五十嵐寺優 小野裕介 馬場湧生
成年女子	熊本	池田雄一 峰歩美 仲井由乃 福本希七 真恵	茨城	神谷ジャーミン 本田水利奈 清恵望 舟橋佳歩	石川	星明彦 星千智 小野菜保 大家夏稀
少年男子	青森	奈岡浩 良岡大 良岡功樹 奈藤映也 武慈友	埼玉	大屋拓 百上口海 樋野輝 秦陸	長崎	林島貴昭 町本祥英 中島一巧 杉本和樹
少年女子	青森	藤田人 髙橋優 内田羽 加藤奈 藤田佑	山口	竹光唯 金廣美 長廻真至 水津愛希 知美	茨城	磯部澤 海老川 小木 青明 も 弘彩華 え

第７５回　　令和２年　燃ゆる感動かごしま国体　鹿児島県　指宿総合体育館　（中　止）

第７６回　　令和３年　三重とこわか国体　三重県　三重県営サンアリーナ　（中　止）

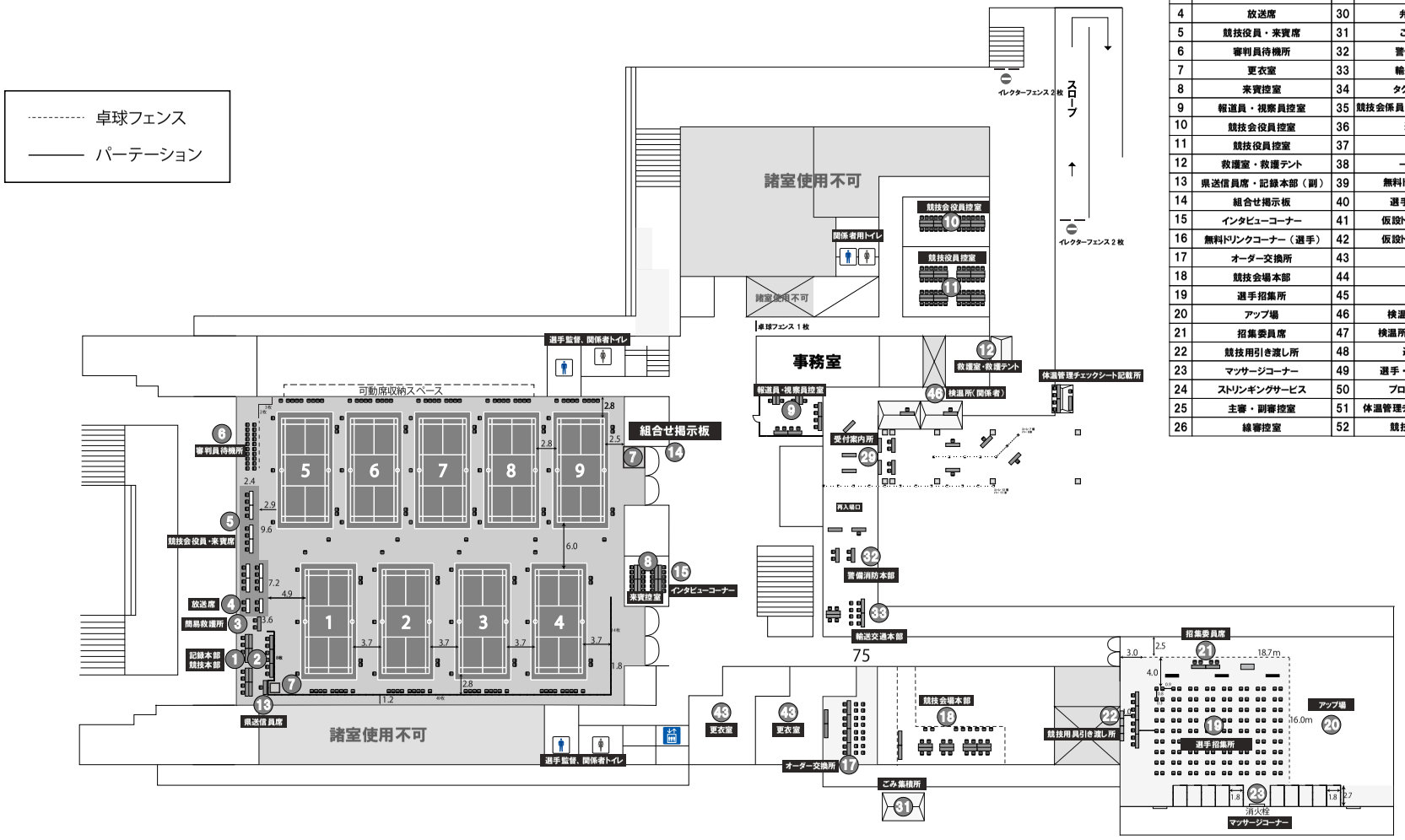
第７７回　　令和４年　いちご一会とちぎ国体　栃木県　栃木県立県北体育館

順位 / 種別	1　位	2　位	3　位
成年男子			
成年女子			
少年男子			
少年女子			



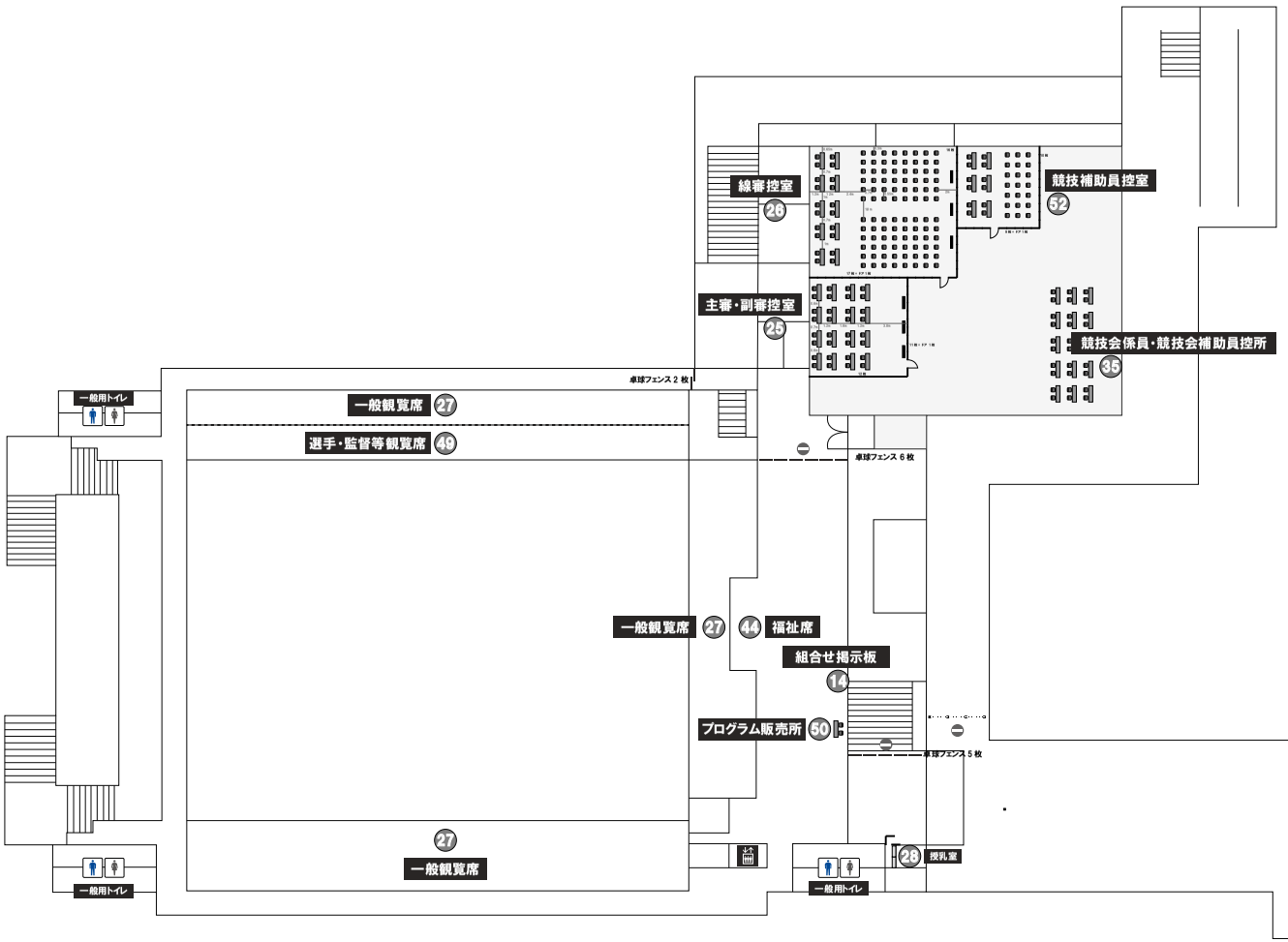
練習会場住所一覧

練習会場 ※競技会場までの所要時間及び距離は記載のとおり。	住　所
大田原体育館（ 5分） 2.5km	栃木県大田原市本町1-1-1
ふれあいの丘体育館（ 18分） 11km	栃木県大田原市福原1411-2
大田原西地区公民館（ 5分） 2.1km	栃木県大田原市浅香3-3578-747
大田原市立大田原小学校（ 8分） 3.6km	栃木県大田原市城山1-4-36
大田原市立西原小学校（ 3分） 250m	栃木県大田原市美原3-2-8
大田原市立大田原中学校（ 5分） 600m	栃木県大田原市美原1-14-2
大田原市立金田北中学校（ 16分） 8.2km	栃木県大田原市市野沢2067
栃木県立那須拓陽高等学校（ 6分） 2.9km	栃木県那須塩原市下永田4丁目3-52
栃木県立那須清峰高等学校（ 5分） 2.1km	栃木県那須塩原市下永田6丁目4



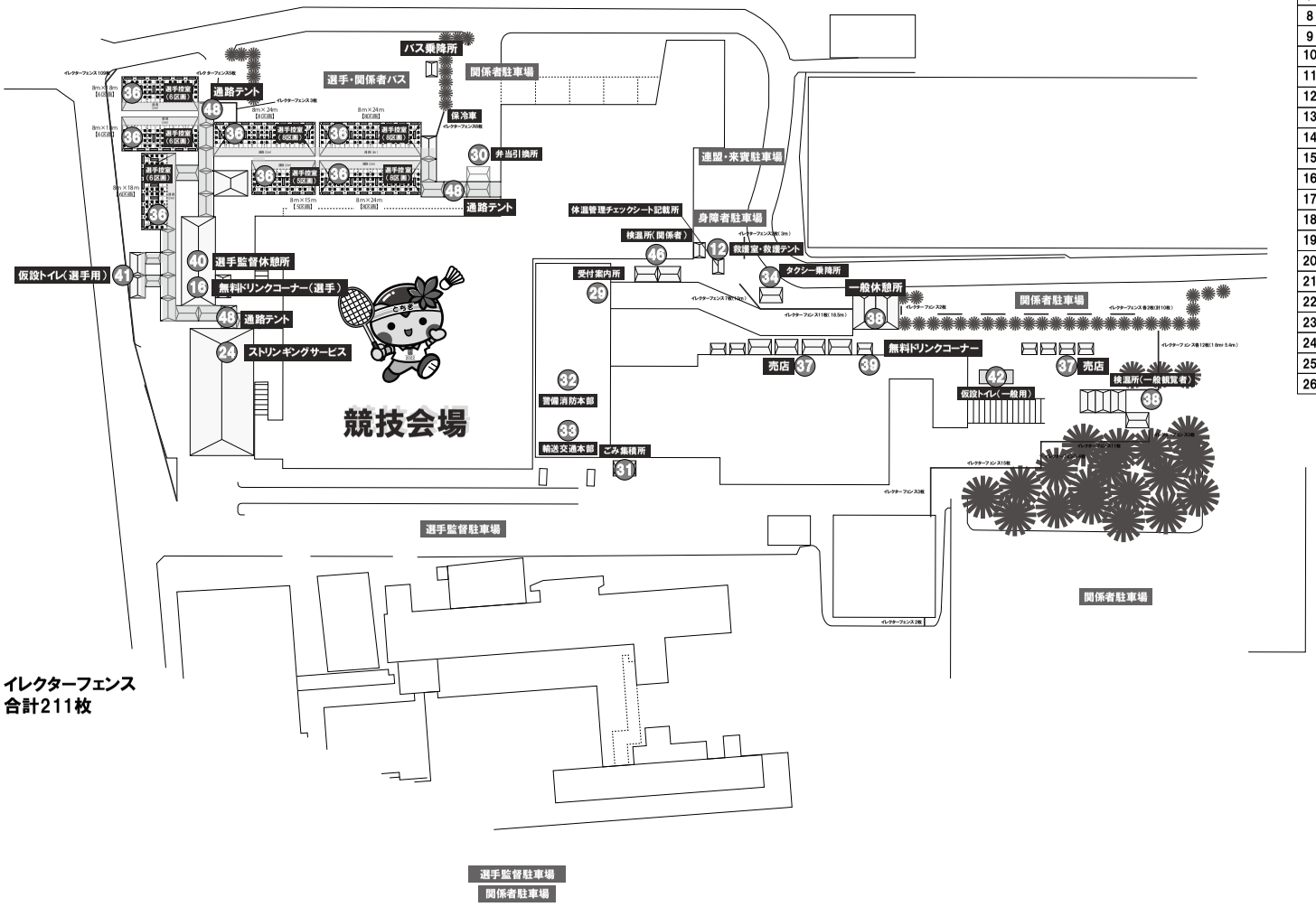
No.	施設名称	No.	施設名称
1	記録本部	27	一般観覧席
2	競技本部	28	授乳室
3	簡易救護所	29	受付案内所
4	放送席	30	弁当引換所
5	競技役員・来賓席	31	ごみ集積所
6	審判員待機所	32	警備消防本部
7	更衣室	33	輸送交通本部
8	来賓控室	34	タクシー乗降所
9	報道員・視察員控室	35	競技会係員・競技会補助員控所
10	競技会役員控室	36	選手控室
11	競技役員控室	37	売店
12	救護室・救護テント	38	一般休憩所
13	県送信員席・記録本部（副）	39	無料ドリンクコーナー
14	組合せ掲示板	40	選手監督休憩所
15	インタビューコーナー	41	仮設トイレ（選手用）
16	無料ドリンクコーナー（選手）	42	仮設トイレ（一般用）
17	オーダー交換所	43	更衣室
18	競技会場本部	44	福祉席
19	選手招集所	45	
20	アップ場	46	検温所（関係者）
21	招集委員席	47	検温所（一般観覧者）
22	競技用具引き渡し所	48	通路テント
23	消火栓	49	選手・監督等観覧席
24	ストリンギングサービス	50	プログラム販売所
25	主審・副審控室	51	体温管理チェックシート記載所
26	線審控室	52	競技補助員控室

第77回国民体育大会 いちご一会とちぎ国体 大田原市実行委員会	いちご一会とちぎ国体 第77回 国民体育大会 夢を感動へ。感動を未来へ。2022	競技名	第７７回国民体育大会バドミントン競技会	縮尺	1/500(A3)
		図面名	栃木県立県北体育館１F【会場配置図】	修正日	2022.8.30



No.	施設名称	No.	施設名称
1	記録本部	27	一般観覧席
2	競技本部	28	授乳室
3	簡易救護所	29	受付案内所
4	放送席	30	弁当引換所
5	競技役員・来賓席	31	ごみ集積所
6	審判員待機所	32	警備消防本部
7	更衣室	33	輸送交通本部
8	来賓控室	34	タクシー乗降所
9	報道員・視察員控室	35	競技会係員・競技会補助員控所
10	競技会役員控室	36	選手控室
11	競技役員控室	37	売店
12	救護室・救護テント	38	一般休憩所
13	県送信員席・記録本部（副）	39	無料ドリンクコーナー
14	組合せ掲示板	40	選手監督休憩所
15	インタビューコーナー	41	仮設トイレ（選手用）
16	無料ドリンクコーナー（選手）	42	仮設トイレ（一般用）
17	オーダー交換所	43	更衣室
18	競技会場本部	44	福祉席
19	選手招集所	45	
20	アップ場	46	検温所（関係者）
21	招集委員席	47	検温所（一般観覧者）
22	競技用引き渡し所	48	通路テント
23	マッサージコーナー	49	選手・監督等観覧席
24	ストリンギングサービス	50	プログラム販売所
25	主審・副審控室	51	体温管理チェックシート記載所
26	線審控室	52	競技補助員控室

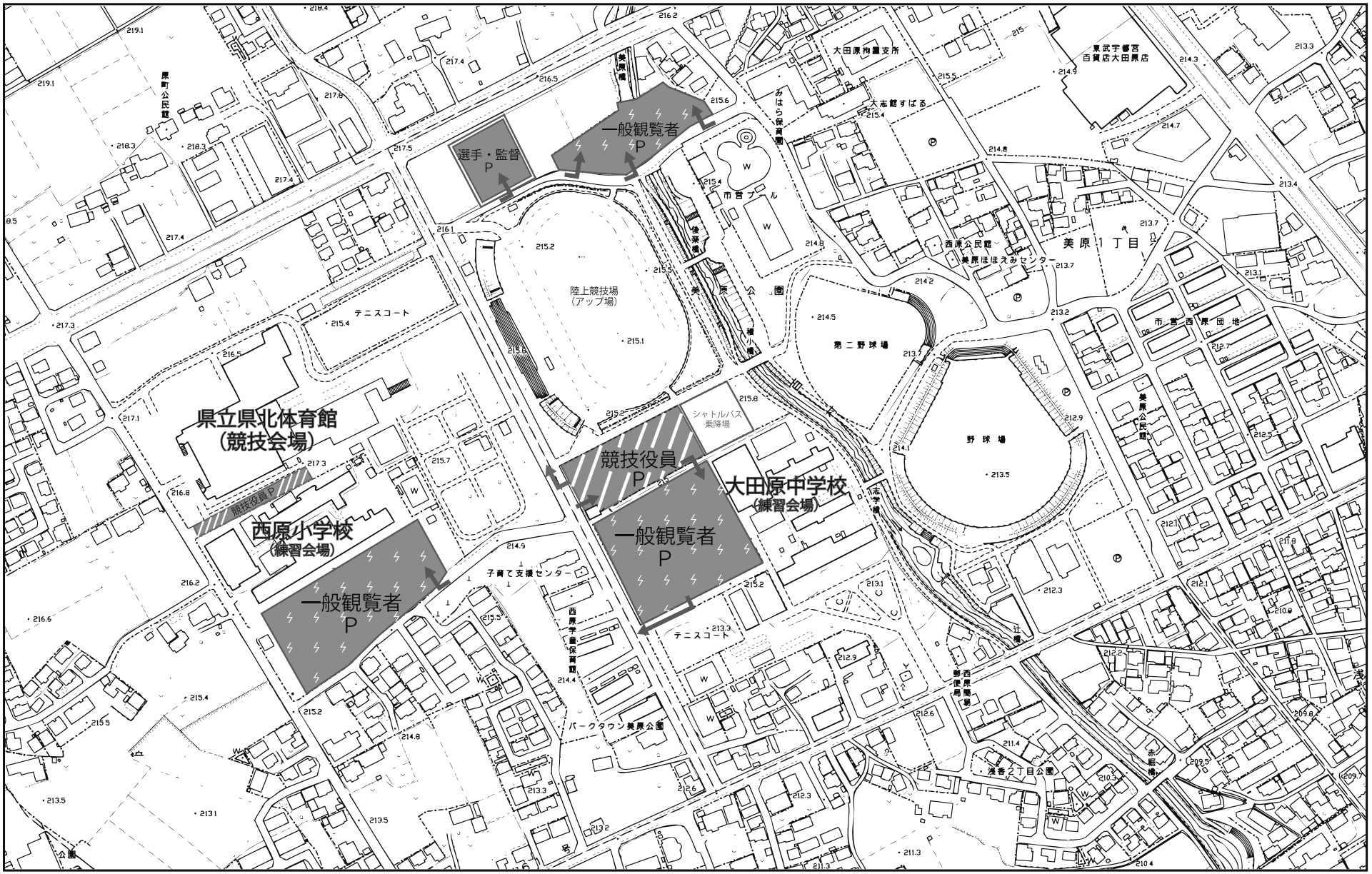
第77回国民体育大会 いちご一会とちぎ国体 大田原市実行委員会	いちご一会とちぎ国体 第77回国民体育大会 夢を感動へ。感動を未来へ。2022	競技名	第７７回国民体育大会バドミントン競技会	縮尺	1/500 (A3)
		図面名	栃木県立県北体育館２F【会場配置図】	修正日	2022.8.30



No.	施　設　名　称	No.	施　設　名　称
1	記録本部	27	一般観覧席
2	競技本部	28	授乳室
3	簡易救護所	29	受付案内所
4	放送席	30	弁当引換所
5	競技役員・来賓席	31	ごみ集積所
6	審判員待機所	32	警備消防本部
7	更衣室	33	輸送交通本部
8	来賓控室	34	タクシー乗降所
9	報道員・視察員控室	35	競技会係員・競技会補助員控所
10	競技会役員控室	36	選手控室
11	競技役員控室	37	売店
12	救護室・救護テント	38	一般休憩所
13	県送信員席・記録本部（副）	39	無料ドリンクコーナー
14	組合せ掲示板	40	選手監督休憩所
15	インタビューコーナー	41	仮設トイレ（選手用）
16	無料ドリンクコーナー（選手）	42	仮設トイレ（一般用）
17	オーダー交換所	43	更衣室
18	競技会場本部	44	福祉席
19	選手招集所	45	
20	アップ場	46	検温所（関係者）
21	招集委員席	47	検温所（一般観覧者）
22	競技用引き渡し所	48	通路テント
23	マッサージコーナー	49	選手・監督等観覧席
24	ストリンギングサービス	50	プログラム販売所
25	主審・副審控室	51	体温管理チェックシート記載所
26	線審控室	52	競技補助員控室

第77回国民体育大会 いちご一会とちぎ国体 大田原市実行委員会	いちご一会とちぎ国体 第77回国民体育大会 夢を感動へ。感動を未来へ。2022	競技名	第７７回国民体育大会バドミントン競技会	縮　尺	1/1000 (A3)
		図面名	栃木県立県北体育館屋外【会場配置図】	修正日	2022.8.30

競技会場（県立県北体育館）周辺図



競技上の注意

1　本競技会は、公益財団法人日本バドミントン協会「令和４年度　競技規則、大会運営規程及び公認審判員規程」により実施します。

2　オーダー用紙は、当該対抗戦開始時刻４５分前までに、監督がオーダー交換所へ提出し、交換してください。
　ただし、４５分前の時点で前の対抗戦が継続している場合は、放送の指示により速やかに提出してください。指定時刻までに提出されない場合は「棄権」とみなされる場合があります。
（１）オーダー交換は、オーダー交換所で競技審判部長の立ち合いのもと行います。
　　※予備のオーダー用紙は、オーダー交換所に用意してあります。
（２）オーダー用紙は、初戦対抗戦分を監督会議時に配布します。
（３）各対抗戦終了後、勝利チームに次試合用のオーダー用紙を主審から配布します。
（４）各日とも、第１試合（９時３０分開始）のオーダー交換は８時５０分から行います。

3　勝敗は、２試合先取方式とし、勝敗決定後の残りの試合は行いません。

4　監督・選手は、対抗戦開始予定時刻２０分前までに選手集合所に集合完了して、招集委員の確認を受け、指示に従ってください。
　ただし、その時点で前の対抗戦が継続している監督・選手は、放送により選手集合所に集合して、招集委員の確認を受け指示に従ってください。勝ち上がったチームの次の試合が連続する場合、前の対抗戦が終了して２０分後に次の試合を開始します。

5　コートへの入退場については、主審の指示に従ってください。

6　コート入場後の公式練習は、試合ごとに、ダブルスはパートナー同士、シングルスは対戦者同士により、トスの後、２分以内の練習を認めます。

7　シャトルは、公益財団法人日本バドミントン協会「第１種検定合格のシャトル」を使用します。また、シャトルは試打してありますので、銘柄等の選択変更には応じられません。
　※使用中のシャトルの交換については、主審の許可を得てください。

8　インターバルは、競技規則第１６条第２項によります。
　インターバル中、コートに入れるのは当該プレーヤーのほか、ベンチ入り出来る２名までとしますが、「２０秒」のコールがなされたら、当該プレーヤー以外は速やかにコートから離れてください。
　なお、第１ゲームと第２ゲームの間及び第２ゲームと第３ゲームの間並びに第３ゲームのインターバルでは、プレーヤーがエンドを替えた後に入るようにしてください。

9　同一選手による連続試合の場合は、ウエアの着替えのみを認めますが、その場合は必ず主審に申し出て、速やかに行うようにしてください。

10　試合が遅れている場合は、コートを並行して試合を行うことがあります。
　※ダブルスの試合終了後、第２シングルスに同一選手が連続して試合を行う場合は、１５分後に開始します。

11　試合の進行状況により、コートを変更する場合があります。放送にご注意ください。

12　試合中にコート内で事故が生じた場合、コートに入ることを許されるのは、レフェリー（競技役員長）またはデピュティーレフェリー（競技審判部長）が必要と認める医療救護班・競技役員に限られています。

13　競技に際しては、上衣背面中央に文字列の大きさは、高さ 6～10cm、横 30cm 以内の範囲に都道府県名を明示してください。文字は、上衣背面の都道府県名明示部分の色と明確に区別できる文字色の漢字としてください。

　また、ゼッケンを使用する場合には、縦 15cm、横 30cm を基準とし、必ず四隅を固定してください。なお、文字列の大きさについては公益財団法人日本バドミントン協会大会運営規程第 24 条のとおりです。

　また、マッチ前の公式練習を含め、ベンチに控えている際にもチーム名の表示のある上衣を着用してください。監督も競技にふさわしい服装で臨んでください。〔公認審判員規程第 5 条第 12 項(8)〕

14　水分の補給については、主審の指示に従ってください。

（１）蓋付のボトルのみ使用を許可します。

（２）ベンチ内の給水ボトルは必ずバック等に保管して置いてください。（脱衣カゴ・ドリンクボックスは設置しません）

※クーラーボックスの持ち込みはご遠慮ください。また、氷のうの使用はインターバル中のみ認めます。使用後は必ず保冷ソフトバッグ等に保管してください。

15　競技フロアでは、タブレット端末の使用及び携帯電話・スマートフォンなどの電子機器の使用を禁止します。携帯電話は電源を切るか、マナーモードにしてください。なお、競技フロア内での写真撮影は禁止します。

16　県北体育館サブアリーナを選手集合所、ウォームアップ場（ストレッチ程度）とします。試合開始に先立つ招集に関しては、十分に注意してください。

17　記録速報箱は１階のロビー、記録速報所に設置しています。

18　選手の荷物等は、各自持参で入退場してください。

19　温度環境維持のため、空気調整装置（エアーコンディショナー）を使用する場合があります。

20　本競技会では、特段に「会場ルール」は定めていません。

21　新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、次の点に留意してください。

（１）選手同士及び選手と主審・サービスジャッジとの握手は行わないようにしてください。

（２）シャトル交換の際には、選手は直接シャトルの筒から受け取るようにしてください。

（３）試合終了後、勝者はサインをせず、主審の記入した勝者名を確認してください。

22　けが等の場合、大会本部では簡単な応急処置のみ行います。その後は各自・各チームの責任において対応してください。

23　その他、国民体育大会バドミントン競技実施要項を遵守してください。

審判上の注意

1　審判員は、公益財団法人日本バドミントン協会「令和４年度　競技規則、大会運営規程及び公認審判員規程」にのっとり厳正に競技を運営・管理する。

2　競技規則の第９条（サービス）、第１３条（フォルト）、第１６条（プレーの継続、振舞い、罰則）については、厳正に判定する。

3　すべてのゲーム中に、一方のサイドのスコアが１１点になったとき、６０秒を超えないインターバルを認める。また、第１ゲームと第２ゲームの間、第２ゲームと第３ゲームの間に１２０秒を超えないインターバルを認める。[競技規則第１６条第２項]

4　プレーヤーは、どんなことがあっても、体力や息切れを回復できるように、または、アドバイスを受けるためにプレーを遅らせてはならない。［競技規則第１６条第４項]
　ラケットの破損、ストリングスの切断等のためラケットを交換する場合、あるいは、靴の紐を締め変える場合などは、インプレー中以外は主審の許可を得て指示に従わなければならない。

5　マッチ中のシャトルがインプレーでない場合で、プレーヤーがサービスとレシーブのために位置につくまでの間に限り、プレーヤーはマッチ中、アドバイスを受けることができる。[競技規則第１６条第５項(1)]
　監督・選手などが、インプレー中に当該プレーヤーに対して、アドバイスをすることは認められない。

6　プレーヤーは、競技規則第１６条第２項のインターバルを除き、マッチ中、主審の許可なしにコートを離れてはならない。もしそのような行為をした場合は、遅延行為とみなされる。[競技規則第１６条第５項(2)]
　マッチ（試合）中、プレーヤーは汗拭きやそれに伴う水分補給などにより、コートを離れる場合は、主審の許可を得なければならない。

7　プレーヤーが競技規則第１６条第２項（インターバル)、第４項（１）（プレーの遅延）・第５項（２）（コートを離れる事に関して）・第６項（プレーヤーの禁止行為）に違反した場合、主審は違反したサイドのプレーヤーに「警告」（イエローカード）をする。また、一度「警告」を受けた後、再び違反した場合は、そのサイドを「フォルト」（レッドカード）にする。目に余る不品行な振舞い、執拗な違反には、その違反したサイドを「フォルト」とし、直ちにレフェリー（競技役員長）に報告する。レフェリー（競技役員長）は違反したサイドをそのマッチから失格させる事ができる。[競技規則第１６条第７項]

8　主審は、もし線審が明らかに間違ったコールをしたと確信する場合には、線審の判定を変更することができる。[競技規則第１７条第５項(1)]

9　審判員の判定に対して疑問がある場合は、当該プレーヤーと監督に限り、主審に対して「質問」することが認められる。ただし、「抗議」あるいは「異議」であってはならない。
［大会運営規程第３６条]

昼食弁当について

いちご一会とちぎ国体バドミントン競技に参加される選手・監督の皆様に斡旋し、お申込みいただいた昼食弁当につきましては、次のとおり引換えいただき、お召し上がりください。

１　弁当の引換え

⑴　弁当の引換えは、弁当引換所で行います。

⑵　引換時間は、午前 11 時 00 分から午後１時 30 分までです。

⑶　弁当は、「弁当引換券」と交換にお渡しいたします。

※　弁当引換券の再発行はいたしませんので、紛失等されませんようご注意ください。

⑷　お申込み後の数量の変更、取消等は、原則お受けできません。ただし、競技敗退時（負け帰り）による取消のみ、引換日前日の午後４時 30 分までお受けいたします。なお、取消に係る弁当代金の返金手続きに関しましては、競技会終了後、弁当申込フォームにご登録いただいたメールアドレスにご連絡いたします。

⑸　午後１時 30 分を過ぎての弁当の引換えは行いません。

⑹　弁当の空き箱は、会場内のごみ箱には捨てずに、午後２時 30 分までに弁当引換所にご持参ください。

２　お願い

⑴　弁当の消費期限は当日の午後２時 00 分ですが、引換後はお早めにお召し上がりください。

⑵　弁当の持ち帰りは、衛生上の問題のため、絶対にしないでください。

３　お問合わせ先

名鉄観光サービス株式会社 さいたま支店内 とちぎ国体大田原市輸送センター

〒330-0854 埼玉県さいたま市大宮区桜木町 4-333-13 大同生命さいたま大宮ビル 13 階

TEL：048-641-5388 FAX：048-641-5287 （平日:9 時 30 分～17 時 30 分・土休日休業）

【１０月８日（土）・９日（日）・10 日（月）大会期間中の土休日連絡先】

TEL：080-1552-3102 / 080-1552-3325

医療救護について

1　競技会場での対応

（1）競技会場に救護所を設置し、医薬品及びＡＥＤを配備しています。

（2）救護所に看護師等を配置し、応急処置のみを行います。症状により必要と認めた場合には、医療機関に救急搬送しますので、その際には必ずチーム関係者が同行してください。

（3）救護所からの救急搬送等により医療機関で治療を受ける場合は、救護所で交付する「処理記録兼診療依頼書」及び負傷者本人の「健康保険証」を医療機関に提示してください。

※「処理記録兼診療依頼書」とは、負傷者の情報や症状、救護所での処置内容等を大田原市実行委員会から搬送先医療機関へ的確に伝達し、早急に診療をお願いするための書類です。

2　練習会場での対応

（1）医療機関での治療が必要な場合には、必ずチーム関係者が同行し、傷病者の「健康保険証」を提示してください。練習会場では「処理記録兼診療依頼書」の交付はありません。

3　宿舎での対応

（1）直接宿舎に申し出て医療機関の紹介をしてもらうか、緊急な場合は、救急車の手配を依頼してください。

なお、医療機関に搬送する場合、必ずチーム関係者が同行してください。

（2）医療機関で治療を受ける場合は、「健康保険証」を医療機関へ提示してください。

4　医療費の負担について

救護所で行う応急処置及び救急車に要する費用については無料ですが、タクシー等を利用した場合の交通費は自己負担となります。また、医療機関で治療を受けた費用は、受診者負担となりますので、必ず「健康保険証」を提示してください。

※「健康保険証」を提示しないで受診した場合は、自由診療となり全額が受診者の自己負担となりますのでご注意ください。

5　救急等医療情報について

最寄りの受診可能な医療機関などをお知りになりたいときは、「とちぎ医療情報ネット」等で情報を入手することができます。

【栃木県内医療機関等案内】

名　　称	情報掲載先ホームページ
とちぎ医療情報ネット	栃木県ホームページ http://www.qq.pref.tochigi.lg.jp/
大田原市休日在宅当番医 （昼間）	大田原市ホームページ https://www.city.ohtawara.tochigi.jp/docs/2013082771612/
那須郡市休日当番医 （昼間）	那須郡市医師会ホームページ http://nasumed.sakura.ne.jp/public/
那須地区夜間急患診療所	那須地区広域行政事務組合ホームページ https://www.nasukouiki.or.jp/night/

※医療機関を受診される際には、予め電話にて国体競技関係者である旨を伝え、受診可能かを確認くださるようお願いいたします。

輸送について

1　輸送について

⑴　輸送方法

選手・監督の宿舎から競技会場及び練習会場への移動は、持込車両もしくは「計画輸送（タクシー)」での移動となります。

⑵　輸送対象

選手・監督のみを対象とします。

⑶　輸送区間

「宿舎」⇔「練習会場」、「宿舎」⇔「競技会場（監督会議会場)」及び「練習会場」⇔「競技会場（監督会議会場)」が計画輸送対象区間です。

⑷　タクシーチケットの配付及び留意事項

・来会意向調査時に、大会期間中の移動手段を「計画輸送（タクシー)」と回答いただいたチームには、いちご一会とちぎ国体大田原市実行委員会発行のタクシーチケットを事前に送付しております。

・10月5日（水）～10月10日（月・祝）のみ使用が可能です。(公式練習日を含む)

・タクシーチケットを利用できるタクシー会社は、チケットに掲載されているタクシー会社に限ります。

・タクシー乗車時にタクシーチケットをお持ちでない場合は、自己負担となります。

・紛失された場合、タクシーチケットの追加発行はいたしませんので大切に保管してください。

・宿舎でのタクシーの手配は、各チームで直接タクシー会社に予約をお願いいたします。

・練習会場でのタクシーの手配は、各チームで直接予約をされるか、又は、練習会場係員にお申し付けください。

・競技会場でのタクシーの手配は、混乱を避けるため必ず輸送交通本部係員にお申し付けください。

・大会期間中はタクシーが不足することが予想されますので、時間に余裕を持ってご予約ください。

2　駐車場について

⑴　競技会場

来会意向調査時に、大会期間中の移動手段を「持込車両」と回答いただいたチームには、「駐車許可証」を事前に送付しております。駐車許可証をお持ちのチームは指定駐車場をご利用ください。

⑵　練習会場

持込み車両のある選手・監督は指定の駐車場をご利用ください。

⑶　宿舎

宿舎の駐車場の有無については、各宿舎によって異なりますので、宿泊先が決まり次第、必要に応じて宿泊先へお尋ねください。

⑷　監督会議会場

監督会議会場には駐車場を用意しておりますので、ご利用ください。

3　注意事項

タクシーチケットのご利用は、競技会場や練習会場など競技会に直接関係する場所への移動に限ります。競技終了後の買い物や食事等、プライベートな移動にはご利用になれません。不正利用をされた場合には料金の請求をいたしますので、ご注意ください。

会場・関係機関電話番号一覧

◎実行委員会事務局

名　　称	所　在　地	電話・FAX番号
いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会 大田原市実行委員会 （大田原市国体推進課内）	大田原市本町1-4-1 大田原市役所庁舎Ａ別館２階	TEL　０２８７－４７－６１００ FAX　０２８７－４７－６１０１

◎競技会場・審判監督会議会場

名　　称	所　在　地	電話・FAX番号
栃木県立県北体育館	大田原市美原3-2-62	TEL　０２８７－２２－８０１２ FAX　０２８７－２２－８０１６

◎警察・消防・保健所

名　　称		所　在　地	電話・FAX番号
警　察	大田原警察署	大田原市紫塚1-1-4	TEL　０２８７－２４－０１１０
救急・消防	大田原消防署	大田原市中田原868-12	TEL　０２８７－２８－５１００
保健所	県北健康福祉センター	大田原市住吉町2-14-9	TEL　０２８７－２２－２２５７

◎休日在宅当番医

名　　称		所　在　地	電話・FAX番号
10月９日(日)	吉成小児科医院	大田原市新富町2-1-22	TEL　０２８７－２２－２４１２
10月10日(月)	大田原中央クリニック	大田原市中央1-3-15 トコトコおおたわら１階	TEL　０２８７－２３－１０００

※事前に当番医療機関に電話してから受診してください。

◎夜間急患診療所

名　　称	所　在　地	電話・FAX番号
那須地区夜間急患診療所	大田原市中田原1081-4	TEL　０２８７－４７－５６６３

※那須赤十字病院に併設されていますが、別の医療機関です。
※午後７時から午後９時３０分まで（受付時間：午後６時３０分から）

新型コロナウイルス感染症にかかる受診・相談センターについて
- 発熱等の症状がある場合は、まずは最寄りの医療機関に電話でご相談ください。
- 最寄りの医療機関に連絡できない場合は、受診ワクチン相談センターに連絡してください。TEL０５７０－０５２－０９２（２４時間対応）又は発熱等がある場合に対応可能な医療機関を調べて電話連絡してください。（※詳しくは栃木県ホームページをご覧ください。）

◎タクシー案内

名　　称	所　在　地	電話・FAX番号
山和タクシー	大田原市野崎2-1-4	TEL　０２８７－２９－３８３８

※タクシーをお呼びいただく場合は、会場指定のタクシー乗り場をご利用ください。
※配車可能時間等は事前にタクシー会社にお問い合わせください。

◎配宿・弁当・輸送

名　　称		所　在　地	電話・FAX番号
配　宿	いちご一会とちぎ国体 配宿センター	宇都宮市本町4-12 虎屋ビル４階	TEL　０２８－６１２－６３４０ FAX　０２８－６１５－７１８２
弁　当 ・ 輸　送	とちぎ国体大田原市 輸送センター	さいたま市大宮区桜木町4-333-13 名鉄観光サービス㈱さいたま支店内	TEL　０８０－１５５２－３１０２ TEL　０８０－１５５２－３３２５

スポーツ界における暴力行為根絶宣言

現代社会において、スポーツは「する」、「みる」、「支える」などの観点から、多くの人々に親しまれている。さらに21世紀のスポーツは、一層重要な使命を担っている。それは、人と人との絆を培うスポーツが、人種や思想、信条などの異なる人々が暮らす地域において、公正で豊かな生活の創造に貢献することである。また、身体活動の経験を通して共感の能力を育み、環境や他者への理解を深める機会を提供するスポーツは、環境と共生の時代を生きる現代社会において、私たちのライフスタイルの創造に大きく貢献することができる。さらに、フェアプレーの精神やヒューマニティーの尊重を根幹とするスポーツは、何よりも平和と友好に満ちた世界を築くことに強い力を発揮することができる。

しかしながら、我が国のスポーツ界においては、スポーツの価値を著しく冒瀆し、スポーツの使命を破壊する暴力行為が顕在化している現実がある。暴力行為がスポーツを行う者の人権を侵害し、スポーツ愛好者を減少させ、さらにはスポーツの透明性、公正さや公平をむしばむことは自明である。スポーツにおける暴力行為は、人間の尊厳を否定し、指導者とスポーツを行う者、スポーツを行う者相互の信頼関係を根こそぎ崩壊させ、スポーツそのものの存立を否定する、誠に恥ずべき行為である。

私たちの愛するスポーツを守り、これからのスポーツのあるべき姿を構築していくためには、スポーツ界における暴力行為を根絶しなければならない。指導者、スポーツを行う者、スポーツ団体及び組織は、スポーツの価値を守り、21世紀のスポーツの使命を果たすために、暴力行為根絶に対する大きな責務を負っている。このことに鑑み、スポーツ界における暴力行為根絶を以下のように宣言する。

1 指導者

●指導者は、スポーツが人間にとって貴重な文化であることを認識するとともに、暴力行為がスポーツの価値と相反し、人権の侵害であり、全ての人々の基本的権利であるスポーツを行う機会自体を奪うことを自覚する。

●指導者は、暴力行為による強制と服従では、優れた競技者や強いチームの育成が図れないことを認識し、暴力行為が指導における必要悪という誤った考えを捨て去る。

●指導者は、スポーツを行う者のニーズや資質を考慮し、スポーツを行う者自らが考え、判断することのできる能力の育成に努力し、信頼関係の下、常にスポーツを行う者とのコミュニケーションを図ることに努める。

●指導者は、スポーツを行う者の競技力向上のみならず、全人的な発育・発達を支え、21世紀におけるスポーツの使命を担う、フェアプレーの精神を備えたスポーツパーソンの育成に努める。

2 スポーツを行う者

●スポーツを行う者、とりわけアスリートは、スポーツの価値を自覚し、それを尊重し、表現することによって、人々に喜びや夢、感動を届ける自立的な存在であり、自らがスポーツという世界共通の人類の文化を体現する者であることを自覚する。

●スポーツを行う者は、いかなる暴力行為も行わず、また黙認せず、自己の尊厳を相手の尊重に委ねるフェアプレーの精神でスポーツ活動の場から暴力行為の根絶に努める。

3 スポーツ団体及び組織

●スポーツ団体及び組織は、スポーツの文化的価値や使命を認識し、スポーツを行う者の権利・利益の保護、さらには、心身の健全育成及び安全の確保に配慮しつつ、スポーツの推進に主体的に取り組む責務がある。そのため、スポーツにおける暴力行為が、スポーツを行う者の権利・利益の侵害であることを自覚する。

●スポーツ団体及び組織は、運営の透明性を確保し、ガバナンス強化に取り組むことによって暴力行為の根絶に努める。そのため、スポーツ団体や組織における暴力行為の実態把握や原因分析を行い、組織運営の在り方や暴力行為を根絶するためのガイドライン及び教育プログラム等の策定、相談窓口の設置などの体制を整備する。

スポーツは、青少年の教育、人々の心身の健康の保持増進や生きがいの創出、さらには地域の交流の促進など、人々が健康で文化的な生活を営む上で不可欠のものとなっている。また、オリンピック・パラリンピックに代表される世界的な競技大会の隆盛は、スポーツを通した国際平和や人々の交流の可能性を示している。さらに、オリンピック憲章では、スポーツを行うことは人権の一つであり、フェアプレーの精神に基づく相互理解を通して、いかなる暴力も認めないことが宣言されている。

しかしながら、我が国では、これまでスポーツ活動の場において、暴力行為が存在していた。時と場合によっては、暴力行為が暗黙裏に容認される傾向が存在していたことも否定できない。これまでのスポーツ指導で、ともすれば厳しい指導の下暴力行為が行われていたという事実を真摯に受け止め、指導者はスポーツを行う者の主体的な活動を後押しする重要性を認識し、提示したトレーニング方法が、どのような目的を持ち、どのような効果をもたらすのかについて十分に説明し、スポーツを行う者が自主的にスポーツに取り組めるよう努めなければならない。

したがって、本宣言を通して、我が国の指導者、スポーツを行う者、スポーツ団体及び組織が一体となって、改めて、暴力行為根絶に向けて取り組む必要がある。

スポーツの未来を担うのは、現代を生きる私たちである。こうした自覚の下にスポーツに携わる者は、スポーツの持つ価値を著しく侵害する暴力行為を根絶し、世界共通の人類の文化であるスポーツの伝道者となることが求められる。

※一部抜粋

※本宣言は、平成25（2013）年4月25日、日本スポーツ協会（当時、日本体育協会）、日本オリンピック委員会、日本障がい者スポーツ協会、全国高等学校体育連盟および日本中学校体育連盟の5団体の呼びかけにより開催された「スポーツ界における暴力行為根絶に向けた集い」において、参加したスポーツ関係者の満場一致で採択されたものです。

暴力行為根絶に向けたスローガン「暴力0（ゼロ）心でつなぐスポーツの絆」

スポーツ界における暴力行為等の根絶

JSPOでは、スポーツ界における暴力行為等の根絶に向けて、さまざまな取り組みを行っています。

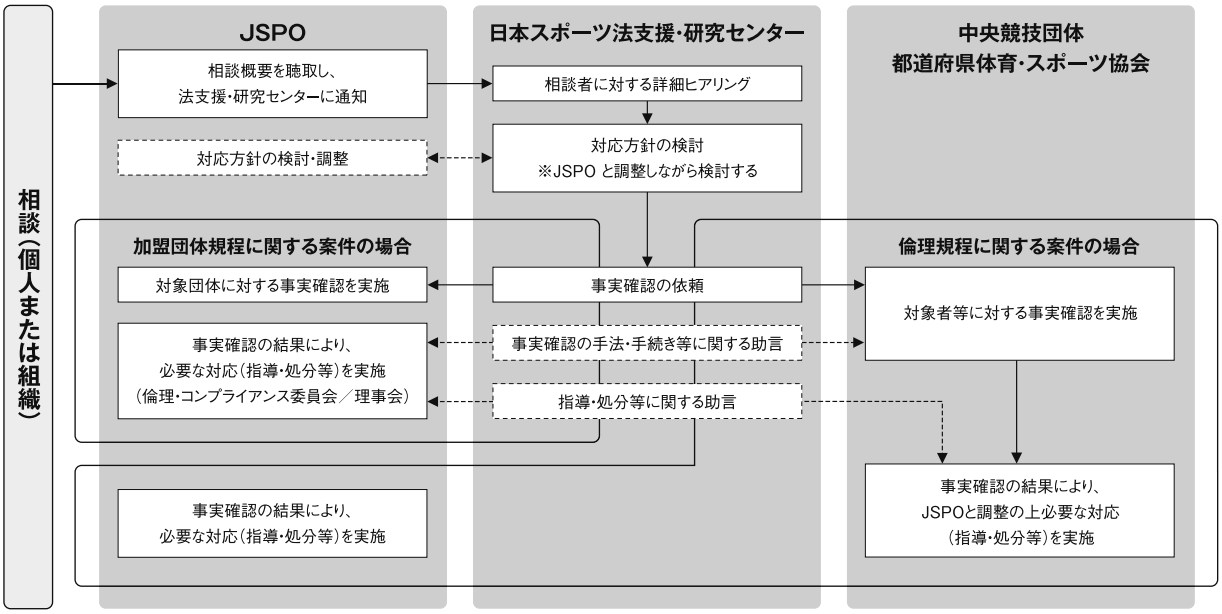
「スポーツにおける暴力行為等相談窓口」を設置

JSPOでは、スポーツにおける暴力行為等に関する相談に対応するため、「スポーツにおける暴力行為等相談窓口」を設置しています。本窓口では、一般社団法人日本スポーツ法支援・研究センターおよびJSPO加盟団体との連携により、皆さまからの相談に対し、専門の相談員が相談を受けます（※）。

また、必要な事案については事実確認を行い、暴力行為等が明らかになった場合は、必要な対応（指導・処分等）を行います。

※相談内容によってはJSPO内で対応する場合もあります。また、窓口の取り扱い範囲以外の相談については別の窓口を紹介させていただきます。

いずれの規程に該当する案件かによって、下図の流れで対応を行う。



JSPO事業概要パンフレット「スポーツと、望む未来へ。」を公開中

日本スポーツ協会（JSPO）の事業概要を紹介するパンフレットを公式ホームページで公開しています。JSPOでは各種取り組みを通じて、人種、国籍、性別、障がいや疾病の有無などにかかわらず、誰もがスポーツに親しめるように、またライフステージに応じたその時々の興味関心に合わせて、さまざまなスポーツに多様な関わり方ができるように、スポーツを「する」「みる」「ささえる」ための環境整備を行っています。JSPOのさまざまな取り組みを紹介し、より多くの方々に、これまで以上にスポーツを身近に感じ親しんでいただきたいという想いから、このパンフレットを作成しました。ぜひご覧ください。また、興味を抱かれた取り組み等がありましたら、ぜひ身近な方にもご紹介ください。

■JSPO事業概要パンフレット「スポーツと、望む未来へ。」





▼データはこちら
https://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/koho_kyanpen/doc/JSPO_outline.pdf



挑戦者たちは越えようとする。
記録を。ライバルを。自分自身を。
過去の常識も。世界の価値観さえも。
挑戦者たちこそあたらしい未来への原動力だ。
これまでも、そしてこれからも、
わたしたちは挑戦する人たちを応援します。
スポーツの持つ様々な可能性で、
望む未来へたどり着くために。

JSPO
Japan Sport Association

スポーツと、望む未来へ。

わたしたちは、いちご一会とちぎ国体を応援しています

asics　大塚製薬　Mizuno　三井住友海上　時事通信　セレスポ　ALSOK 北関東綜合警備保障

TKC　足利銀行　フタバ食品株式会社　栃木銀行　下野新聞社　細井産業株式会社　100

ヨークベニマル　関東自動車　KSK環境整備　NSK ナカニシ　Dexerials

アスリートとサポートスタッフのみなさんへ。

なぜ、私たちにとって、アンチ・ドーピングの
知識や活動が必要なのでしょうか？

アンチ・ドーピングは、たんに
「不正する人を見つけ、不当な勝利を防ぐ」ための活動ではありません。

アンチ・ドーピングは、スポーツを成り立たせている
「みんながフェアであること」を守るためにあります。
全員がフェアでなければ、そもそもスポーツは成り立たない。
すべての人が、スポーツに参加し、公平に競い合うことができる。
その権利を守るために、アンチ・ドーピング活動があります。

そして、もうひとつ。アンチ・ドーピングは、
「スポーツが生み出す価値」を守るためにあります。
挑戦する心、相手へのリスペクト、そこから生まれる友情、
そんな、社会にとっても大切な価値を守るためにあります。

フェアであることを守り、スポーツの価値を守る。
そのいちばん中心となるのが、アスリートとサポートスタッフのみなさんです。
みなさんが、フェアであることをつねに誇りに思い、
その大切さを、世の中に示すこと。
それこそが、スポーツの発展を支え、よりよい社会をつくる力になります。

フェアであることの誇りを胸に、すばらしいスポーツの価値を、
ともに広めていきましょう。

FAIR PRIDE

勝利を超える価値がある

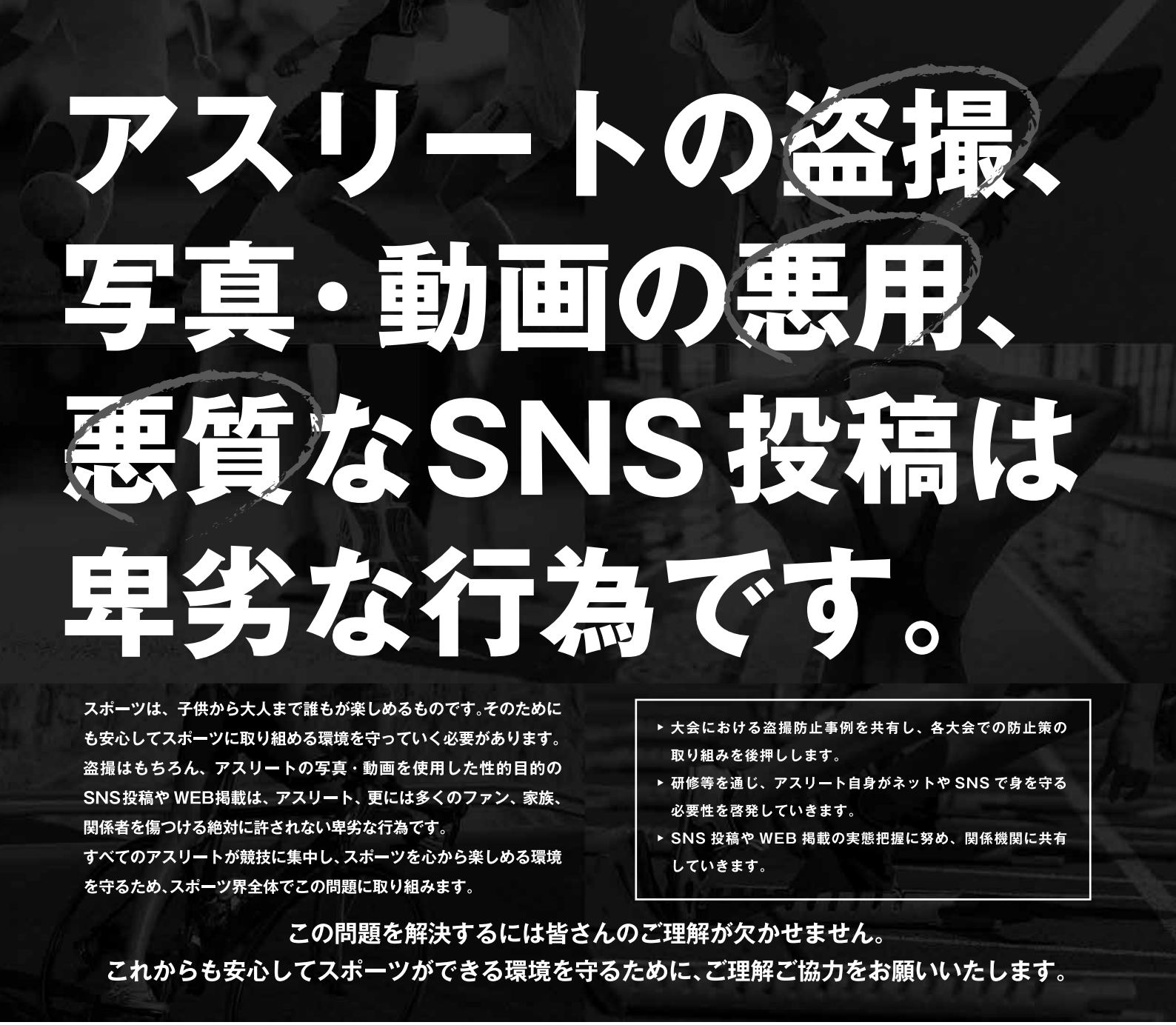
スポーツのフェアネスが、社会のフェアネスを支えるために。

JADA PLAY TRUE Japan Anti-Doping Agency

いちご一会とちぎ国体 第77回国民体育大会 夢を感動へ。感動を未来へ。2022

公益財団法人 日本アンチ・ドーピング機構

Copyright © JAPAN Anti-Doping Agency All Rights Reserved.



アスリートの盗撮、写真・動画の悪用、悪質なSNS投稿は卑劣な行為です。

スポーツは、子供から大人まで誰もが楽しめるものです。そのためにも安心してスポーツに取り組める環境を守っていく必要があります。
盗撮はもちろん、アスリートの写真・動画を使用した性的目的のSNS投稿やWEB掲載は、アスリート、更には多くのファン、家族、関係者を傷つける絶対に許されない卑劣な行為です。
すべてのアスリートが競技に集中し、スポーツを心から楽しめる環境を守るため、スポーツ界全体でこの問題に取り組みます。

- 大会における盗撮防止事例を共有し、各大会での防止策の取り組みを後押しします。
- 研修等を通じ、アスリート自身がネットやSNSで身を守る必要性を啓発していきます。
- SNS投稿やWEB掲載の実態把握に努め、関係機関に共有していきます。

この問題を解決するには皆さんのご理解が欠かせません。
これからも安心してスポーツができる環境を守るために、ご理解ご協力をお願いいたします。

安全な環境を、すべてのスポーツ愛好者のために。

SAVE ATHLETES, SAVE SPORT.

大会会場で盗撮等が疑われる行為を見かけましたら大会主催者にお知らせください。

アスリートを傷つける性的目的のSNS投稿やWEB掲載を見かけましたら下記サイトよりご連絡ください。
今後の対応に活用するとともに、悪質な事例については当局への通報も検討します。

https://www.joc.or.jp/about/savesport/

- **盗撮は迷惑防止条例で犯罪として処罰される可能性があります。**
- **SNS等で本人の名誉を傷つける書き込みは犯罪（名誉毀損罪）として処罰される可能性があります。**
- **匿名による投稿であっても、法的手続により、投稿者が特定され、損害賠償請求の対象になる可能性があります。**

公益財団法人 日本オリンピック委員会　公益財団法人 日本スポーツ協会　公益財団法人 日本障がい者スポーツ協会　一般社団法人 大学スポーツ協会
公益財団法人 全国高等学校体育連盟　公益財団法人 日本中学校体育連盟　独立行政法人 日本スポーツ振興センター

JSPO
Japan Sport Association
スポーツと、望む未来へ。
You are the future of sport.

あなたの行為、大丈夫？

クラブ活動をはじめとした**スポーツ現場**での**ハラスメント根絶**を目的に
ハラスメントの**基本的な考え方**から**事例・対策方法**などを
アニメーションで**わかりやすく解説**
みなさまぜひご視聴ください！



研修資料にもおすすめ◎

内容

- ch1.ハラスメントの考え方
- ch2.暴力
- ch3.暴言
- ch4.セクシュアルハラスメント_ジェンダーハラスメント
- ch5.パワーハラスメント
- ch6.差別的な対応
- ch7.性的マイノリティを取り巻く問題
- ch8.ハラスメント防止のために

動画はこちら↓

JSPO ハラスメント 検索

制作：公益財団法人日本スポーツ協会　女性スポーツ委員会



いちご一会とちぎ国体 第77回 国民体育大会 2022 の大田原市開催競技にご参加の皆さん頑張ってください！

いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会大田原市実行委員会 協賛企業・団体、協力者一覧

■協賛企業・団体等

（50 音順・敬称略）

(株)アドトップ	雲巌寺	(有)大島くじや
NPO法人大田原市スポーツ協会	大田原とうがらしの郷づくり推進協議会	(株)大田原塗装
(株)サイエンスアーツ	栃木トヨペット(株)	那須野三菱自動車販売(株)
(株)奈良スポーツ	日産プリンス栃木販売㈱	(有)プランニングオフィスワン
道の駅那須与一の郷よいち産直会	やみぞあづまっぺ協議会	吉岡食品工業(株)

■花いっぱい運動（育成）、手作り応援のぼり旗制作、PRのぼり旗設置協力

（以降順不同・敬称略）

大田原小学校	西原小学校	紫塚小学校	親園小学校	宇田川小学校
市野沢小学校	奥沢小学校	金丸小学校	羽田小学校	薄葉小学校
石上小学校	佐久山小学校	佐良土小学校	湯津上小学校	蛭田小学校
川西小学校	黒羽小学校	須賀川小学校	両郷中央小学校	大田原中学校
若草中学校	親園中学校	金田北中学校	金田南中学校	野崎中学校
湯津上中学校	黒羽中学校			

■ＰＲのぼり旗設置協力

足利銀行大田原支店	栃木銀行大田原支店	大田原信用金庫本店
那須信用組合大田原支店	烏山信用金庫黒羽支店	白河信用金庫大田原支店

■ＰＲのぼり旗、ＰＲマグネット設置協力

大田原郵便局　　大田原市観光協会

■カウントダウンボード制作協力

那須清峰高等学校

■参加者記念品（タオル：題字）制作協力

大田原女子高等学校

■クリーンアップ運動協力

西原自治会　　原町自治会

■応援メッセージ協力

大田原市民の皆さん



働き方を変えよう。buddycom で話せばみんなに伝わる。

▼ 通話ボタンを押すだけでグループ内へ情報を一斉送信 ▼

グループ通話



ユーザー数、グループ数は無制限

1グループあたり、2,000ユーザー同時発信を検証済み

操作は簡単
通話ボタンを押すだけ

単方向通話 動画で紹介

双方向通話 動画で紹介

ライブキャスト



リアルタイムに即時の映像共有が可能

現場での異常検知時、業務の遠隔支援に最適

ライブ映像は自動録画

映像の配信と同時に話すことも可能

動画で紹介

国内特許
取得済
米国特許申請中

チャット/音声テキスト化

国内特許
取得済
米国特許申請中

音声がリアルタイムに文字化、聞き逃した指示も後から目で確認

会話が録音、通話履歴の再生が可能 ※1



動画で紹介

トランシーバー翻訳

国内特許
取得済
米国特許申請中

通話内容がリアルタイムに翻訳、再生

18言語に対応 ※2
(1グループ内で複数の言語を設定可能)



動画で紹介

MAP通話

Map上で自由な縮尺で範囲を指定、その範囲内のメンバーとのみの会話が可能



動画で紹介

※1 クラウドサーバーに保存。
※2 日本語、英語、中国語（簡体字）、中国語（繁体字）、タイ語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、イタリア語、ポルトガル語、ロシア語、韓国語、インドネシア語、フィンランド語、ベトナム語、オランダ語、ポーランド語、ウクライナ語。　端末によって読み上げに対応していない言語があります。

多彩なアクセサリ連携

無線機・トランシーバー・インカムのように利用可能なオススメ周辺機器



動画で紹介

デスクレスワーカーをつなげる
ライブコミュニケーションプラットフォーム

buddycom

バディコム

時代の変化と共にイベント総合プロデュース企業として常に新しく
全ての人にやさしく、記憶に残るイベント会場をご提案いたします


全国高等学校総合体育大会なぎなた競技


国民体育大会ソフトボール競技


沖縄国際洋蘭博覧会



出雲大社 平成の大遷宮


国民体育大会剣道競技


全国育樹祭


ねんりんピックゲートボール競技


国民体育大会空手道競技


全国高等学校総合体育大会相撲競技

DAIWA ACT

http://www.daiwa-act.com

info@daiwa-act.com

人と自然との豊かな共生をめざします

大和産業株式会社

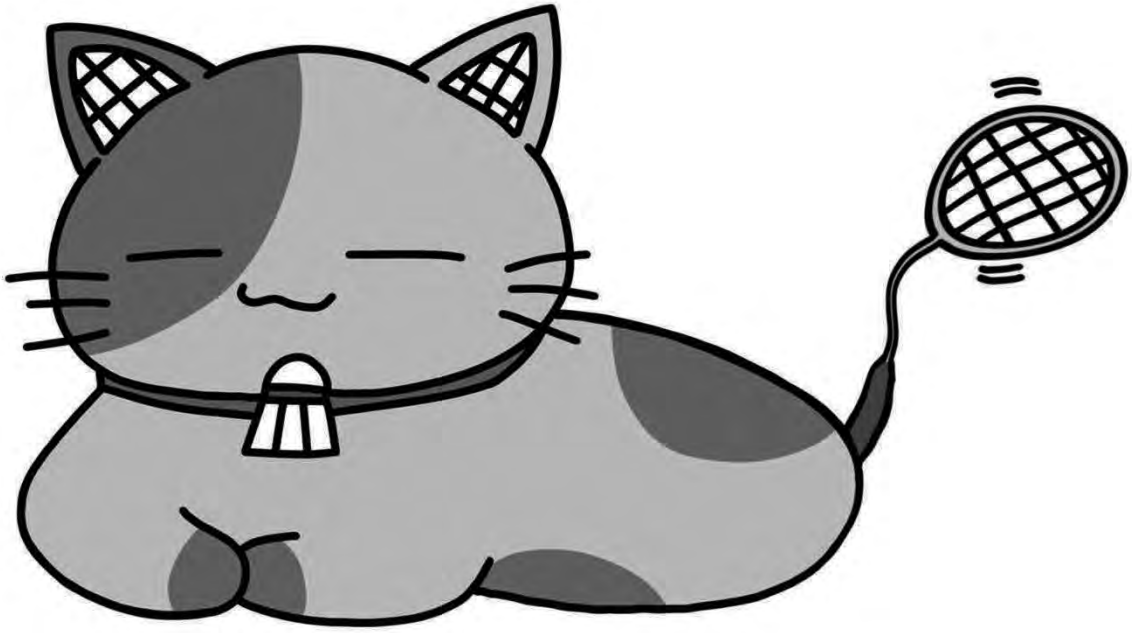
一級建築士事務所　イベント総合プロデュース

栃木営業所　栃木県那須塩原市三島３丁目126-8
TEL/0287-47-6715　FAX/0287-47-6716

本　社　佐賀県佐賀市高木瀬西１丁目５番19号

●東京営業所●福岡営業所●長崎営業所●大分出張所●鹿児島営業所●滋賀営業所
●仙台営業所 ●流通センター ●関西地区流通センター ●関東地区流通センター

スタッフ一同　心よりお待ちしています



毎日がイベントデー

RACKETSHOP East

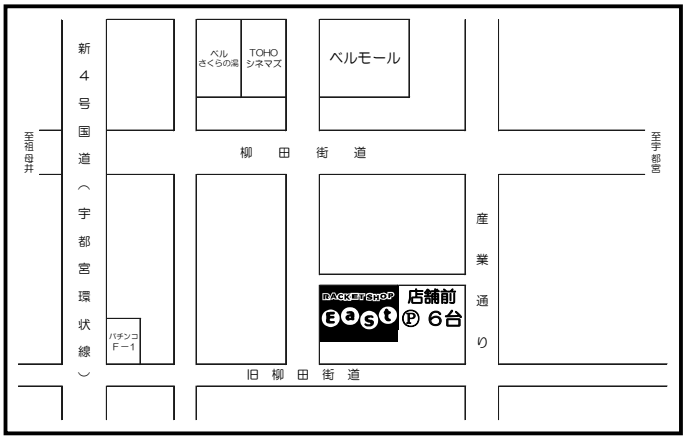
株式会社ラケットショップイースト

〒321-0904
宇都宮市陽東５－２－１２
TEL　０２８－６１６－２０７０㈹
FAX　０２８－６１６－２０７１

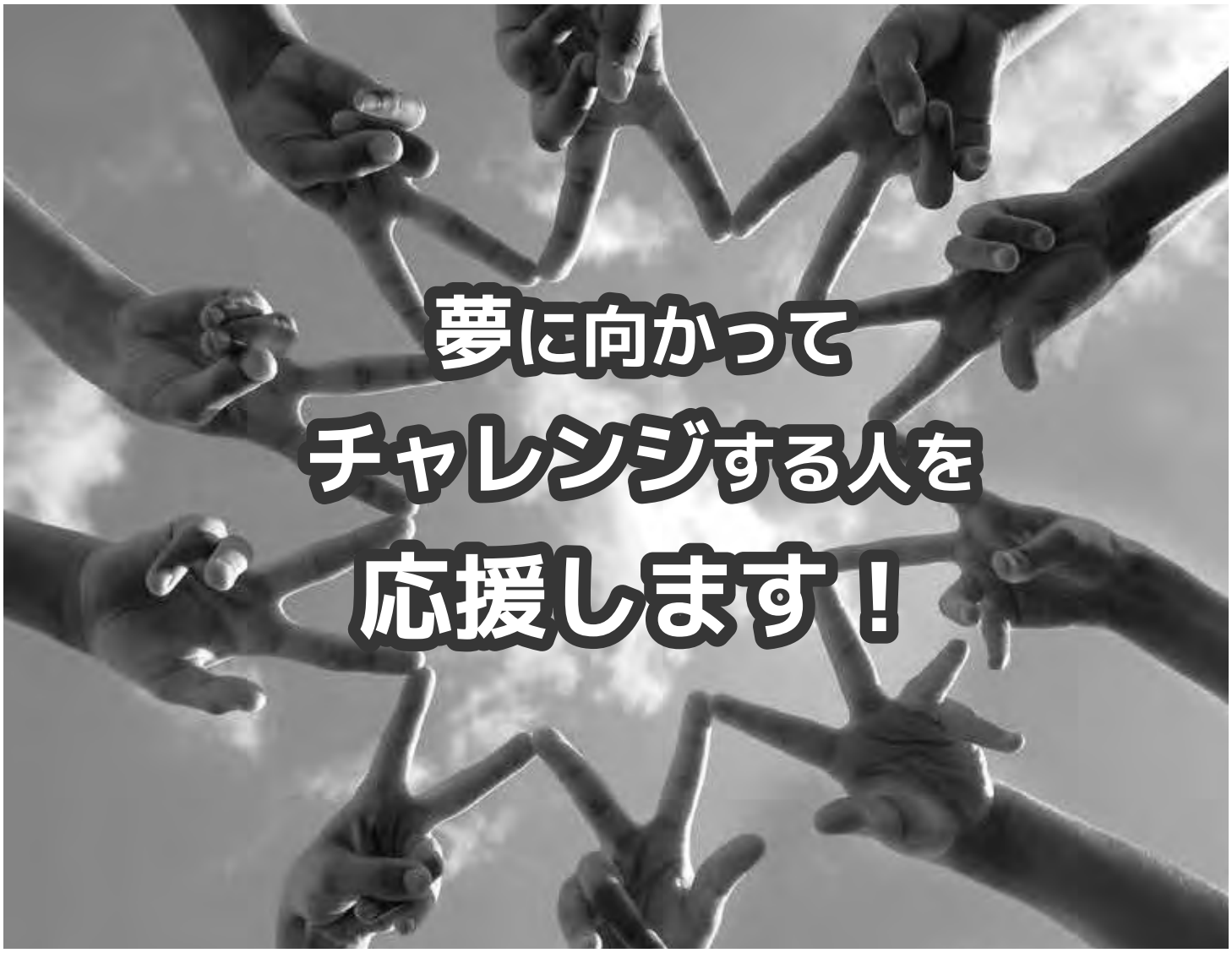
営業時間　10:00～19:00(月曜定休)

※月曜が祝祭日の場合は営業いたします。

http://racketshop-east.jimdo.com/



祈健闘



SCHOOL TRAINING WEAR NIKKO

株式会社ニッコー

〒371-0801 前橋市文京町4丁目22-23
TEL.027-224-2688㈹ / FAX.027-223-1067
E-mail info@trainingwear-nikko.co.jp



AKASHI
School Uniform
Company

株式会社 明石スクールユニフォームカンパニー
宇都宮営業所／〒321-0921 栃木県宇都宮市瑞穂1丁目16-1
TEL：028-657-5030 FAX：028-656-8808 URL：www.akashi-suc.jp

歓迎

第77回国民体育大会
「いちご一会とちぎ国体」バドミントン競技

皆様のご健闘をお祈りいたします！



栃木県バドミントン協会

会　長　　森　田　　昇

栃木県実業団バドミントン連盟
栃木県社会人クラブバドミントン連盟
栃木県レディースバドミントン連盟
栃木県教職員バドミントン連盟
栃木県学生バドミントン連盟
栃木県高等学校体育連盟バドミントン専門部
栃木県中学校体育連盟バドミントン専門部
栃木県小学生バドミントン連盟

Tochigi

アスリートを強力にサポート！！

cure 治療 → care 予防

時代は"u"から"a"へ

家庭用低周波治療器
サン マッサーポット77



認証番号:302AKBZX00059000

丸菱産業株式会社 東京支店




頑張るあなたに健康サポート

★適応症
・肩こりの緩解　・マッサージ効果
・麻痺した筋肉の萎縮の予防
★特徴
・温熱導子で暖めながら２箇所同時に治療
・ガイダンス機能で簡単操作
・マイコン内蔵により、肩、ひざ、腰、背、腕・脚、足底、背・腰、棒型のプログラム治療ができます。

〒162-0063 東京都新宿区市谷薬王寺町 58-402
TEL03-3513-7756　FAX　03-3513-7897
URL http://www.marubishi.com

頑張れ、栃木県！
選手の皆さんのご健闘をお祈りいたします。

ラケットショップイースト大田原・大田原ジュニアバドミントンクラブ保護者一同

TOCHIGI BADMINTON ASSOCIATION

GOSEN®

THE MATT BLACK & RED

INFERNO® SMART　　INFERNO RAID



スマート
洗練
SMART

レイド
強襲
RAID

特設サイト
詳しい情報はコチラから▶
http://www.gosen-sp.jp/inferno_sm-rd/

株式会社ゴーセン
会社情報はコチラから▶
www.gosen-sp.jp

MIZUNO REACH BEYOND

二刀流
NITO RYU



奥原希望選手
（太陽ホールディングス）

FEELS or FEEL

目の前にある環境に、ベストへの選択。

奥原希望選手（太陽ホールディングス）の要望を基に、ミズノが提案する二刀流※。

気温や会場の高度などにより、シャトルの飛びが変化するバドミントン競技において、それに合わせ、2つのラケットを使いわける考え方。

プレイヤー自身で状況に適応するだけでなく、ラケットを変えることで今の状況に更に対応しやすくするための新たなラケットの選択です。シャトルコントロールのFEELに、操作性を高めたFEELSを新たにラインアップ。

新たなスタンダードで勝ちをつかみ取れ。

ALTIUS 01 FEELS NEW

Made in Japan | トルクレベル T8 | 4U5(約83g) |
73JTB11026 ¥27,500(本体価格:¥25,000)

ヘッドヘビー ヘッドライト

全長9mmSHORT

ALTIUS 01 FEEL

Made in Japan | トルクレベル T8 | 3U5(約88g) |
73JTB90101 ¥27,500(本体価格:¥25,000)

ヘッドヘビー ヘッドライト

詳しくはこちら

mizuno.jp 0120-320-799 ※コート内ではラケットのどちらか1本の使用となります。

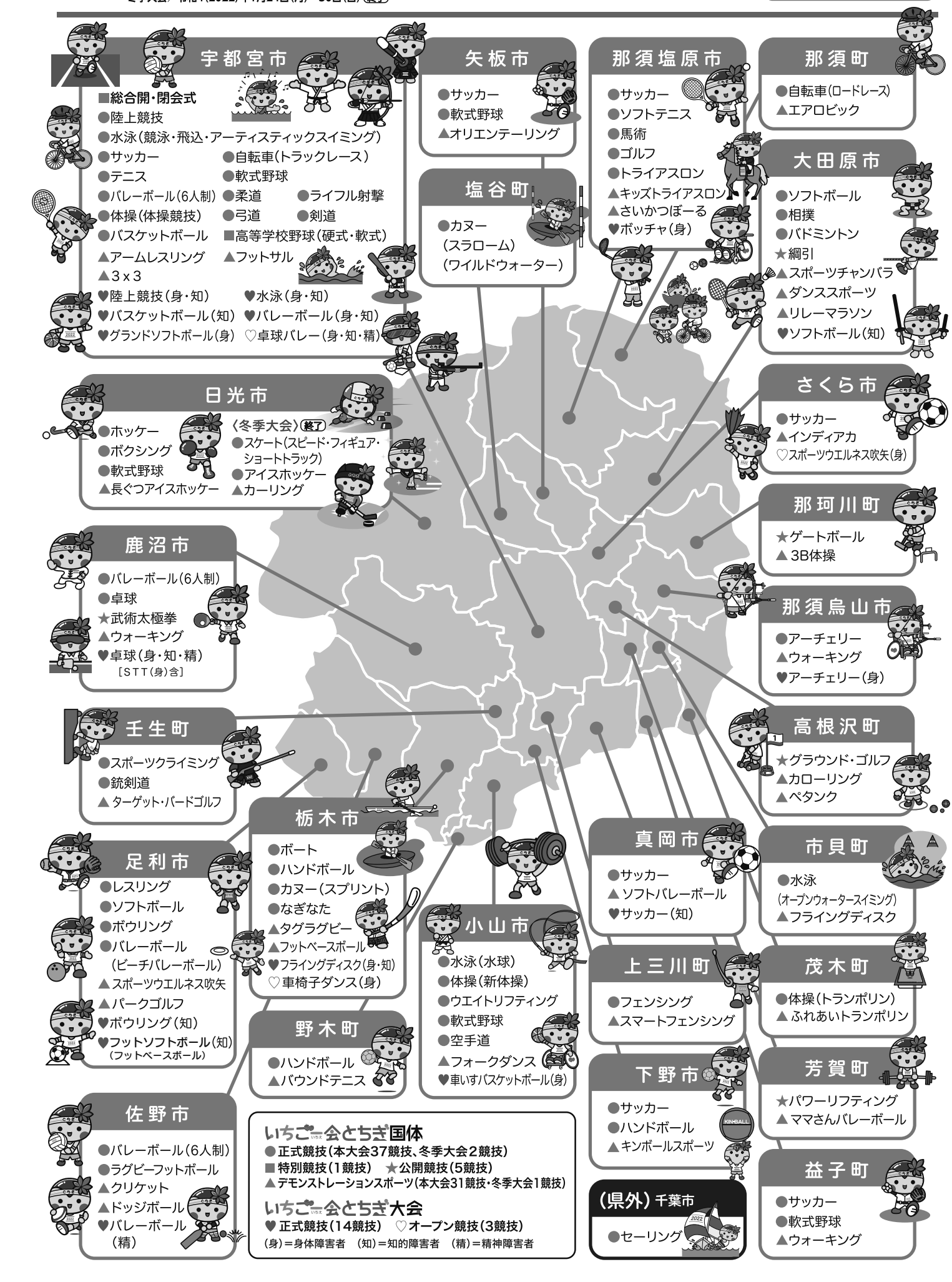
MIZUNO BADMINTON

いちご一会とちぎ国体 いちご一会とちぎ大会

会場マップ

第77回 国民体育大会 本大会／令和4(2022)年10月1日(土)～11日(火)
冬季大会／令和4(2022)年1月24日(月)～30日(日) 終了

第22回 全国障害者スポーツ大会 令和4(2022)年10月29日(土)～31日(月)



ホームページ等のご案内

いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会 ホームページ

https://www.tochigikokutai2022.jp/

2022とちぎ国体　検索

いちご一会とちぎ国体正式・特別競技 成績速報・結果ページ

PC・スマホ：https://kirokukensaku.net/5NS22/index.html

ガラケー：http://kirokukensaku.net/5NS22/mob/index.html

※開設期間：Ｒ４年９月１日～

問合せ窓口

電話番号：０５７０－０２３－２３０

案内期間：令和４(2022)年10月31日(月)まで　9:00～18:00

※土、日、祝日を除く（ただし、9月10日(土)～10月31日(月)までは毎日開設）

※ただし、10月11日(火)（国体総合閉会式）は7:00～18:00

10月29日(土)（大会開会式）は6:30～18:00

国体チャンネル

https://japangamestv.japan-sports.or.jp/

いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会における

新型コロナウイルス感染症 感染防止対策

https://www.tochigikokutai2022.jp/infection-control/

【スコア配信】BIRD SCORE

https://www.birdscore.live/web/tochigikokutai2022-badminton/

いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会大田原市実行委員会

●HP

https://ohtawara-tochigikokutai.jp/index.html

●Twitter

https://twitter.com/kokutaiohtawara

●Instagram

https://www.instagram.com/kokutaiohtawara/

●Facebook

https://www.facebook.com/kokutaiohtawara

いちご一会とちぎ国体

第77回 国民体育大会 夢を感動へ。感動を未来へ。2022



かごしま国体マスコットキャラクター
「ぐりぶー」



いぶすきし
来年は鹿児島県指宿市でお会いしましょう！

HOLD FOR FLIGHT



NEW ARCSABER 7

［アークセイバー7プロ］グレー / イエロー　¥26,440（税込）　日本製

www.yonex.co.jp　YONEXJPN　yonex_jp　yonex_jp　YONEX JAPAN

YONEX

far beyond ordinary